



CE 9.8

Cisco Webex Room シリーズ ユーザ ガイド
Touch10 を使用するシステム

内容

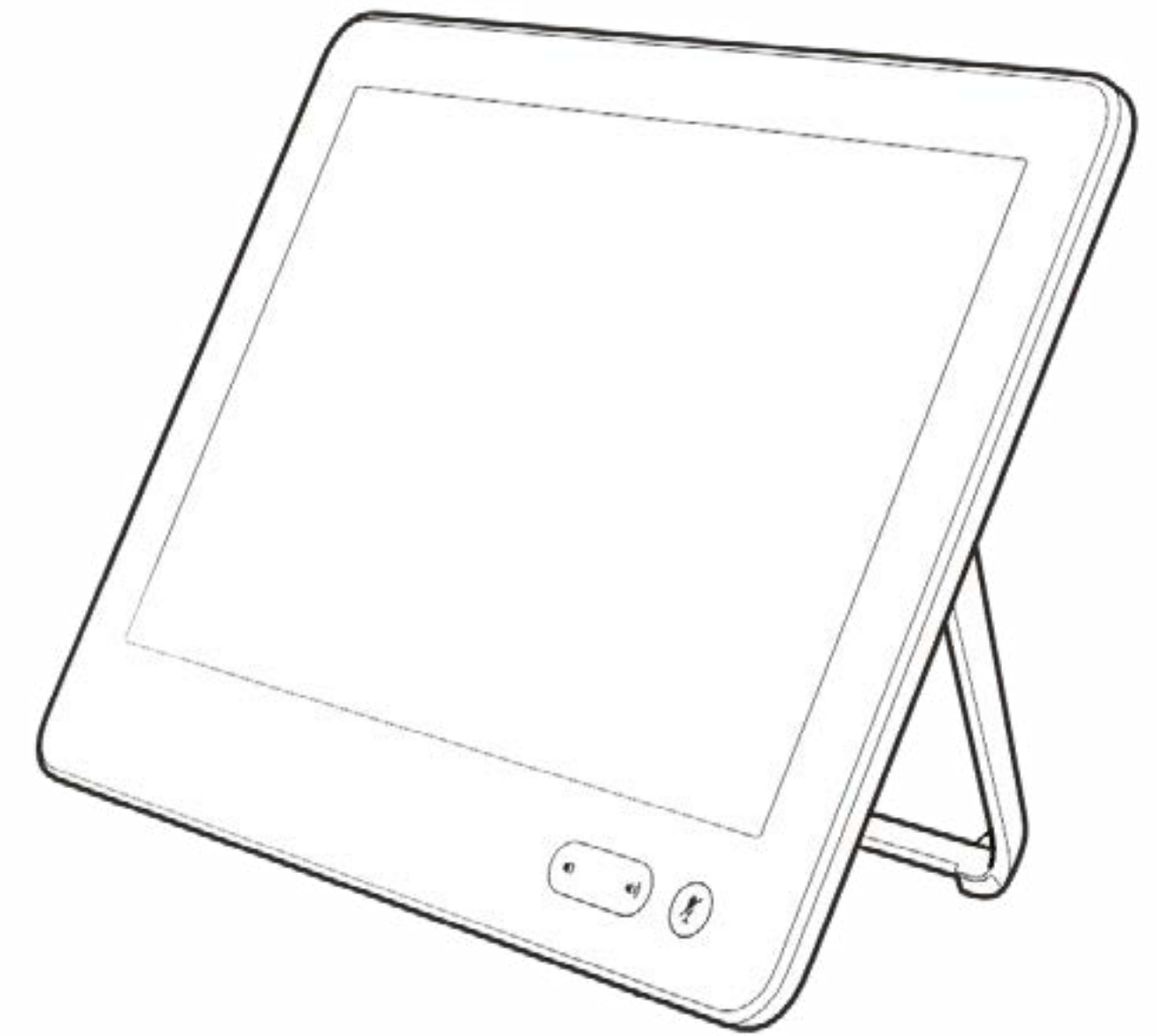
このユーザ ガイドの内容

この目次のすべての項目はハイパーリンクになっており、該当記事に移動できます。

章間で移動するには、サイドバーのアイコンをクリックしてください。

注意 このユーザ ガイドで説明する機能の一部はオプションであるため、ご使用のシステムには存在しない場合があります。

ビデオ会議:概要		カメラ	
ベスト プラクティス	4	カメラ設定を表示する	35
その他のヒント	4	カメラ操作について	35
資格情報を使用してログオンする	5	カメラ位置プリセットを追加する	36
エクステンション モビリティについて	5	カメラのプリセットについて	36
Room Kit Mini を USB カメラとして使用する	6	カメラ位置プリセットの編集	37
ビデオ通話		プリセットの編集について	37
連絡先リストから発信する	8	Camera のオン/オフを切り替える NEW	38
連絡先リストについて	8	ビデオ オフについて	38
発信する前に連絡先を編集する	9	スピーカートラッキング	39
エントリ編集について	9	スピーカートラッキングについて	39
名前、電話番号、または IP アドレスを使用して発信する	10	プレゼンタートラッキング	40
発信について	10	プレゼンタートラッキングについて	40
受信 - 非通話時	11	自分のカメラを操作する	41
着信があった場合	11	プリセットの編集について	41
通話中に別の通話に応答する	12	自画面の管理	42
着信があった場合	12	プリセットの編集について	42
通話の切断	13	セルフビュー PiP のサイズを変更する	43
切断について	13	自画面のサイズを変更する理由	43
通話を保留にする/保留中の通話を再開する	14	自画面 PiP の移動	44
保留について	14	セルフビューを移動する理由	44
継続中のコールを転送する	15	遠端カメラ制御	45
転送について	15	カメラ操作について	45
応答不可を有効にする	16	設定	
応答不可について	16	設定にアクセスする	47
すべての通話の自動転送	17	バージョン情報管理	47
通話の転送について	17		
通話中にキーパッドを表示する	18		
		通話中のキーパッドの使用	18
		既存の通話に参加者をさらに追加する	19
		ビデオ会議について	19
		会議から参加者を切断する	20
		ビデオ会議について	20
		インテリジェント近接通信	
		Cisco Proximity の超音波信号について	22
		近接通信について	22
		コンテンツ共有	
		通話中にコンテンツを共有する	24
		コンテンツ共有について	24
		非通話時にコンテンツを共有する	25
		ローカル コンテンツの共有	25
		通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更	26
		プレゼンテーション レイアウトについて	26
		スケジュールされた会議	
		スケジュールされた会議に参加する	28
		会議への入室	28
		コンタクト	
		お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ	30
		連絡先リストについて	30
		通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する	31
		お気に入りについて	31
		誰かを非通話時にお気に入りに追加する	32
		この機能について	32
		既存のお気に入りを編集する NEW	33
		この機能について	33



ビデオ会議: 概要

ベスト プラクティス

効果的なビデオ会議では、出席者の距離がどれだけ離れていても、フェイスツーフェイスの会議を行えます。ビデオ会議であっても、会議であることには変わりありません。通常のマナーや、服装を心がけるようにしてください。

会議室内

- すべての発表の音声が拾われるよう、マイクをテーブルの前方に設置してください。システムの正面から 2 m (6.5 フィート) 以上離し、テーブルの正面からは 30 cm (1 フィート) 以上離します。平らな面に設置してください。
- 指示用のマイクは、ビデオ システムから離れた場所に向ける必要があります。
- マイクは、常に見える場所に置いておくようにしておきます。
- マイクは、テーブルに置かれたコンピュータやプロジェクタのファンなど、ノイズ源から常に離れた場所に置いてください。これらのノイズ源からの雑音は、遠隔地の出席者には、予想以上に大きく聞こえます。

- ドキュメント カメラまたはホワイトボード カメラを使用する場合は、カメラが会議のリーダーの近くになるよう、または指定したコントローラの近くになるように参加者を整列させてください。
- ホワイトボードを使用している場合は、専用のホワイトボード カメラだけでなくメイン カメラからホワイトボードが見えた方が、リモートの参加者は、よりよい会議であると感じられます。通常、放送会社はこのようにして、プレゼンターが本当に同じ部屋にいることを視聴者に見せます。
- すべてのペリフェラルは、1 人の出席者が手を伸ばして、会議の最中にポイント、ディスプレイ変更、記録などの操作を行える場所に置いてください。
- 最も自然な会議環境を確保するために、可能であれば、受信モニタの上部中央にカメラを置いてください。遠くにいる会議の相手とアイ コントクトを行えるよう、カメラは、会議出席者に直接向ける必要があります。ビデオ システムのセルフビュー機能を使用して確認してください。セルフビューは、遠隔地の出席者に表示される映像を、自分のシステム (発信ビデオ) に表示します。
- コンテンツを共有する場合は、通常はデュオ ビデオを使用します。つまり、2 本のVideoStreamを使用します。1 本はプレゼンテーション用、もう 1 本は発表者 (または発表者グループ) 用です。小規模のシステムの場合、プレゼンテーションと発表者のどちらを表示するかを選択しなければならないことがあります。

その他のヒント

カメラのプリセットの使用

Cisco TelePresence システムでは、ズームおよびカメラの向き (パンおよび傾き) を事前に定義できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。カメラトラッキング機能付きのシステムではこの操作は不要です。

スピーカーのボリューム

オーディオ システムでは、モニタに内蔵されたスピーカか、Cisco Digital Natural Audio Module を使用します。

システムによっては、モニタのリモートを使用してボリュームを調整し、デフォルトのボリュームを設定できます。

明るさのコントロール

モニタの明るさや色などの設定を調整するには、モニタのリモート コントロールを使用してください。会議室の条件に合わせて、モニタを調整してください。シスコのモニタには、非常に簡単に使用できる、画面上のメニューがあります。モニタの設定方法の詳細については、ユーザ ガイドおよび管理マニュアルを参照してください。

資格情報を使用してログオンする

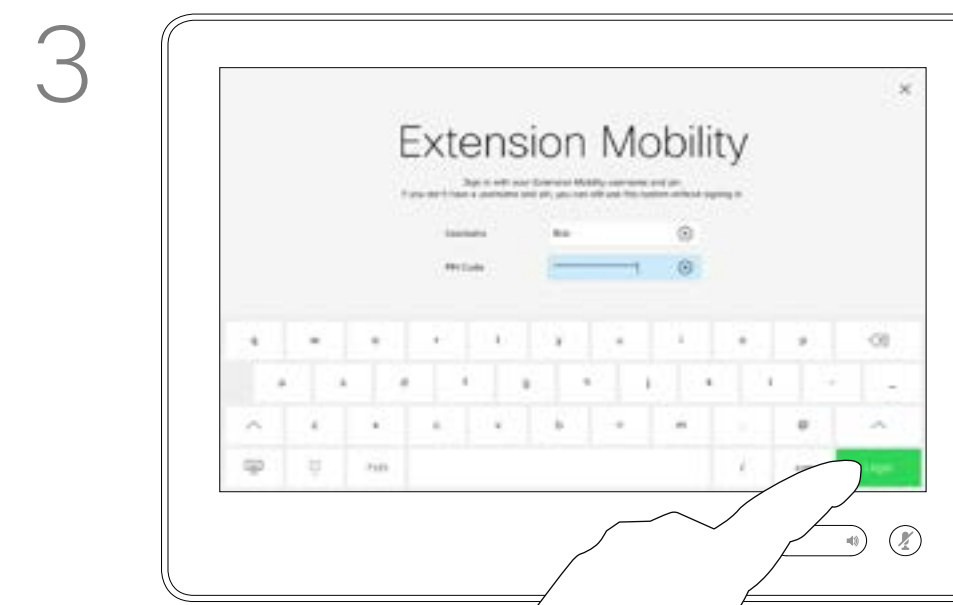


1 エクステンション モビリティ対応システムには、追加のボタンがあり、自分の資格情報を使用してシステムにサインインできます。

[エクステンション モビリティ(**Extension Mobility**)] ボタンをタップします。



2 ユーザ名と PIN コードを入力します。



3 図のように [ログイン(**Login**)] をタップします。



4 サインアウトするには、[サインアウト(**Sign out**)] をタップします。

会議室や静音室に設置されているビデオ システム、および CUCM(Cisco Unified Communications Manager) で管理されているビデオ システムでは、ユーザ個人の資格情報を使用してビデオ システムにログインすることができます。

CUCM は、自分に対する着信コールを特定のビデオ システムにルーティングします。

エクステンション モビリティからログアウトすると、[発着信履歴(Recents)] の一覧がシステムからクリアされます。

エクステンション モビリティはホットデスクングとも呼ばれます。

Room Kit Mini を USB カメラとして使用する

Cisco Webex Room Kit Mini は、USB カメラとしても使用できます。

Room Kit Mini を Cisco に登録していない場合は、他の USB カメラとして使用できます。

[Cisco] と共に Room Kit Mini を登録している場合は、USB カメラとしても使用できますが、次のことを確認してください。

- ・ ソフトウェアクライアントがカメラの使用を開始したときで、ケーブルが接続されていない場合は、Room Kit mini が [応答不可 (DND)] モードになります。新規
- ・ これにより、専用のコンピュータが常時ミニに接続されている場合でも、通常の Cisco のコールには Room Kit Mini を使用することができます。

Room Kit Mini を USB カメラとして使用するには、コンピュータと Room Kit Mini の USB-C ソケットを USB ケーブルで接続します。

この設定では Room Kit Mini のマイクとスピーカーを使用して素晴らしいサウンド体験を実現します。

このセットアップで外部モニタを含むように設定を拡張する場合は、通常の方法でコンピュータをモニタに接続します。

カメラコントロールは Room Kit Mini の Touch 10 から完全にアクセス可能です。

Cisco 登録の Room Kit Mini では無効にできない [応答不可 (Do Not Disturb)] を除いて、その他のデバイス設定にも完全にアクセスできます。

登録時に USB カメラとして使用

サードパーティのクライアントを使用して電話をかける場合、カメラ、マイク、およびスピーカーは OS/アプリケーションのデフォルトに基づいて選択されます。これらの設定は上書きできます。

カメラは Touch 10 から制御されます。

プライバシーを維持するため、カメラがアクティブになっているときはいつでもカメラのライトインジケータが点灯します。

他のすべての機能はサードパーティのクライアントによって制御されます。

未登録時に USB カメラとして使用

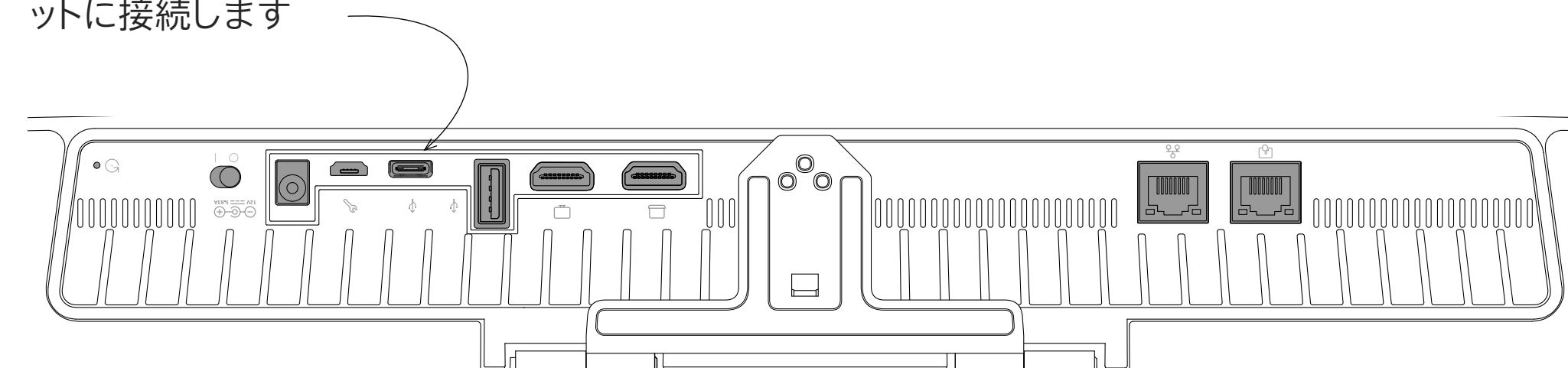
Cisco のビデオシステムを初めて起動したときに、セットアップウィザードが表示されます。

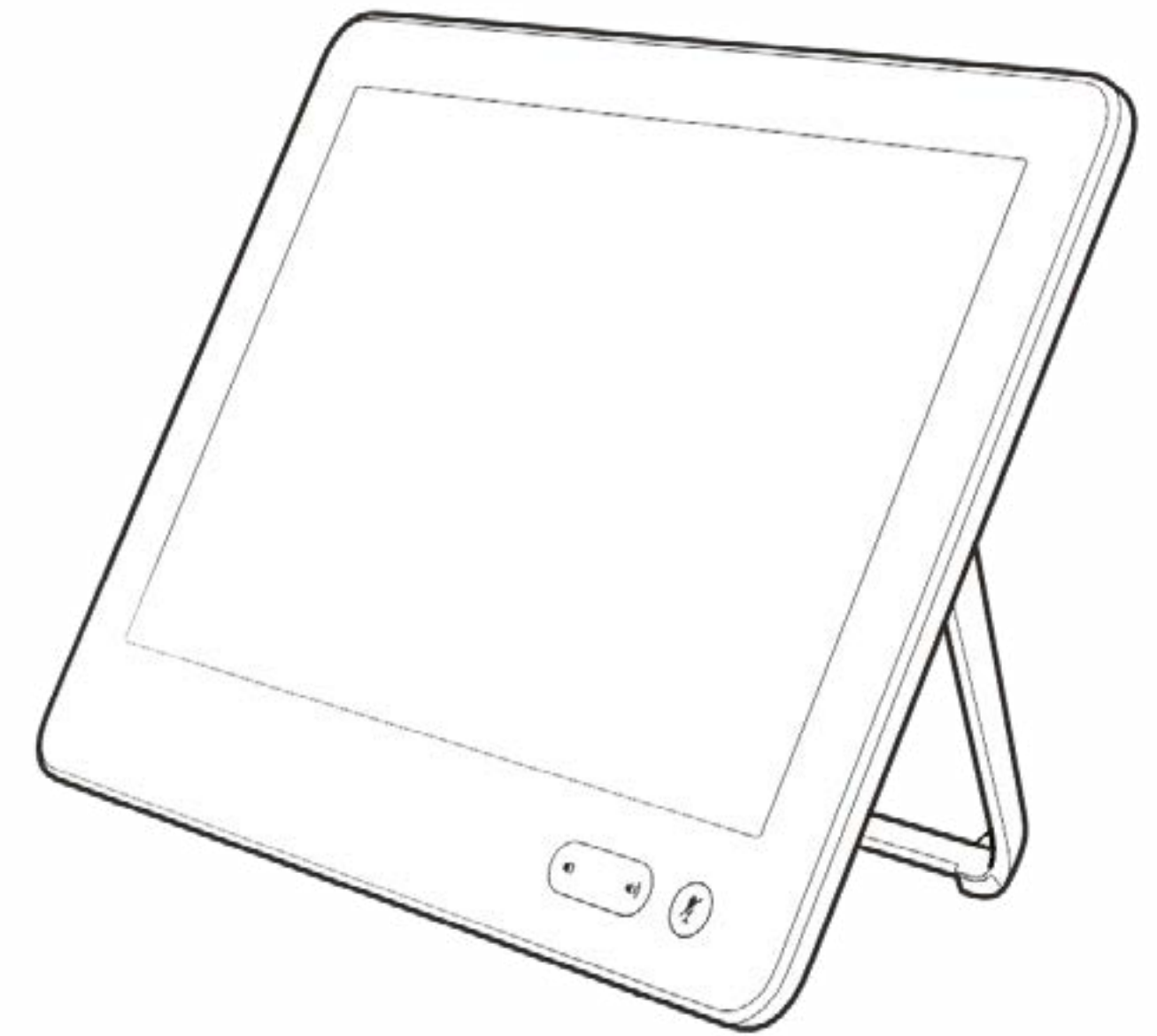
このウィザードでは、シスコ サービス(クラウドまたはオンプレミス)への登録方法を指定できます。Room Kit Mini では、USB デバイスとしてのみ使用する場合はこのウィザードをスキップできます。

この方法を示すために、詳細な指示が画面に表示されます。

後で Room Kit Mini を Cisco に登録する場合は、[設定(Settings)] に移動して [デバイス アクティベーション(Device Activation)] を選択します。

コンピュータを USB-C ソケットに接続します

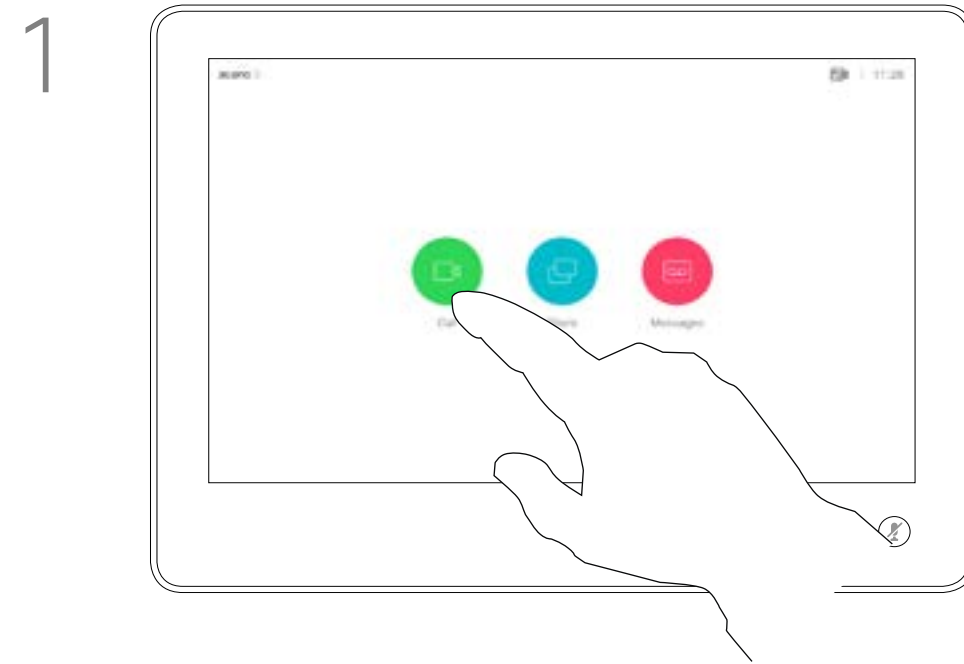




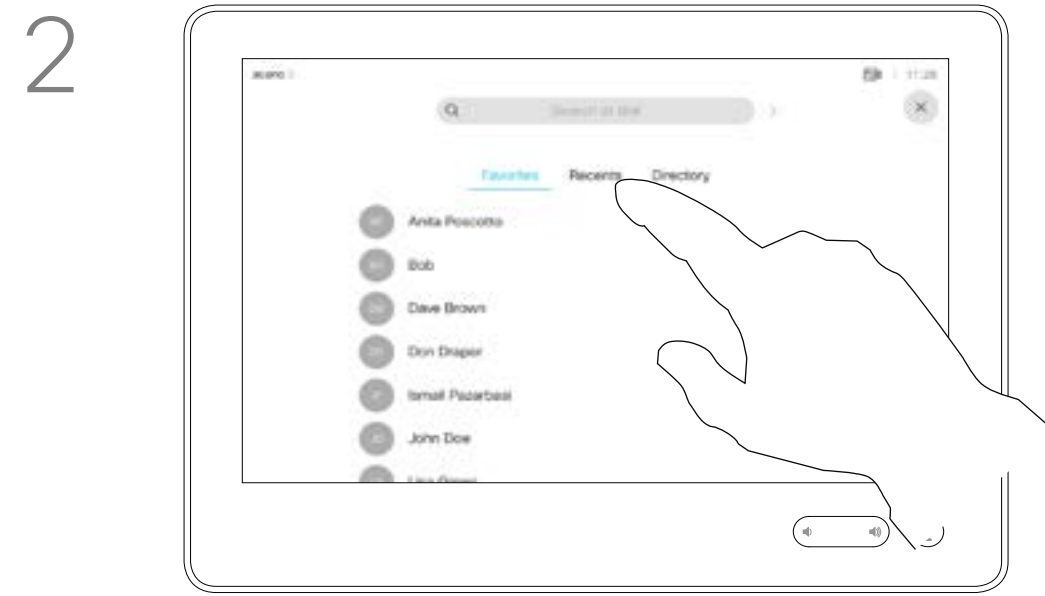
ビデオ通話

ビデオ通話 連絡先リストから発信する

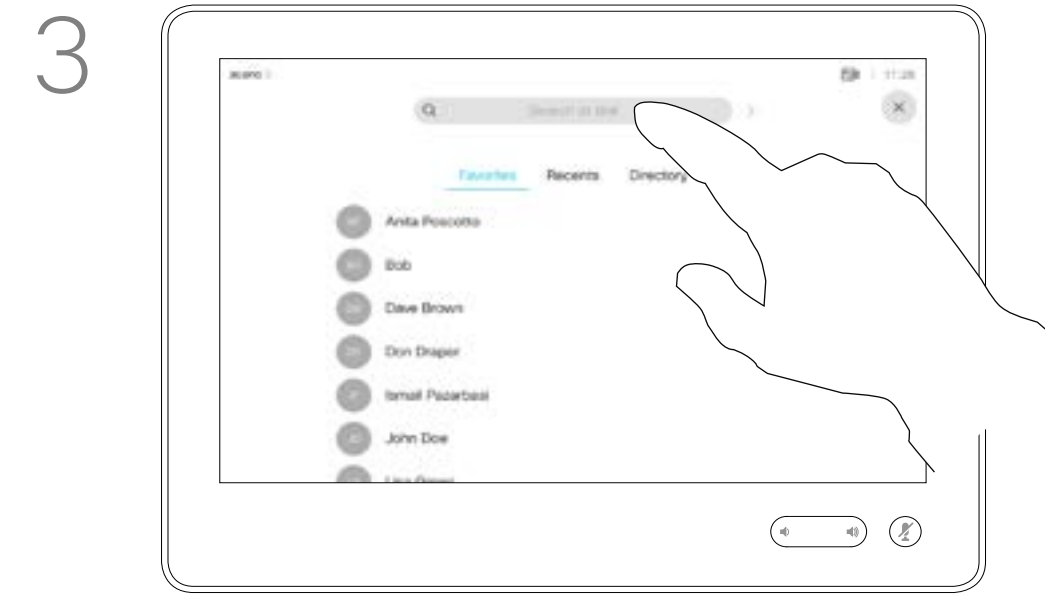
連絡先リストについて



1 [発信(Call)] ボタンをタップします。



2 特定のリスト(お気に入り、ディレクトリ、または発信履歴)で誰かを検索するには、そのリストをタップし、下へスクロールしてエントリを探します。



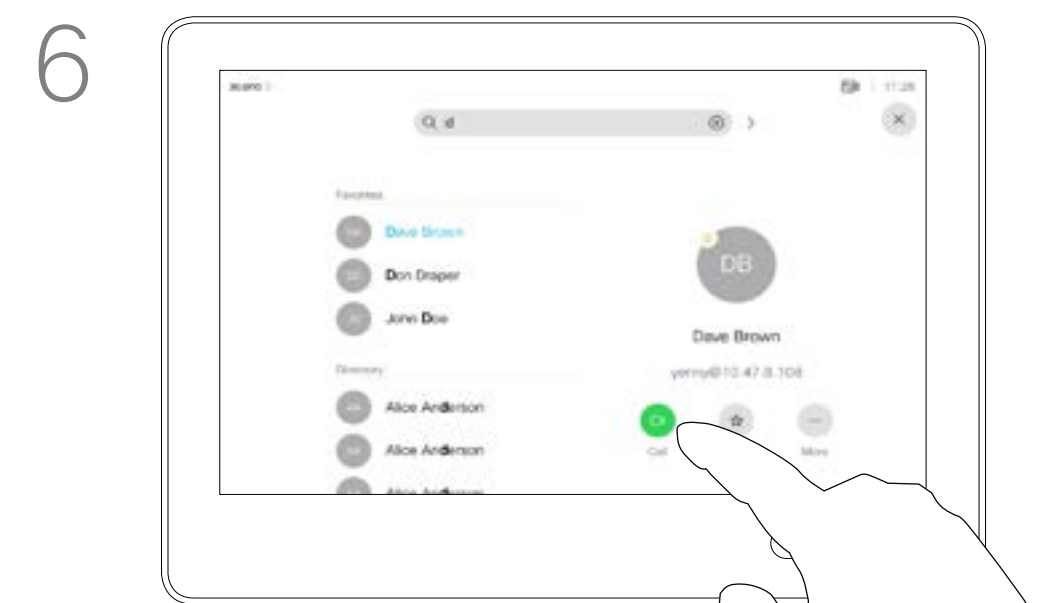
3 または、[検索またはダイヤル] フィールドをタップします。仮想キーボードが呼び出され、すべてのリストでエントリを探ることができます。



4 名前、番号、または IP アドレスを入力します。
入力するたびに、一致するものが表示されます。
IP アドレスで使用するドットを入力するには、[*] を長押しします。



5 ここで、特殊文字が含まれている拡張数字モードを使用することもできます。
英数字モードと拡張数字モードを切り替えるには、キーボードの左下の隅にあるキーをタップします。



6 通話先が見つかったら、名前をタップし、緑色の [発信(Call)] ボタンをタップします。

連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入りこれらの連絡先は、自分でお気に入りとして登録したものです。通常、頻繁に通話する連絡先や、素早く簡単にアクセスする必要がある連絡先を、お気に入りとして登録します。

[ディレクトリ(Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

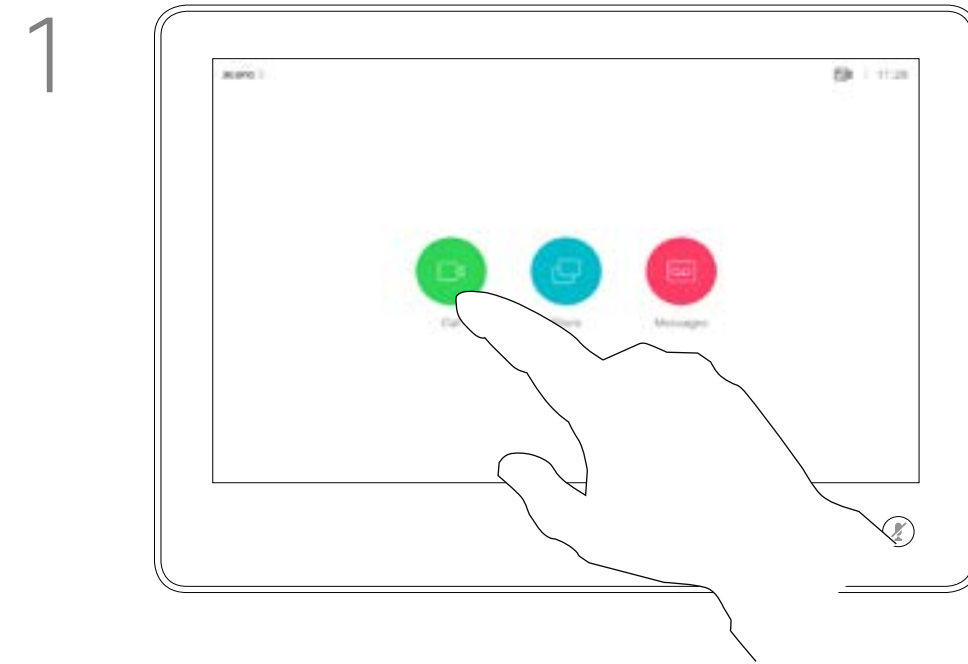
[発信履歴 (Recents)] は、発信、受信、不在着信のリストです。

次のオプションが適用されます。

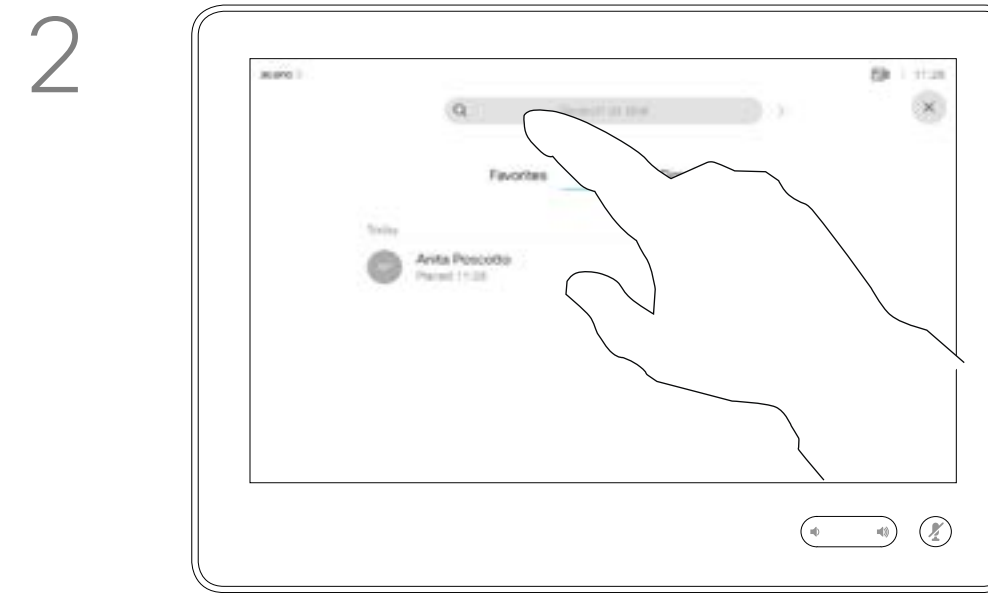
- ・ 名前、番号、または IP アドレスを入力すると、システムが自動的にすべてのリストを検索します。
- ・ [お気に入り (Favorites)] のリストにエントリを追加したり、通話前にエントリを編集したり、帯域を変更したり、エントリを [発信履歴 (Recents)] から削除したりすることができます。

ビデオ通話 発信する前に連絡先を編集する

エントリ編集について



1 **【発信(Call)】** ボタンをタップします。



2 前のページに示すように、**【検索またはダイヤル(Search or Dial)】** フィールドをタップするか、いずれかのリストをスクロールします。



3 エントリが見つかったら、タップして **【発信(Call)】** メニューを表示します。図のように **【発信(Call)】** メニューで **【編集(Edit)】** をタップします。



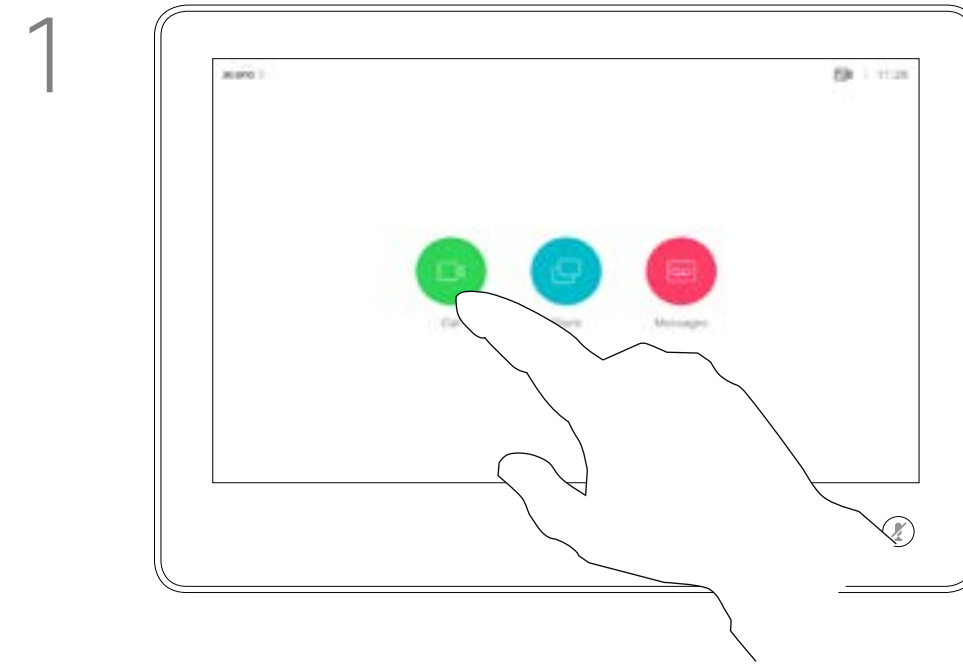
4 必要に応じて編集し、緑色の **【発信(Call)】** ボタンをタップして発信します。

連絡先リストの入力方法については、前のページを参照してください。

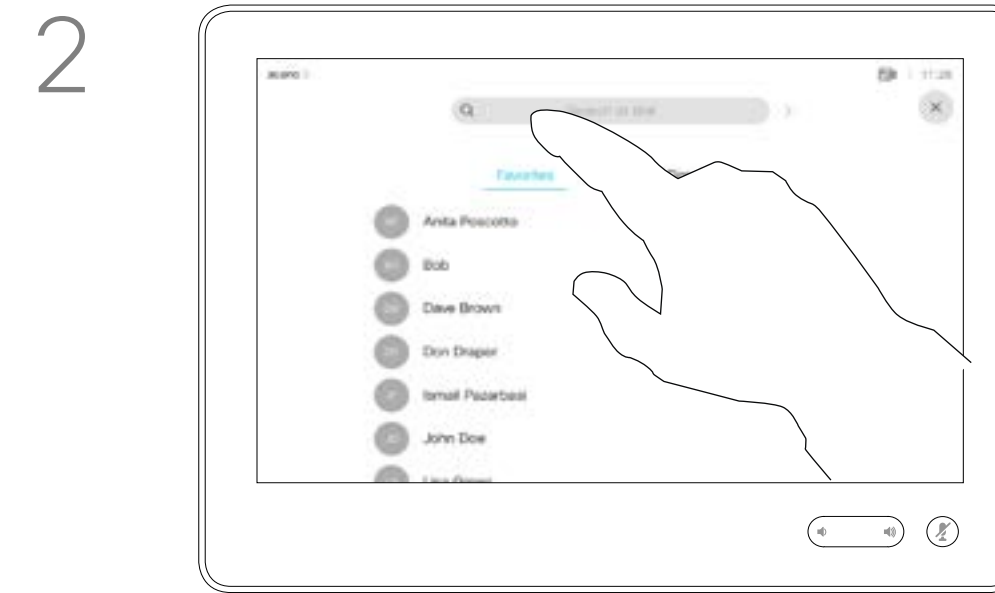
発信する前に、**【連絡先(Contact)】** リストのいずれかのエントリを編集しなければならない場合があります。また、プレフィックスやサフィックスを追加したり、エントリが正しく認識されるように変更したりする場合があります。

名前、電話番号、または IP アドレスを使用して発信する

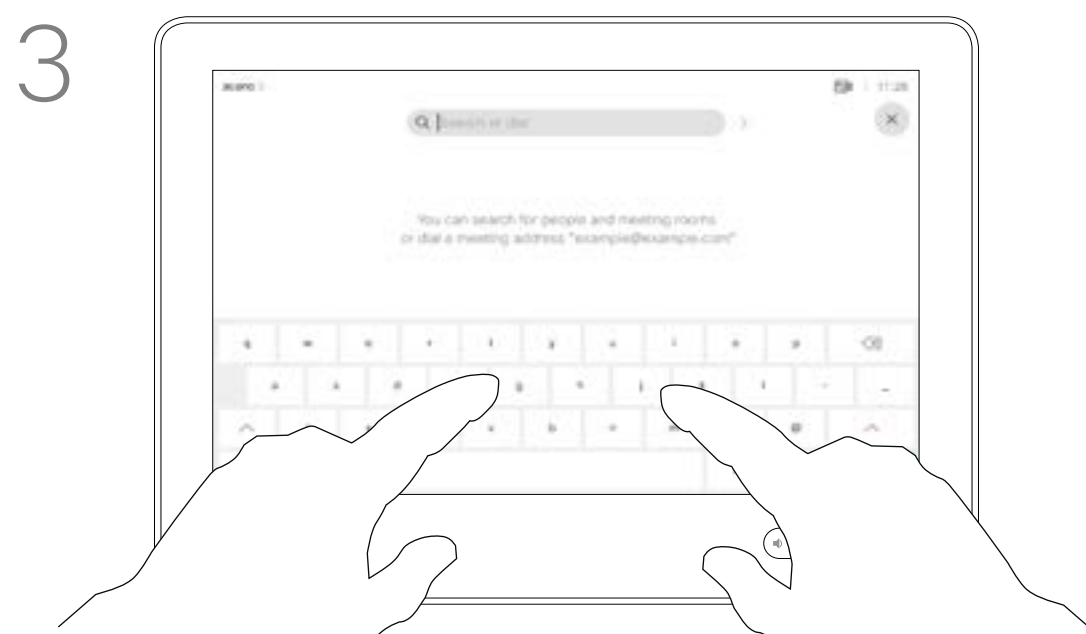
発信について



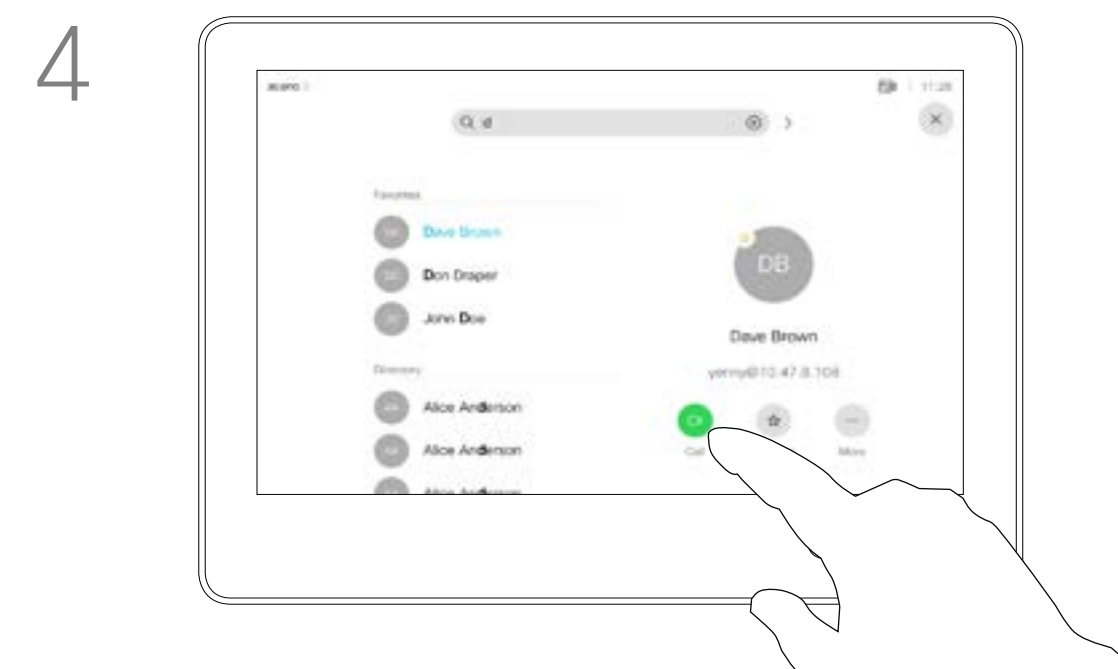
1 **【発信(Call)】** ボタンをタップします。



2 **【検索またはダイヤル(Search or Dial)】** フィールドをタップします。キーボードが呼び出されます。



3 名前、番号、または住所を入力します。入力に合わせて、一致すると考えられるものが表示されます。リストに目的の発信対象が表示されたら、それをタップします。表示されなかったら入力を続けます。



4 通話先を入力または特定できたら、名前をタップしてから、緑色の **【発信(Call)】** ボタンをタップして発信します。

連絡先のリストに載っていない相手に発信するには、タッチパッドの仮想キーボードを使用して名前、アドレス、または番号を入力します。

これまでの発信先または着信元がすべて [発着信履歴(Recents)] リストに表示されます。これらの発信先または着信元は [お気に入り(Favorites)] リストに転送できます。これについては、「連絡先」セクションで説明しています。

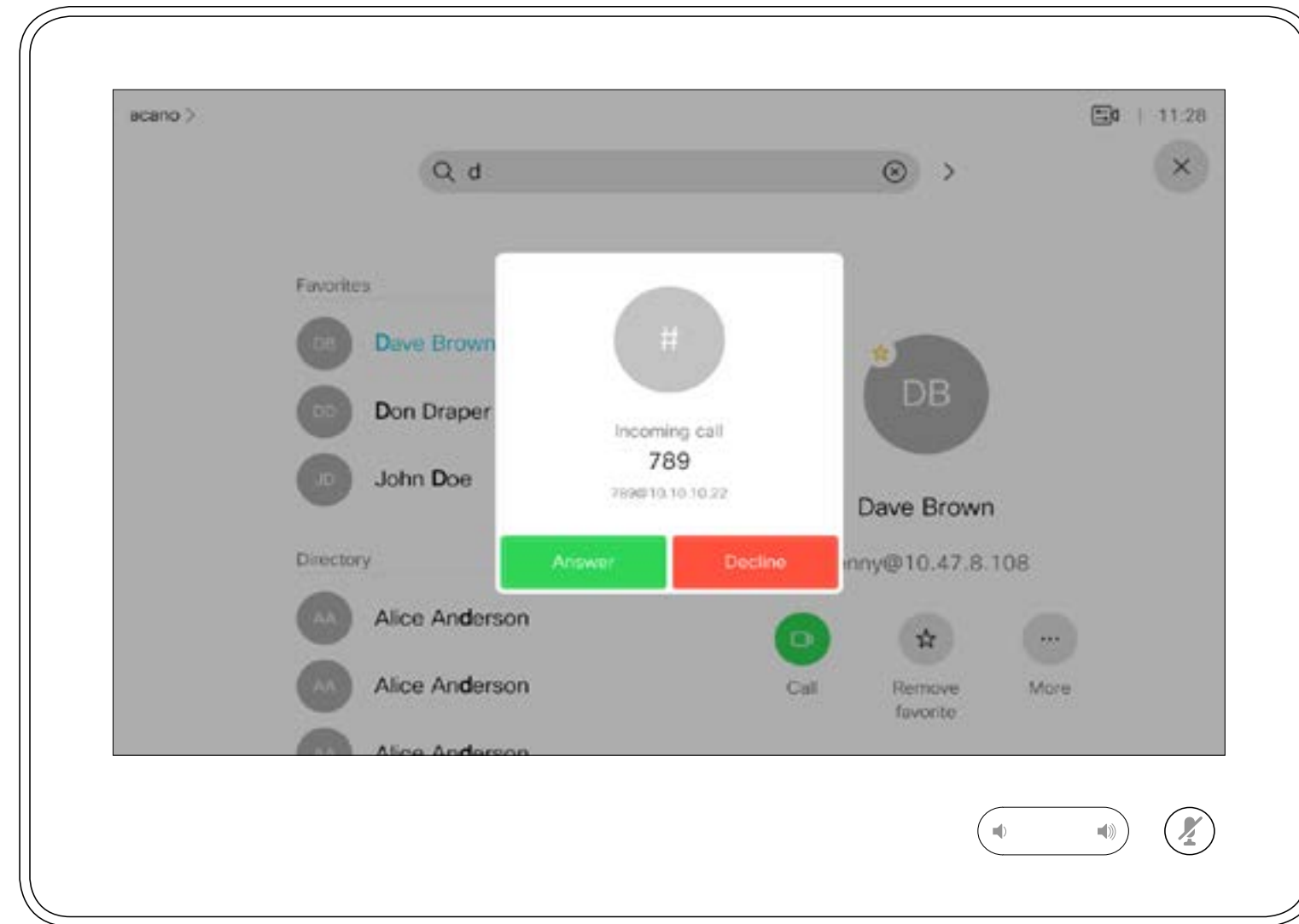
通常、内線にアクセスしたり、暗証番号を入力したりするために、ときには、通話中に数字を入力するように促される場合があります。

この場合に必要なキーパッドを呼び出すには、[トーン信号(Touch Tones)](このボタンは、発信するとすぐに表示されます)をタップします。

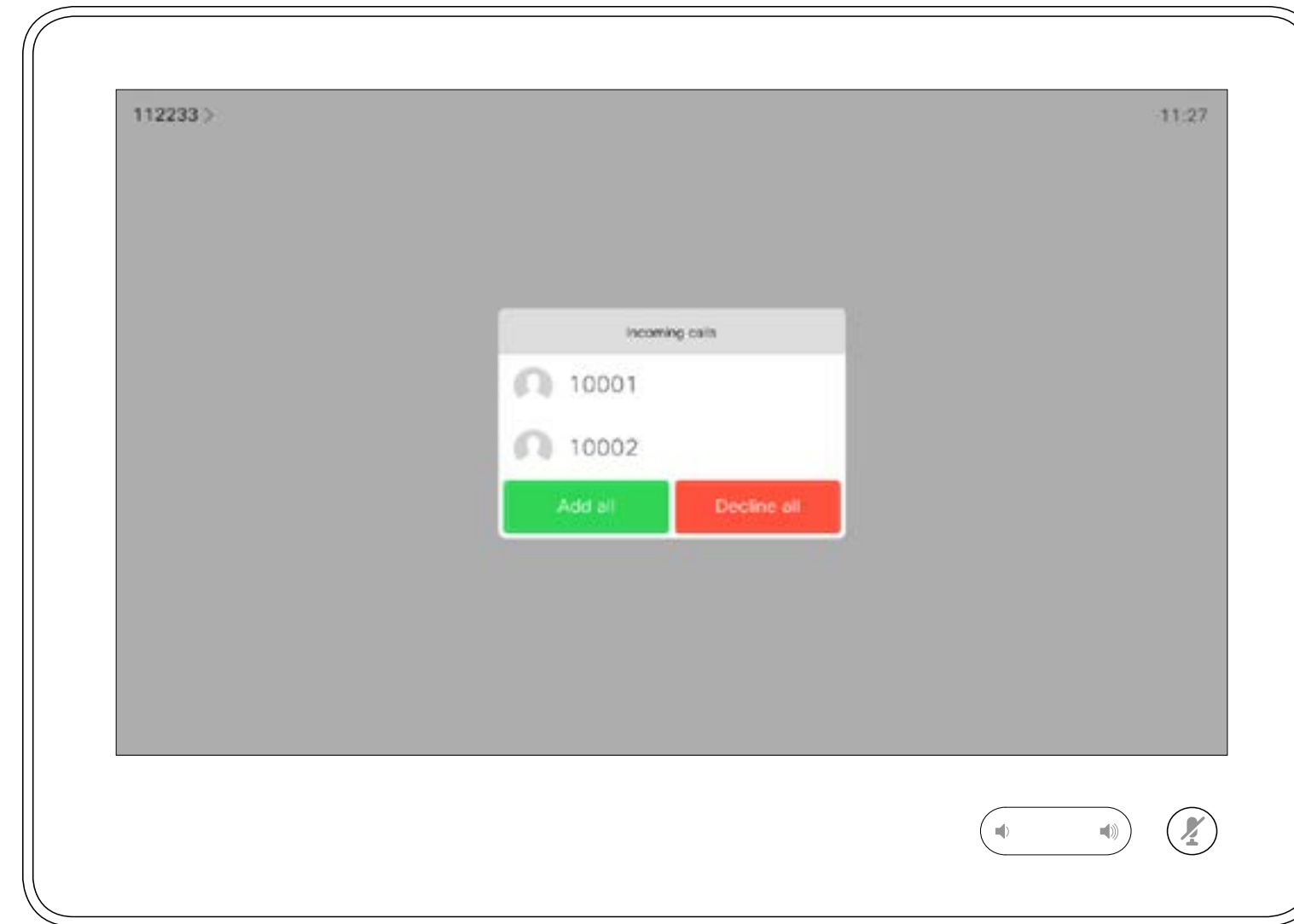
発着信履歴のクリアは、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

ビデオ通話 受信 - 非通話時

着信があった場合



着信コールは応答または拒否できます。



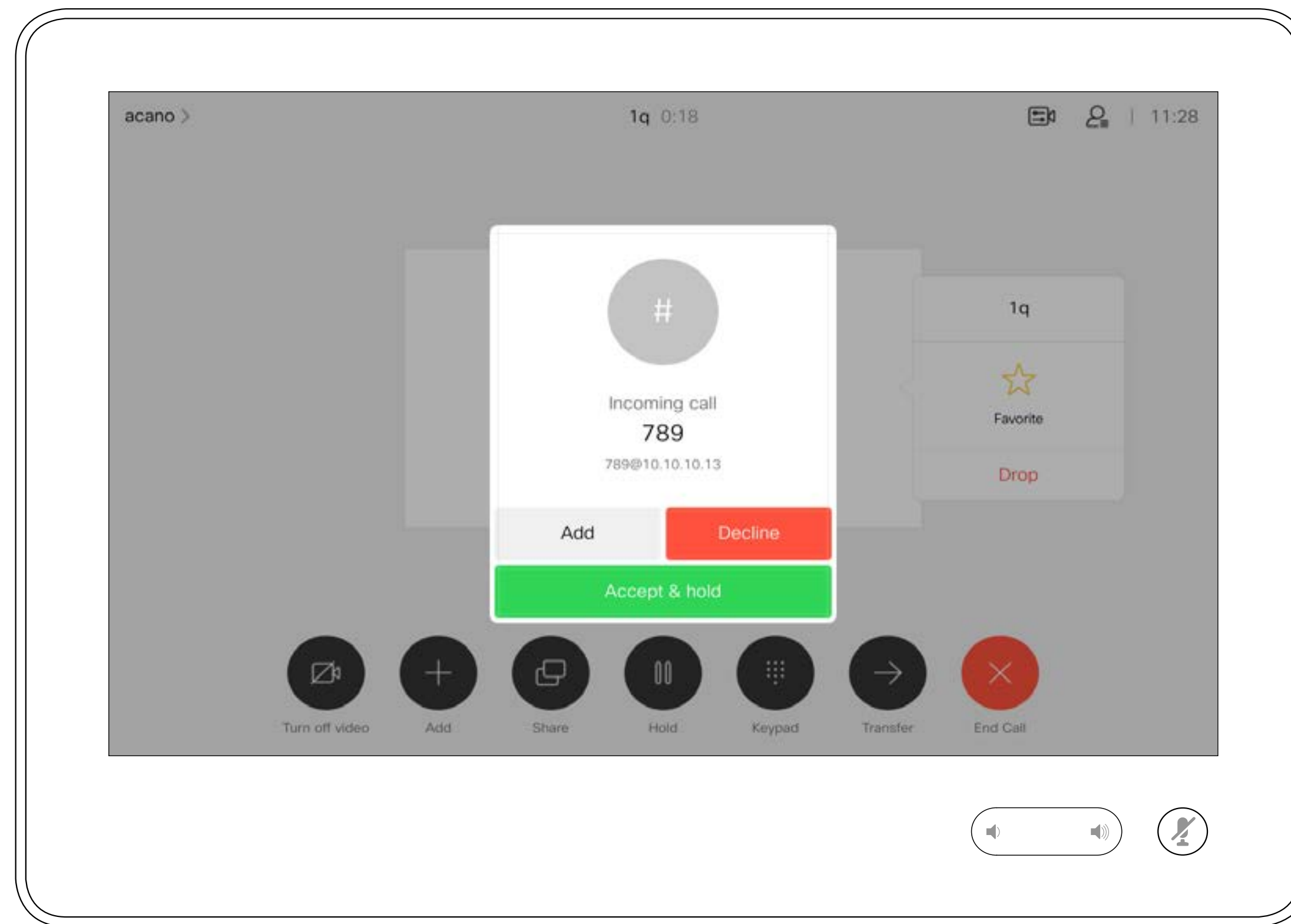
複数の通話を受信できるシステムでは、すべての追加、またはすべての拒否を選択することができます。

- ・ 着信があった場合は、通話を許可、拒否、または無視できます。
- ・ 通話を拒否した場合、話中であるという情報が発信側に送信されます。
- ・ 通話を無視した場合、発信側は相手が存在しない（相手がコールをピックアップしなかった）と認識します。
- ・ ビデオ インフラストラクチャで、複数の着信を受信するようにすることができます。必要に応じて、貴社のビデオサポートチームにお問い合わせください。

ビデオ通話
通話中に別の通話に応答する

着信があった場合

特定の状況下では、通話中に別の着信を受け入れることができます。



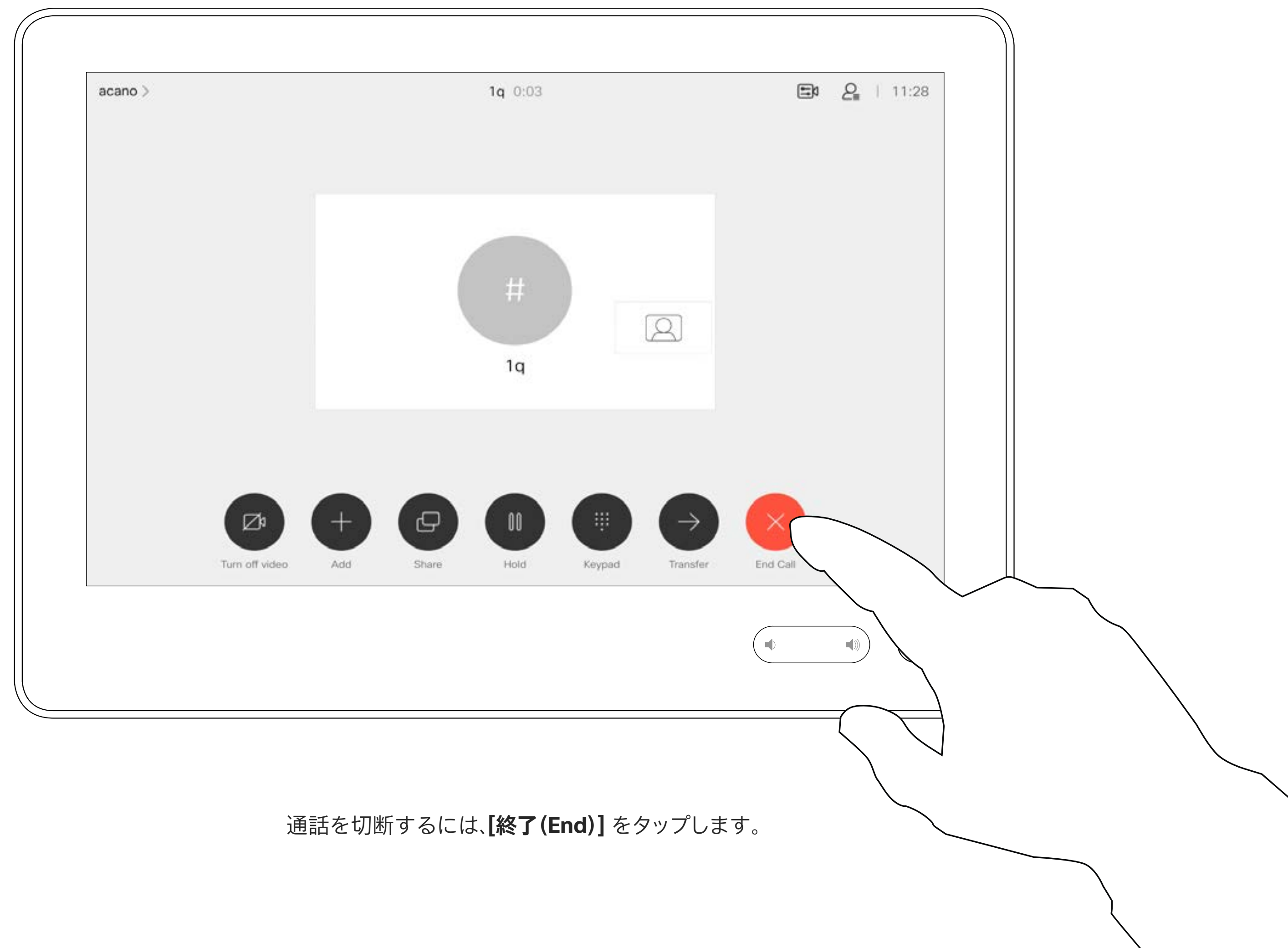
ビデオ通話 通話の切断

切断について

通話中に **[終了(End)]** をタップすると、通話から切断されます。二者間でのみ通話をしている場合は、通話が終了します。

複数の参加者がいる電話会議では、**[終了(End)]** をタップすると、自分が通常の参加者である場合にのみ、自分の参加が終了されます。

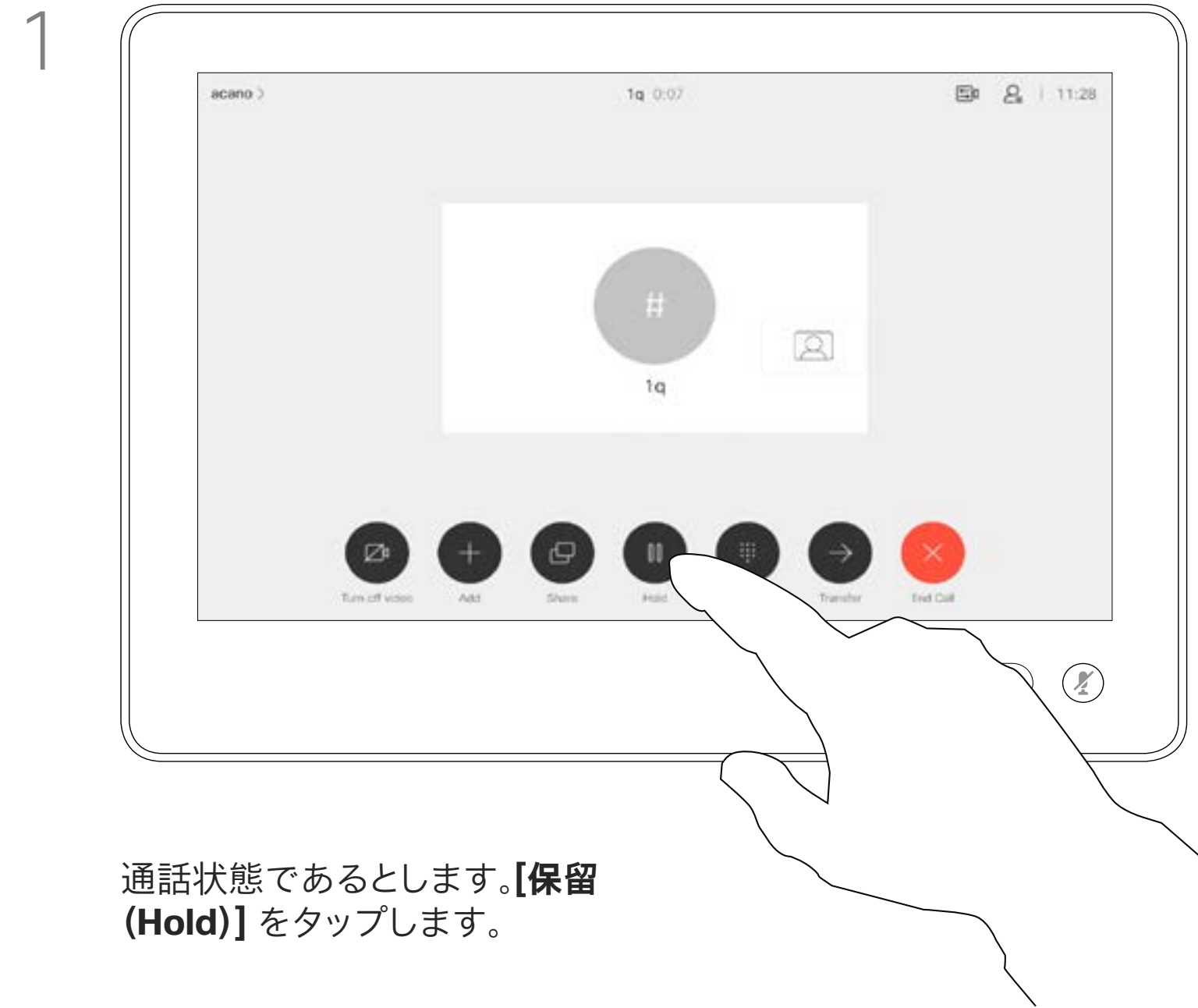
ただし、自分がこの会議のホストである場合、**[終了(End)]** をタップすると、会議の種類によっては、会議全体が終了することがあります。



通話を切断するには、**[終了(End)]** をタップします。

通話を保留にする/保留中の通話を再開する

保留について

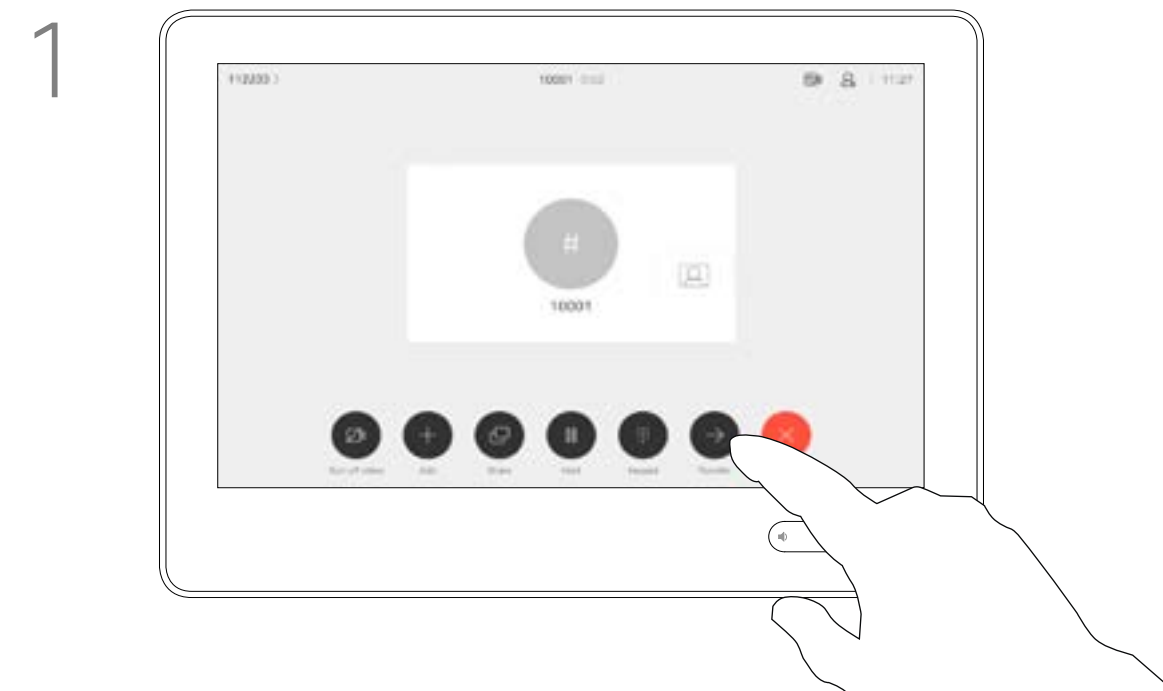


通常、相手を保留にする操作は、誰かを他の人に転送する場合の最初のステップとして行うものですが、打診が必要な場合や、ビデオ送信の停止を含むミュートの代わりとしても使用できます。

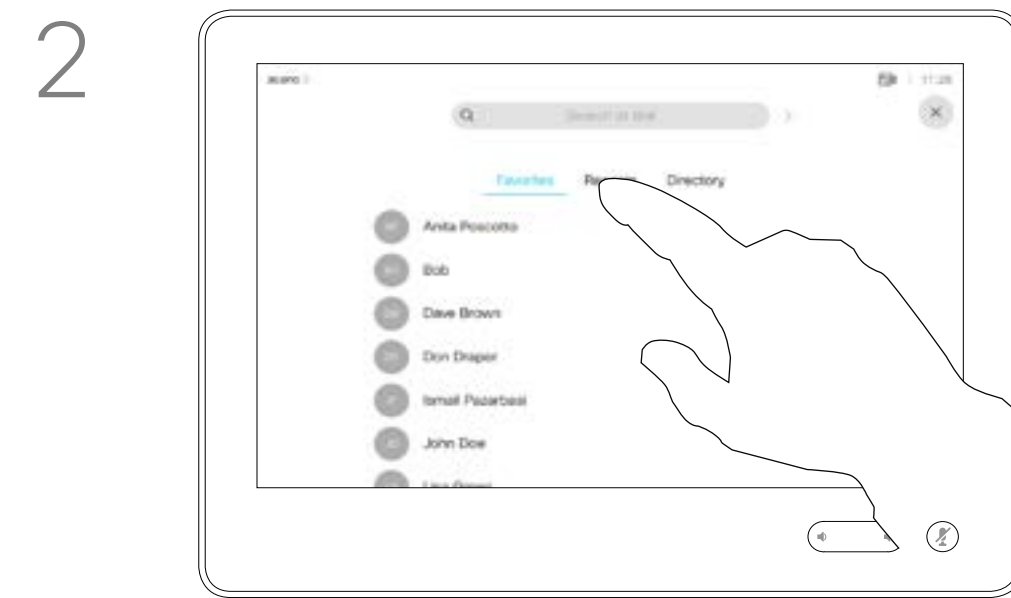
ビデオ通話 継続中のコールを転送する

転送について

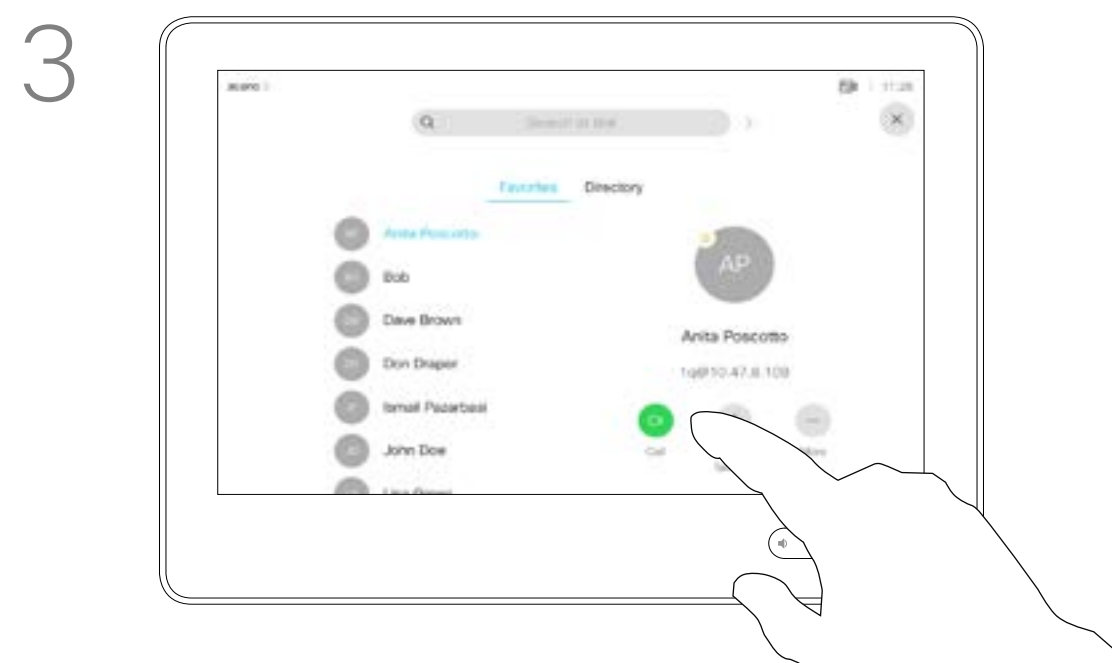
継続中のコールを別の人に転送することができます。転送する場合には必ず打診します。つまり、転送する前に転送先の人と話することができます。



1 **【転送(Transfer)】** ボタンをタップします。これにより、現在の通話が保留になります。



2 いつもと同じ方法で、発信先を探します。



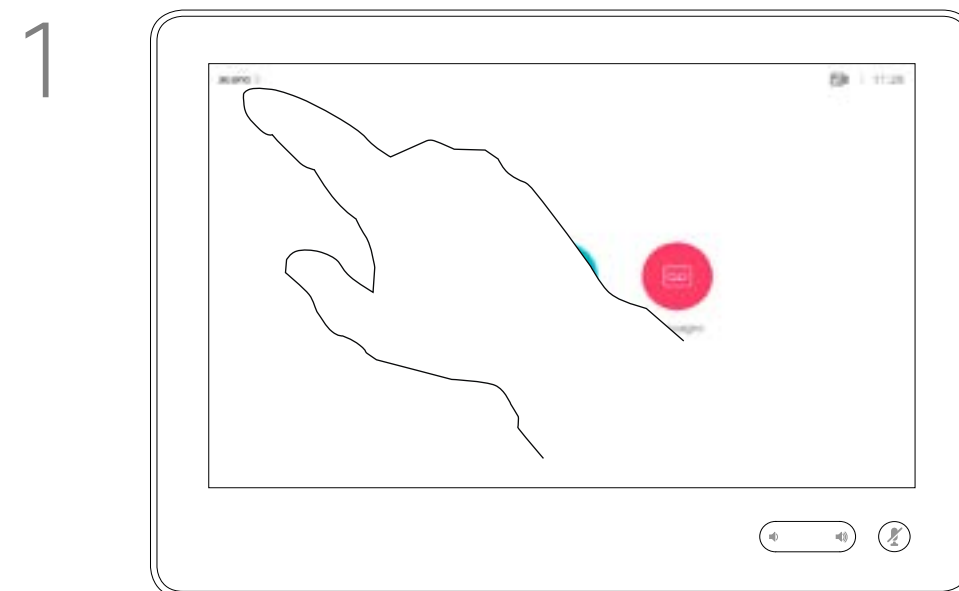
3 緑色の **【発信(Call)】** ボタンをタップします。相手と話して転送が行われたことを確認します。転送先では保留中のままになります。



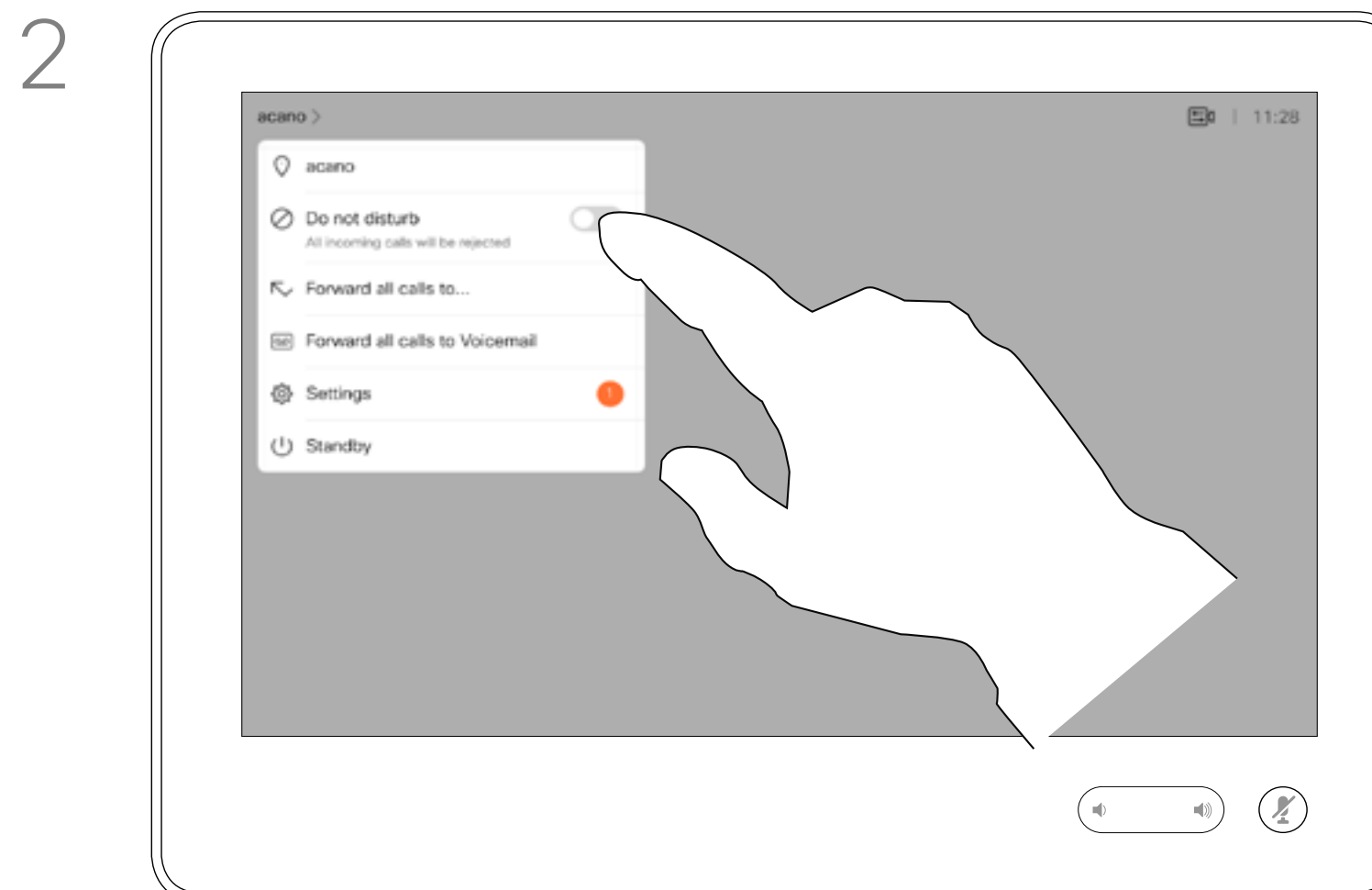
4 **【転送完了(Complete Transfer)】** をタップします。

ビデオ通話 応答不可を有効にする

応答不可について



図のように、左上をタップします。



図のように [応答不可(Do not disturb)] をタップします。この機能を非アクティブにするには、同じ手順を繰り返します。

着信コールに応答しないよう、システムを設定することができます。ただし、こちらからは必要時にいつでも発信することができます。

ビデオ サポート チームが、この機能のタイムアウトを設定している場合があります。タイムアウト後は、通常のように着信に応答できるようになります。デフォルトのタイムアウト設定は 60 分です。

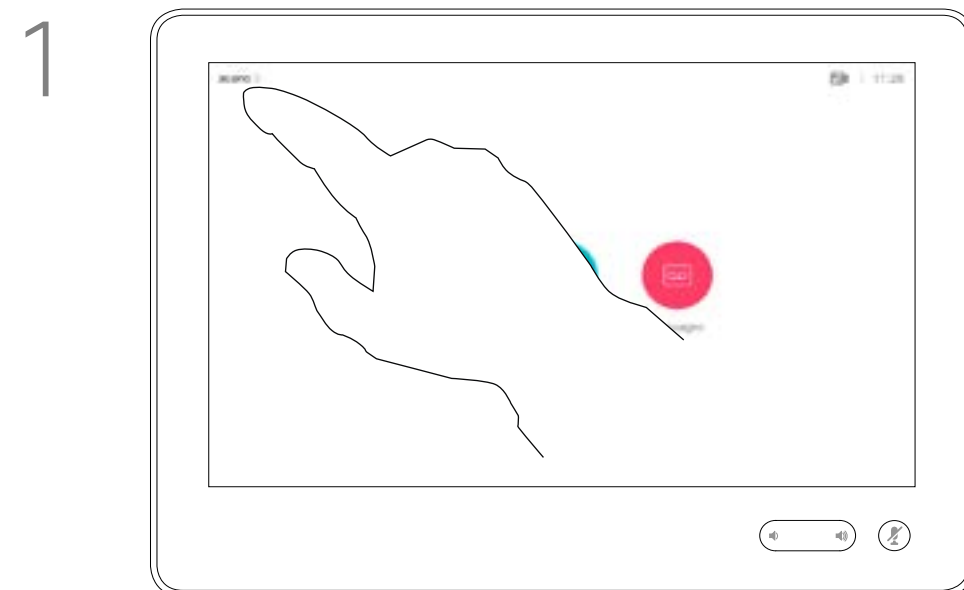
ビデオ サポート チームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効になっている場合があります。ご注意ください。

Room Kit Mini を **USB** カメラとして使用する。Room Kit Mini を登録済みであれば、PC とサードパーティのビデオクライアントと共に USB カメラとしてそれを使うことができます。通話の重複による競合を回避するために、システムは自動的に応答不可モードになります。これは変更できません。

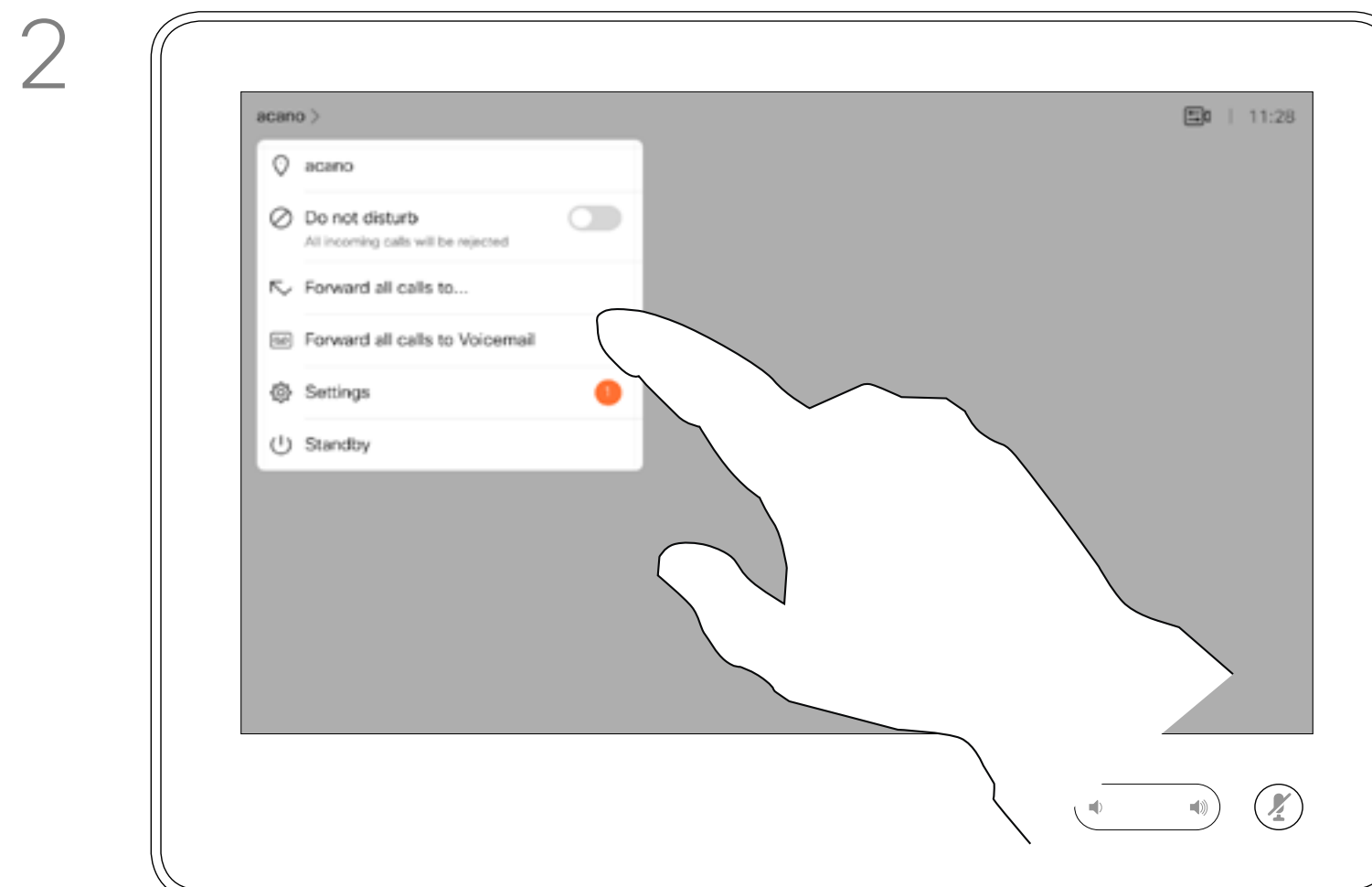
未登録の機器として Room Kit Mini を使用することを選択した場合、通話の重複は不可能になるため、上記の事項は適用されません。

ビデオ通話 すべての通話の自動転送

通話の転送について



図のように、左上をタップします。



受信者を指定してすべての通話を転送するか、ボイスメールに転送するかを選択できます。

ビデオ サポート チームがすべての受信コールを転送するオプションを有効にしている場合もあります。ボイスメールに転送するか、受信者を指定して転送するかを選択できます。

[すべての通話の転送先 (**Forward all calls to...**)] をタップすると、いつもの [発信 (**Call**)] メニューが表示され、受信者を指定できます。

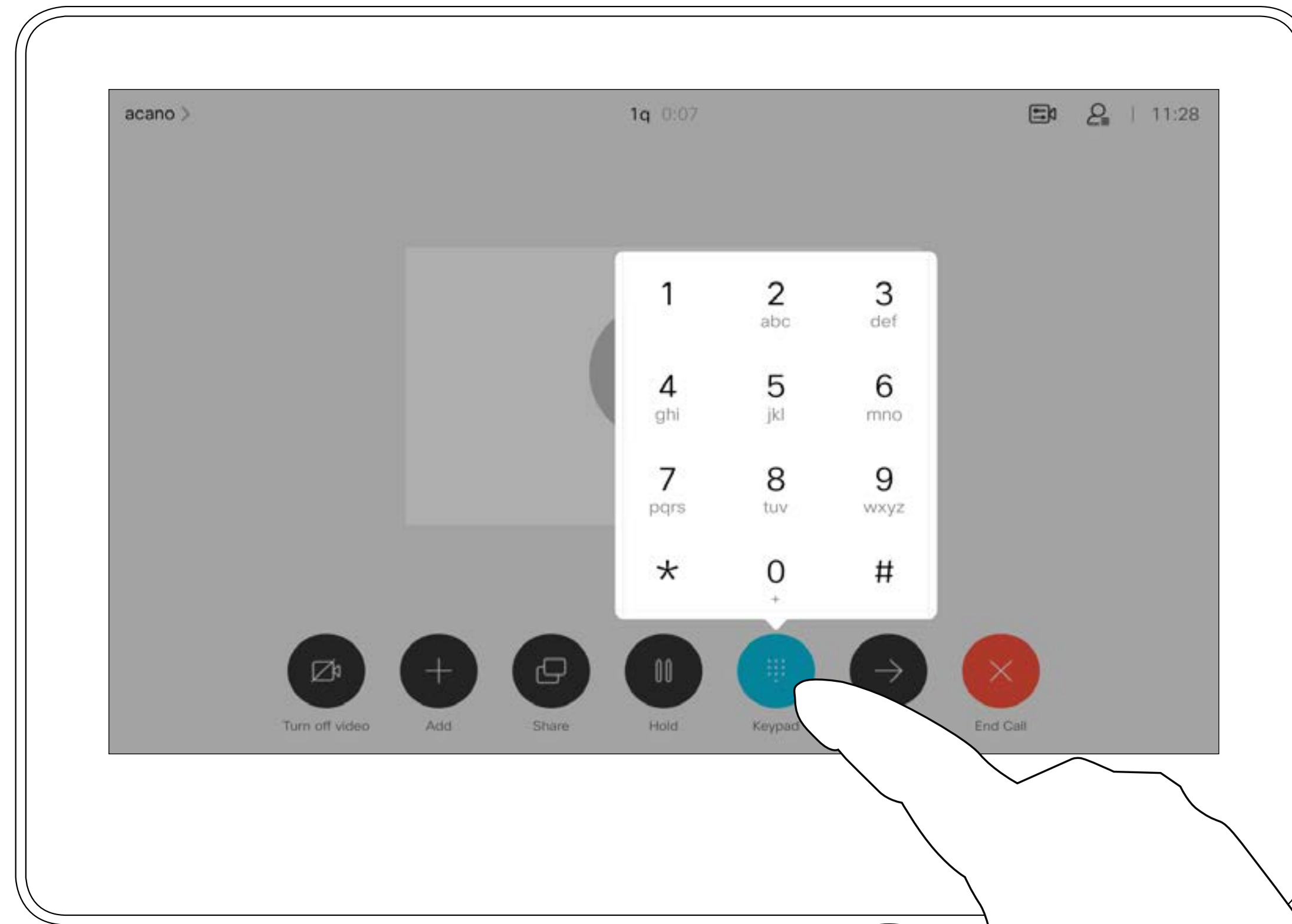
ビデオ サポート チームによって、表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。

通話中にキーパッドを表示する

通話中のキーパッドの使用

通話中に、内線番号へアクセスしたり、(暗証番号の使用などにより)その他の場所へアクセスしたりするために番号を入力するよう要求されることがあります。

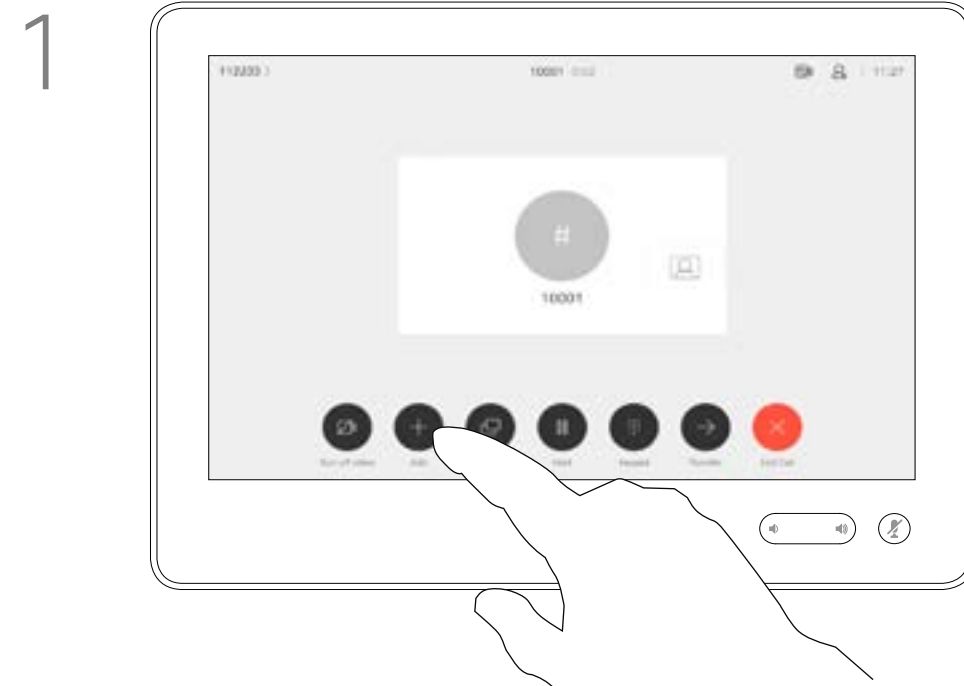
このようにするには、タッチ スクリーンにキーパッドを呼び出す必要があります。



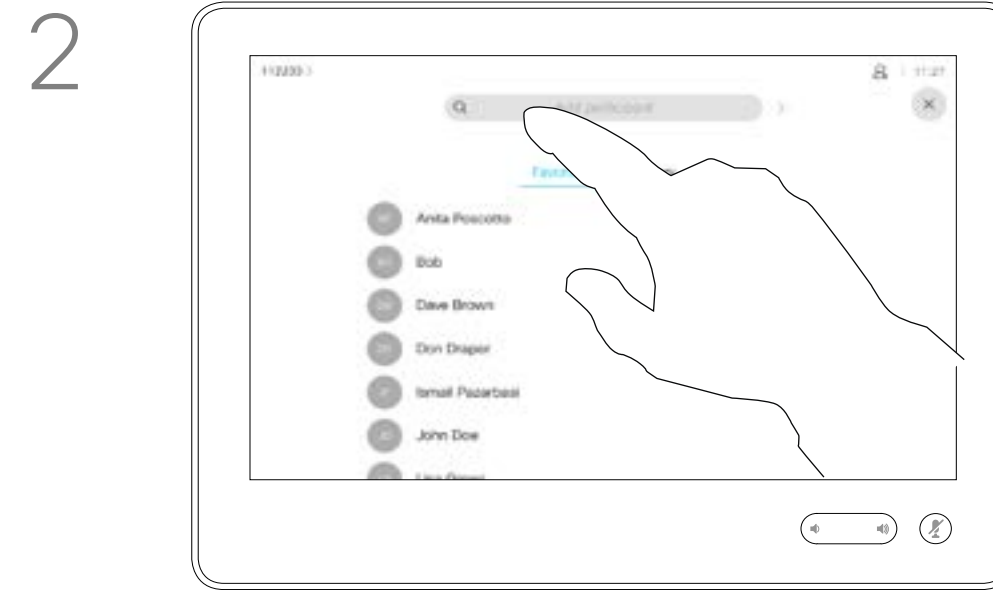
通話中に [キーパッド(**Keypad**)] をタップすると、ダイヤルパッドが呼び出されます。

ビデオ通話 既存の通話に参加者をさらに追加する

ビデオ会議について



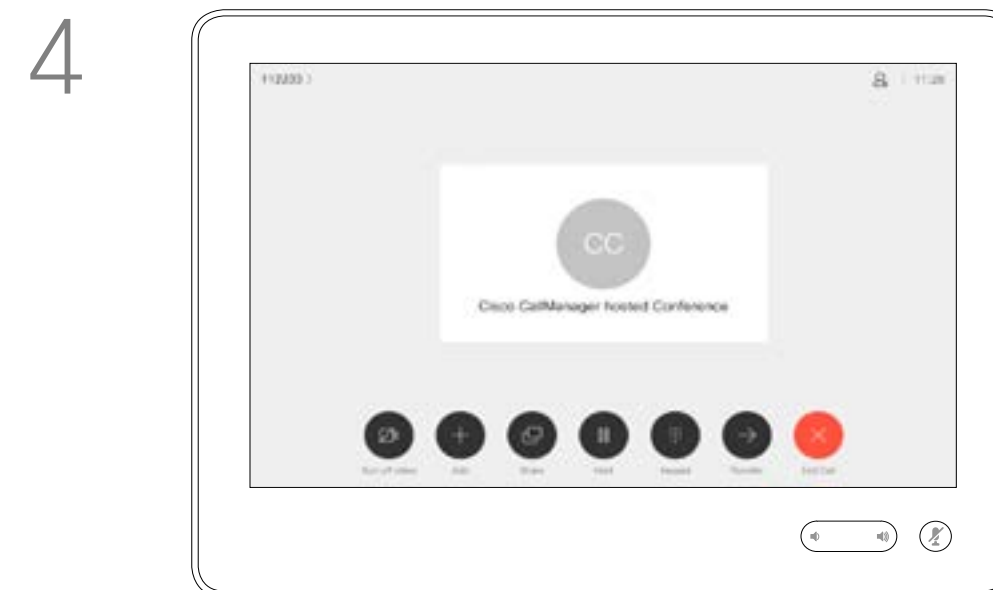
すでに通話状態であるとして、この通話は、あなた、または(あなたに対してコールした)他の人によって開始されています。**[Add]** をタップします。



通常の方法で、発信先を探します。



通常の方法で発信します。



この新しい通話が既存の通話に追加され、会議が確立されます。

この手順を繰り返して、ビデオ インフラストラクチャが許容する範囲まで参加者を追加できます。

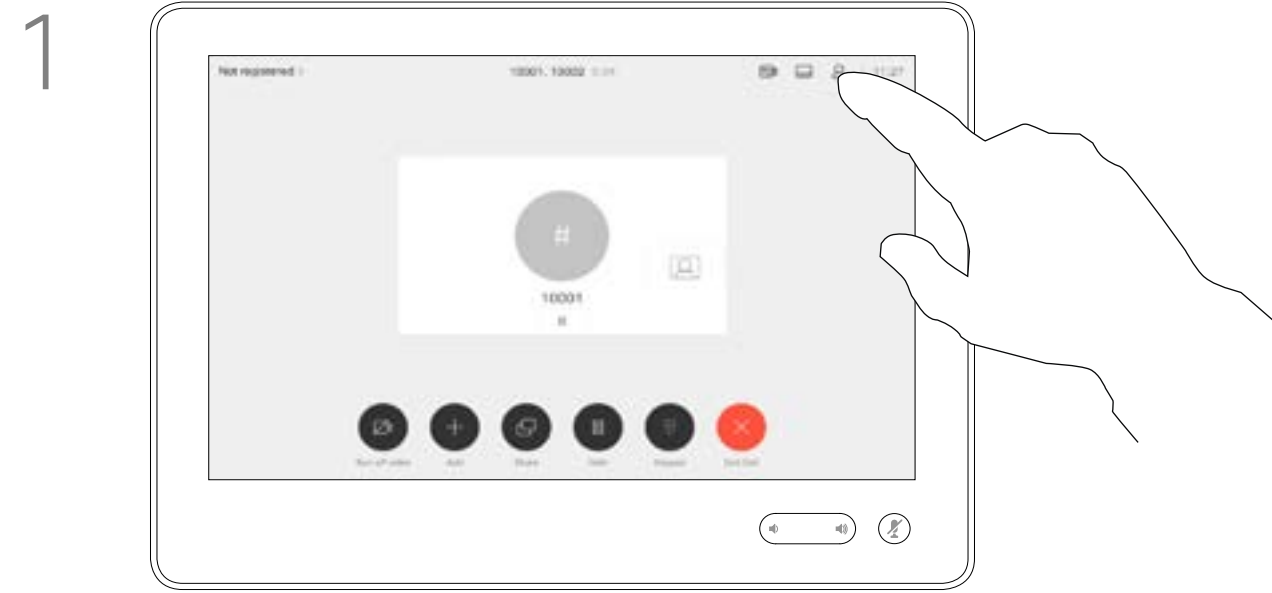
お使いのビデオ システム ネットワークが、参加者が複数いるビデオ会議を開始する機能をサポートしている必要があります。

ビデオ システムでサポートされる参加者の最大人数は、システム設定およびビデオ インフラストラクチャによって決まります。これを確認するには、ビデオ サポート チームへお問い合わせください。

ビデオ会議を開始する場合は、参加者に一人ずつコールする必要があります。

ビデオ通話 会議から参加者を切断する

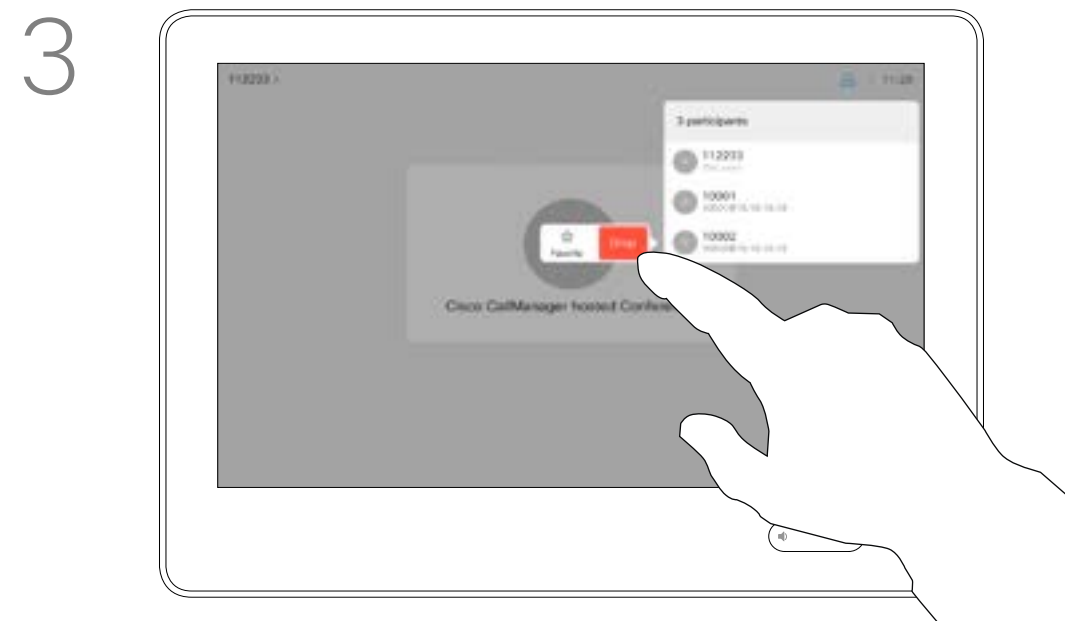
ビデオ会議について



通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



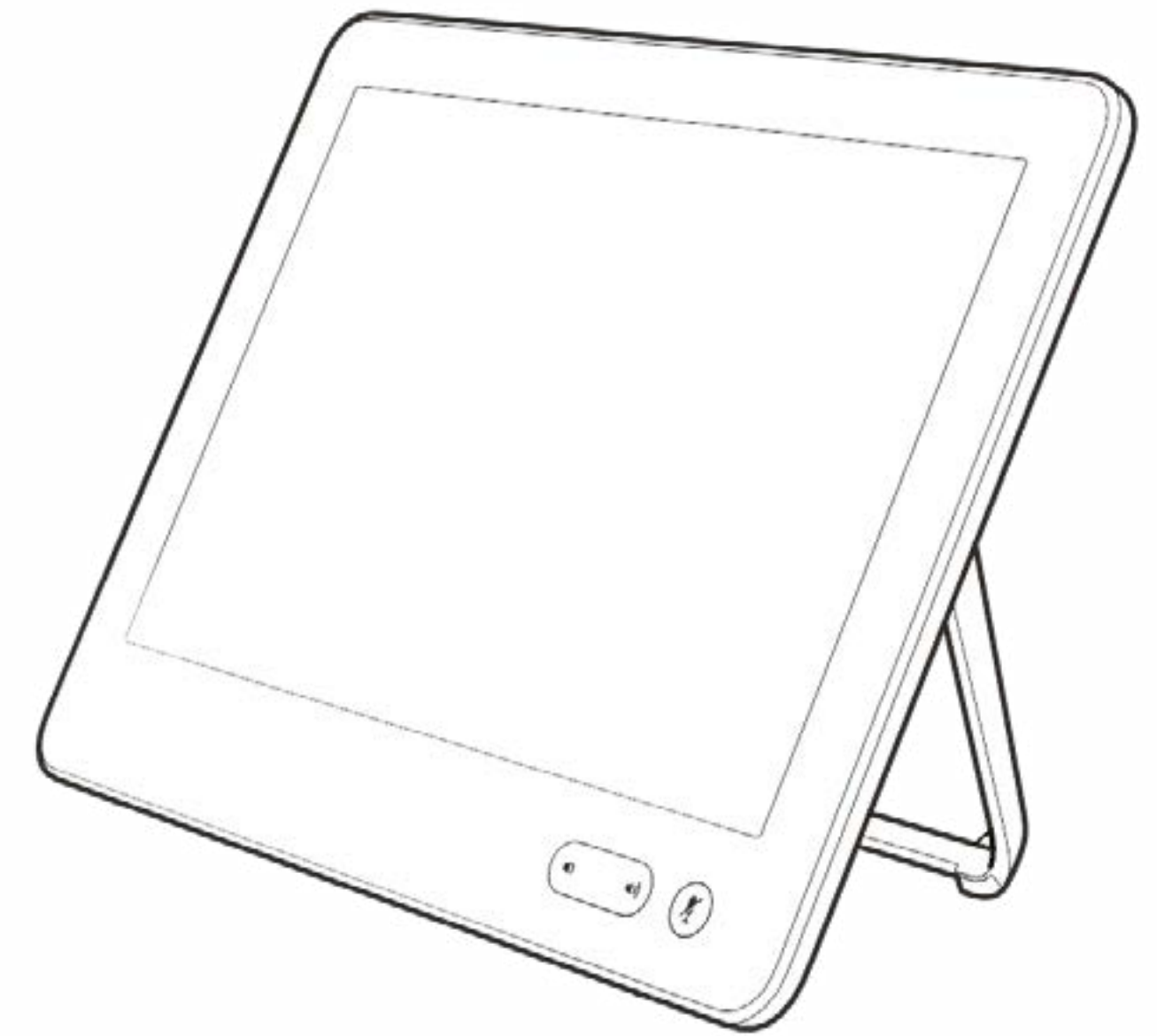
電話会議から切断する参加者をタップします。



[ドロップ(Drop)] をタップします。

ビデオシステムからビデオ会議を実行する機能はオプションであるため、システムによっては使用できない場合があります。

会議から参加者を切断できるのは会議のホストのみです。



インテリジェント近接通信

Cisco Proximity の超音波信号について

シスコのビデオ システムは、近接通信機能の一部として超音波を発します。業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満の音圧レベルで影響が生じることはほとんどありません。超音波の制限に関するガイドラインは国によって大きく異なります。Cisco 近接信号が出力される20 kHzあたりの周波数帯で検出される 75 dBの音圧レベルは、現在の制限における最小値となっています。

この情報の参考資料として、カナダ保健省のガイドライン http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/safety-code_24-securite/index-eng.php#a2.2.2(英語)をご覧ください。



D1534515 Cisco Webex Room シリーズ ユーザ ガイド
Touch10 を使用するシステム
製造: 2019年6月 CE9.8向け
All contents © 2010-2019
Cisco Systems, Inc. 全著作権所有

120 dB未満の音圧レベルでは永続的または一時的な難聴はどちらも発生していないと、このガイドラインでは述べられています。

グループで使用するためにスピーカーが組み込まれているシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 50cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。

個人で使用するためのシスコのビデオ システムでは、スピーカーから 20 cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 70 dB 未満になっています。

Cisco Webex Boards では、ディスプレイの前方 20cm 以上の距離で、超音波の音圧レベルが 75 dB 未満になっています。このレベルはディスプレイの真下では、スピーカーが下向きであるため若干高くなる可能性があります。

ほとんどの現実的なケースでは、ユーザの耳の位置でのレベルは、スピーカーの指向性、距離減衰、一般的な会議室での高い高周波数吸収率によって、これらの最大レベルよりはるかに低くなります。このレベルは、可聴音について会議スペースの一般的なバックグラウンド/環境ノイズ レベルから通常のスピーチのいわゆる会話レベルまでさまざまです。

したがって、人間が近接通信の信号に連続的にさらされても安全であると考えられます。ほとんどの人は、信号の存在に気付かず、信号の影響を受けません。ただし、特に急性の高周波聴力を持つ一部の個人は、この信号が聞こえます。この状況はほとんどの場合、スピーカーの正面かつ近傍で起こります。

犬のような動物は、可聴周波数範囲が広いので、近接通信の信号が聞こえます。

ただし、音の影響はレベルに依存し、犬の可聴レベルの範囲は人と大きくは異なりません。20kHz での犬の可聴しきい値は 0-10 dB と低く、最も感度の高い周波数範囲での人の耳のしきい値と変わりません。

シスコは、信号が犬に影響を及ぼす可能性についてテストや検証を行っていません。レベルが制限されているため、犬に信号が聞こえることが明らかであるとしても、犬にとってわずらわしいものではないと信じられています。

オフィスまたは会議室にいる犬は、通常のバックグラウンド ノイズと同等のレベルまたはほとんどの会話レベルの超音波を受けることとなります。当社の製品にこの機能を搭載したここ数年間で、信号によって動物が影響を受けたという報告はありません。

ただし、超音波を使用する犬撃退デバイスが存在していることから、超音波が犬に及ぼす影響について疑問を持つことは当然のことです。これらのデバイスは通常、不快ではあるが無害な超音波を使用していると主張しています。シスコは、犬撃退デバイスの設計について見識はありませんが、このようなデバイスの仕様を調べると、そのレベルが 100 dB 以上であることが多いことがわかります。

シスコのビデオ コーデックをサードパーティ製のスピーカー システムと組み合わせて使用するソリューションについては、シスコは超音波の音圧レベルを制御できません。ほとんどの場合、必要なスピーカー感度および周波数応答によって、音圧レベルは 75 dB の制限未満になります。しかし、過剰な信号の外部増幅を行う、またはスピーカーシステムが高周波を強調するものであった場合、この制限を超えた音圧が出力される可能性があります。

近接通信について

インテリジェント近接通信機能を使用すれば、手元の端末でワイヤレスにビデオ システムのコンテンツを共有できます。スマートフォンやタブレットでは、共有コンテンツを自分の画面に直接表示することもできます。

自分のスマートフォン、タブレット、PC、または MAC を使って、ビデオシステムの通話を制御することもできます。

次の条件に従ってください。

App Store または Google Play から、Cisco Intelligent Proximity アプリケーション (無料) をダウンロードする必要があります。

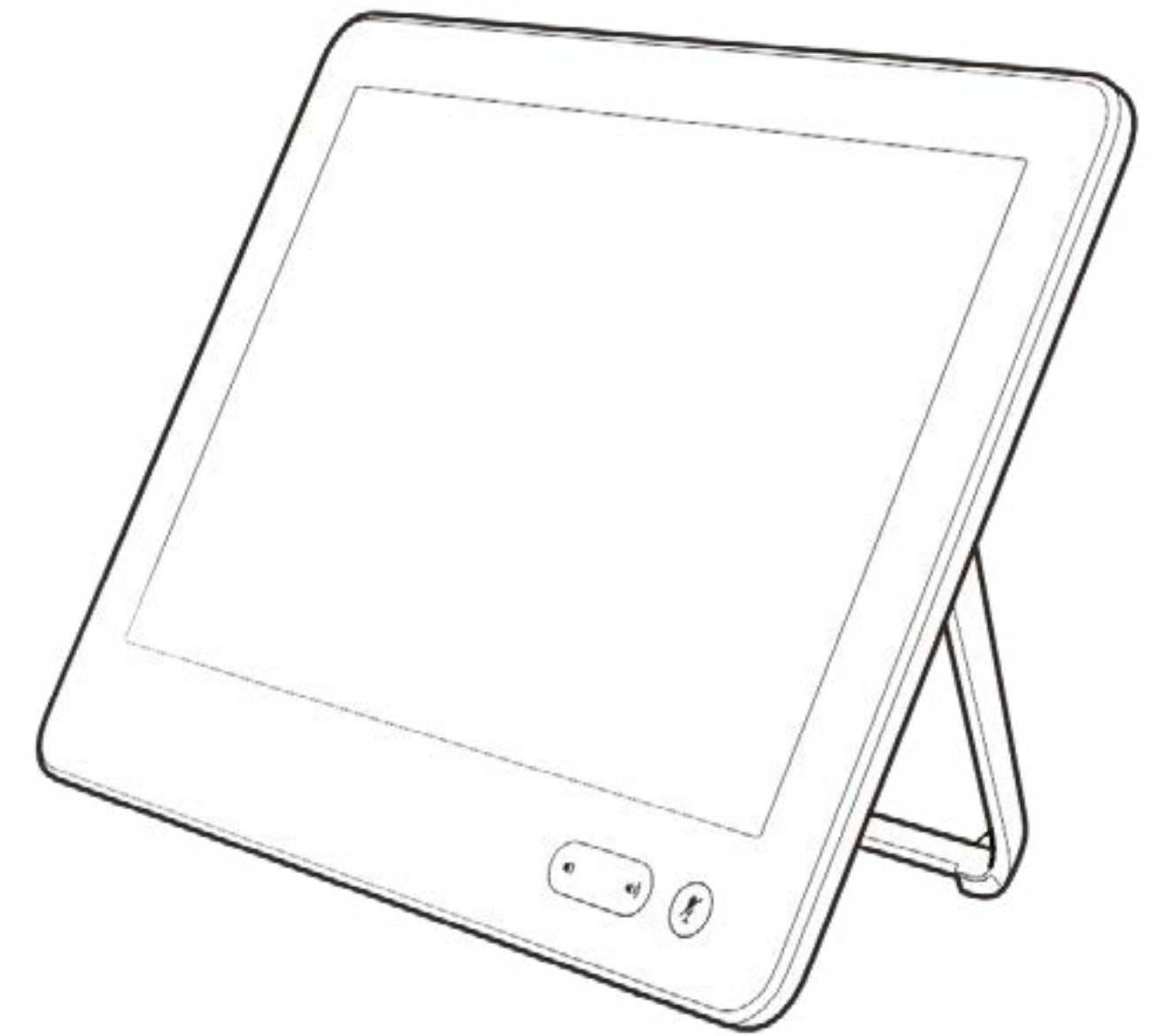
Windows または OS X を使用している場合は、<https://proximity.cisco.com/> (英語) にアクセスしてください。

ビデオサポートチームは、すべての機能を有効にしている場合も、無効にしている場合も、一部の機能だけを有効にしている場合もあります。

インテリジェント近接通信は、ユーザの接続時に超音波を利用します (詳細は左記参照)。コンピュータやスマートフォン、タブレットのマイクをふさがないようにしてください。

インテリジェント近接通信は、ミーティング室のドアが閉じられた状態では、ミーティング室の外側では機能しないように設計されています。この機能を使用するには、ビデオ エンドポイントの近くにデバイスを置く必要があります。

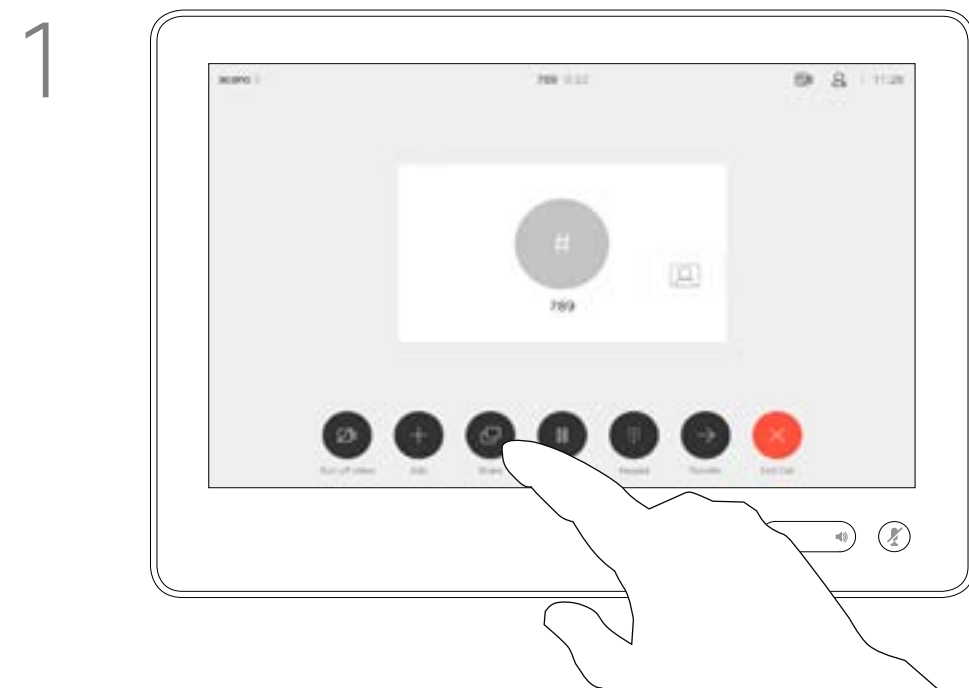
プライバシーの保護が必要な場合は、常に会議室の扉を閉めて、隣室に音が漏れないように配慮してください。



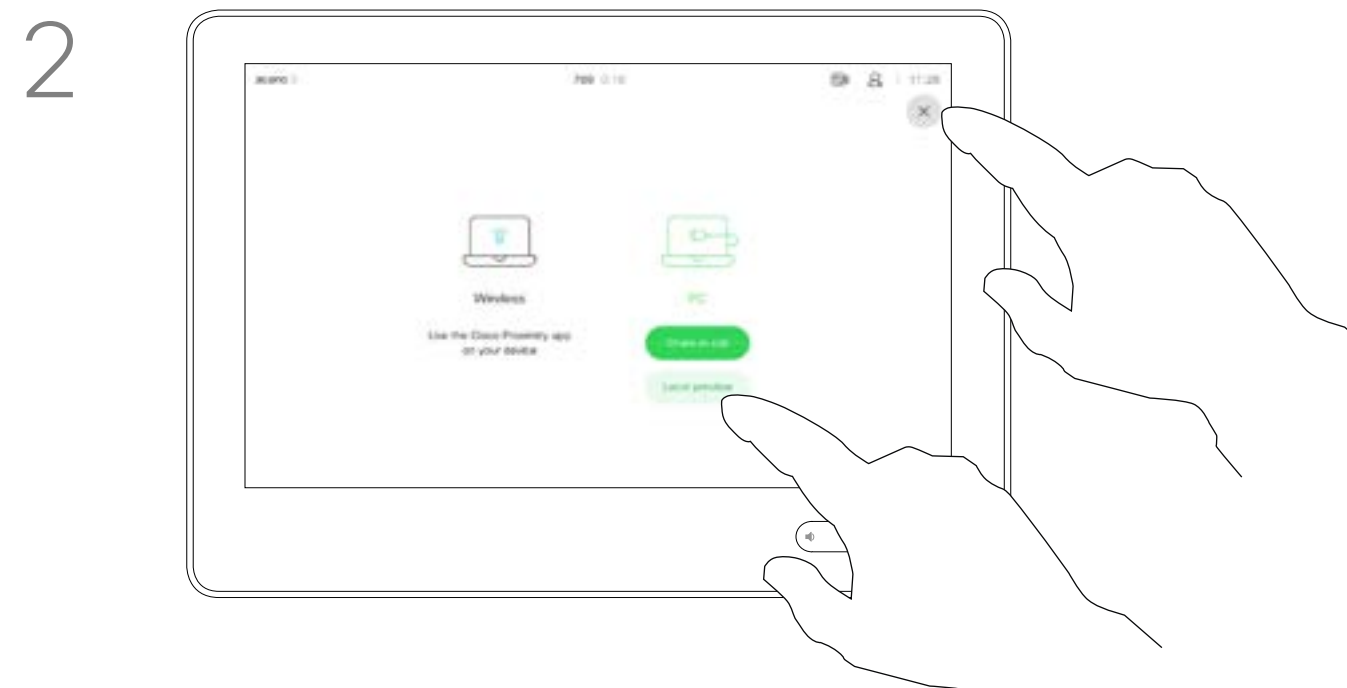
コンテンツ共有

コンテンツ共有 通話中にコンテンツを共有する

コンテンツ共有について



送信元とビデオ システムを適切なケーブルで接続し、スイッチがオンになっていることを確認してから [共有(**Share**)] をタップします。



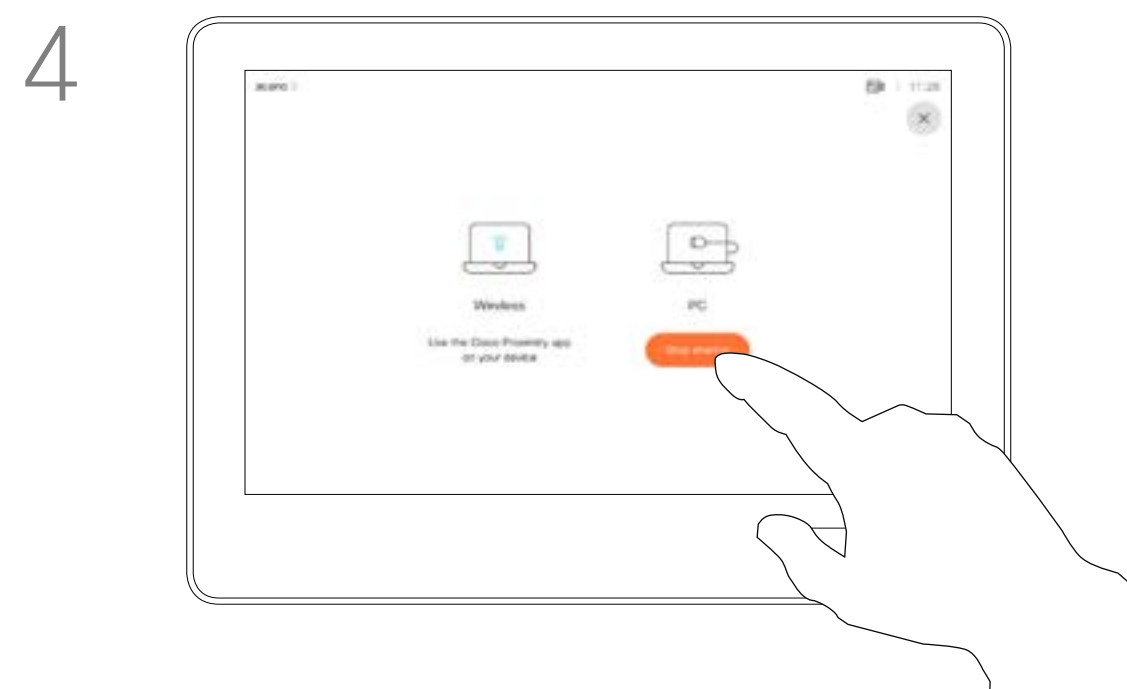
共有するコンテンツを自分のビデオ システムだけで表示するには、[ローカル プレビュー (**Local preview**)] をタップします。これはリモート参加者とは共有されません。

前の表示に戻るには、図のように右上隅の [X] をタップします。



プレビューを中止するには、[プレビューを中止 (**Stop preview**)] をタップします。

リモート参加者とコンテンツを共有するには、[通話中に共有 (**Share in call**)] をタップします。



リモート参加者とのコンテンツ共有を中止するには、[共有を停止 (**Stop Sharing**)] をタップします。

ビデオ システムは、ビデオ通話でプレゼンテーションを表示する機能をサポートしています。

ソース デバイスがインテリジェント近接通信に対応している場合、デバイスの近接通信をオンにし、デバイスをビデオ システムとペアリングするだけでコンテンツをワイヤレスで共有できます。

プレゼンテーション中にレイアウトを変更できます。これについては、次のページを参照してください。

注:ビデオ入力コネクタの 1 つが HDCP 保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV または HD TV デコーダなどからビデオを視聴できるようにシステムが構成されている場合があります。

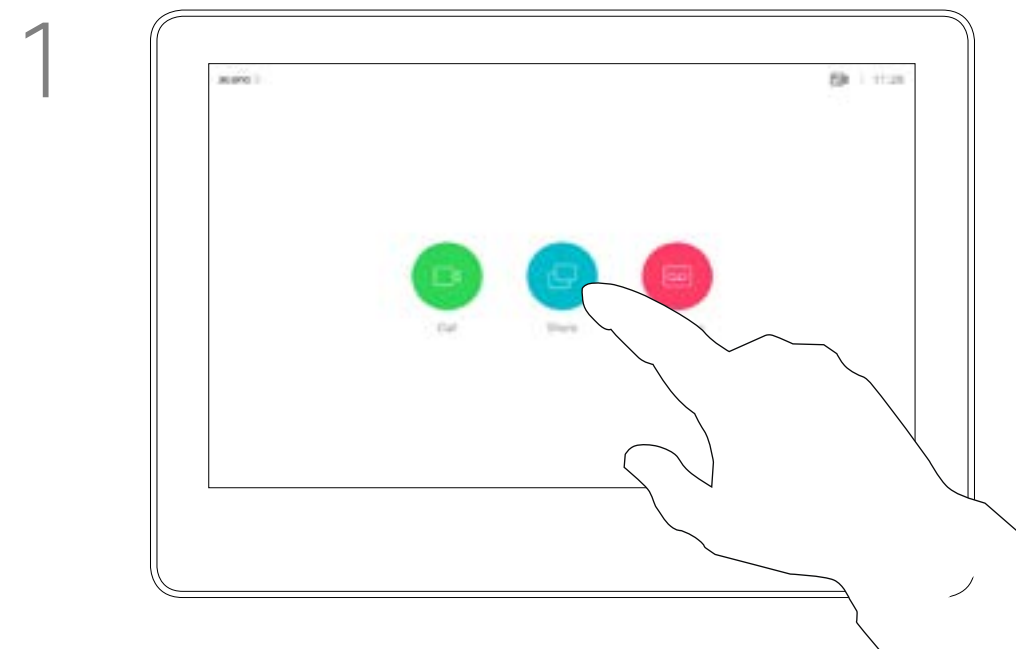
この機能を使用できるのは非通話時のみです。

通話中にこの特定のビデオ コネクタからコンテンツを共有しようとしても、コンテンツの共有は行われません。代わりに、HDCP を維持するために、通常、コンテンツ共有に割り当てられた画面の一部が黒表示になります。

この入力コネクタを使用して通話中にコンテンツを共有しようとすると同じ動作になります。HDCP 保護されていても、されていなくても同じです。

コンテンツ共有 非通話時にコンテンツを共有する

ローカル コンテンツの共有



送信元端末とビデオ システムを適切なケーブルで接続し、スイッチがオンになっていることを確認してから [共有(**Share**)] をタップします。



ビデオ システムの画面内容を表示するには、[共有(**Share**)] をタップします。

前の表示に戻るには、図のように右上隅の [X] をタップします。



セッションを終了するには、[共有を停止(**Stop Sharing**)] をタップします。

また、ローカルな会議でビデオ システムを使用して、非通話時にコンテンツを表示して共有することもできます。

ソース デバイスがインテリジェント近接通信に対応している場合、デバイスの近接通信をオンにし、デバイスをビデオ システムとペアリングするだけでコンテンツをすぐに共有できます。

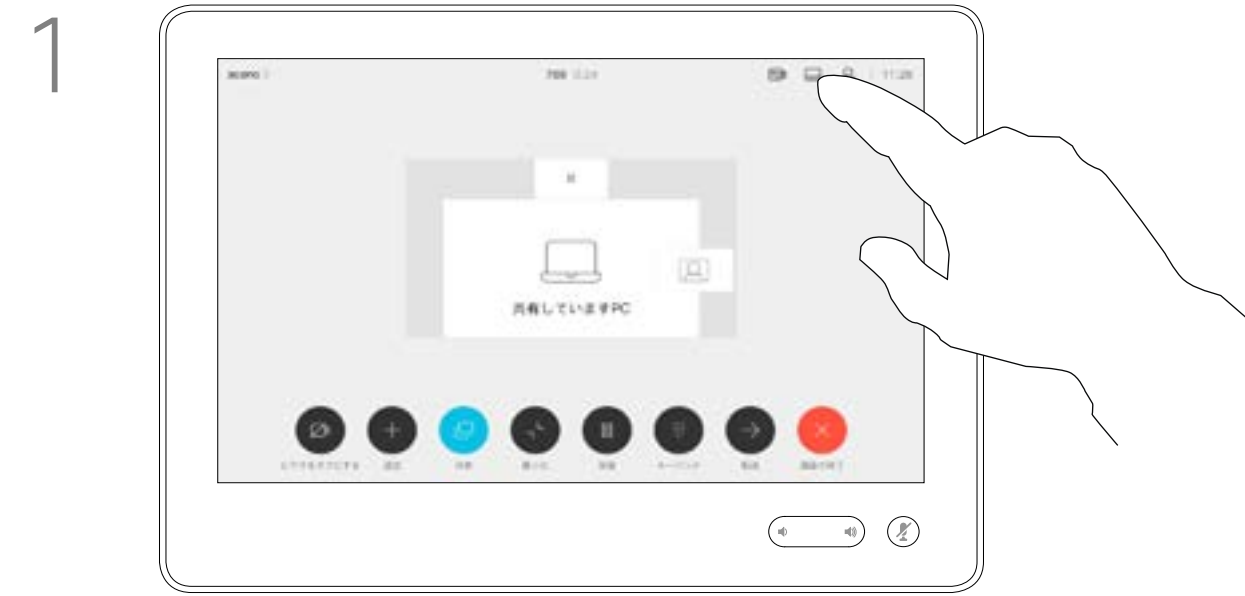
ヒントマルチスクリーン エンドポイントでは、スクリーンと同じ数の独立したプレゼンテーションを表示できます。これは非通話時のみ可能です。

注：最初に接続するプレゼンテーションはワイヤレス接続にし、その後でケーブル接続を行うことをお勧めします。逆の順番で接続すると、最初の接続が切断されることがあります。

HDCP! ビデオ入力コネクタの 1 つが HDCP 保護されたコンテンツを共有し、Google ChromeCast、AppleTV または HD TV デコーダなどからビデオを視聴できるようにシステムが構成されている場合があります。詳細については、前のページも参照してください。

コンテンツ共有 通話中のプレゼンテーション レイアウトの変更

プレゼンテーション レイアウトについて



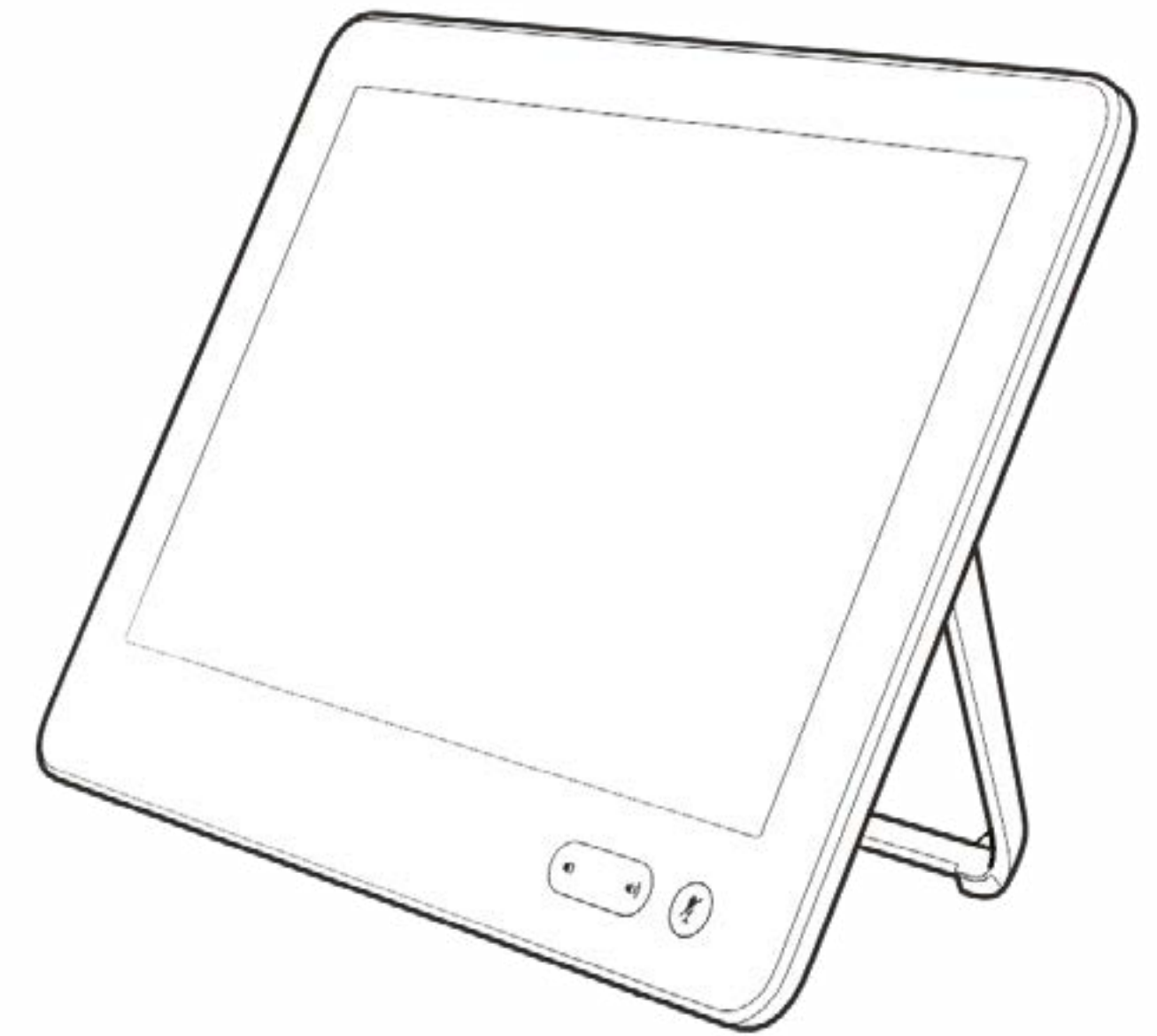
1 図のようにレイアウトアイコンをタップします。



2 使用するレイアウトをタップします。完了したらフィルムストリップ以外の場所をタップします。

プレゼンテーション中に画面のレイアウトを変更できます。通常使用できるオプションは、プレゼンターの表示あり/なし、およびプレゼンターを PiP(ピクチャ イン ピクチャ)か PoP(ピクチャアウトサイド ピクチャ)のいずれかとして表示する、というものです。

ご利用のシステムで有効なレイアウトオプションは、ここで示されているものと異なる場合がありますが、示されているレイアウトは常にいずれかを選択できます。



スケジュールされた会議

スケジュールされた会議

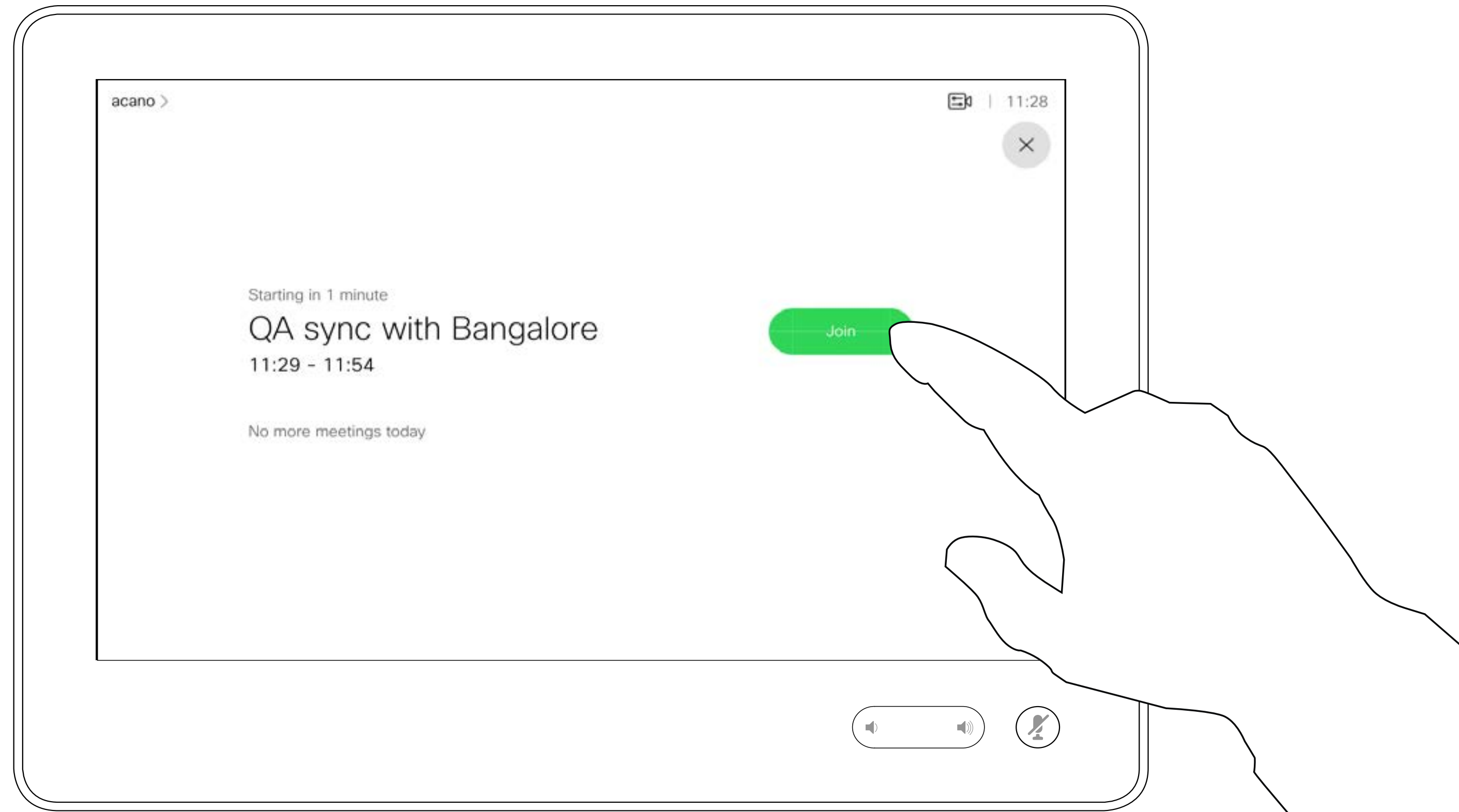
スケジュールされた会議に参加する

会議への入室

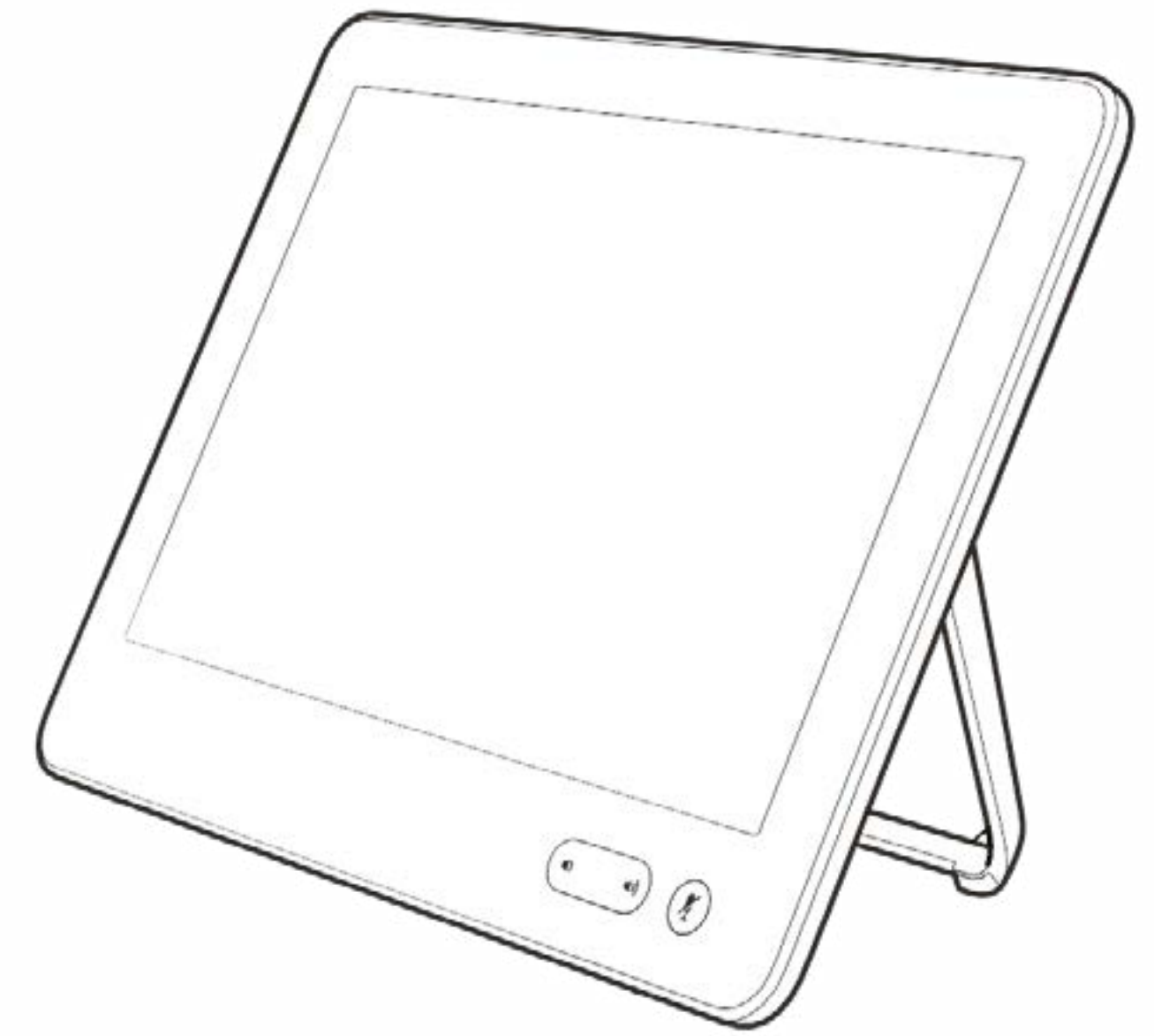
ビデオ会議をスケジュールすることができる管理システムに、ビデオシステムを接続することができます。スケジュールされた会議は左図のように表示されます。

会議に参加するには [参加(Join)] をタップします。

会議がすでに始まっていても参加できます。



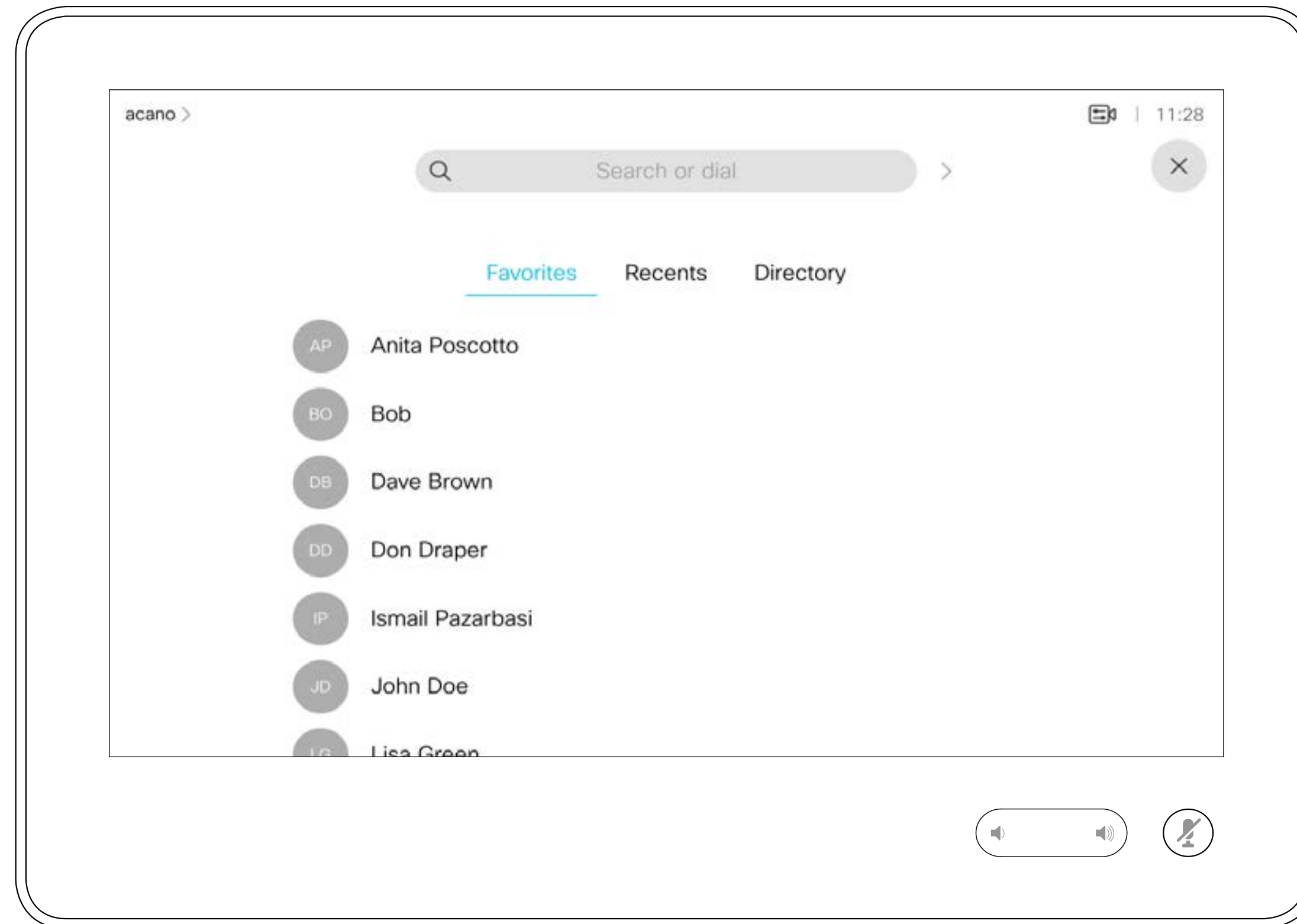
時間になると、会議への参加を促すプロンプトが表示されます。[参加(Join)] をタップします。



コンタクト

コンタクト
お気に入り、発着信履歴、およびディレクトリ

連絡先リストについて



連絡先リストは、次の 3 つの部分で構成されています。

お気に入りこれらの連絡先は、自分でお気に入りとして登録したものです。通常、頻繁に通話する連絡先や、素早く簡単にアクセスする必要がある連絡先を、お気に入りとして登録します。

[ディレクトリ(Directory)] は通常、ビデオ サポート チームがシステムにインストールした社内ディレクトリです。

[発着信履歴(Recents)]は、発信、受信、不在着信のリストです。

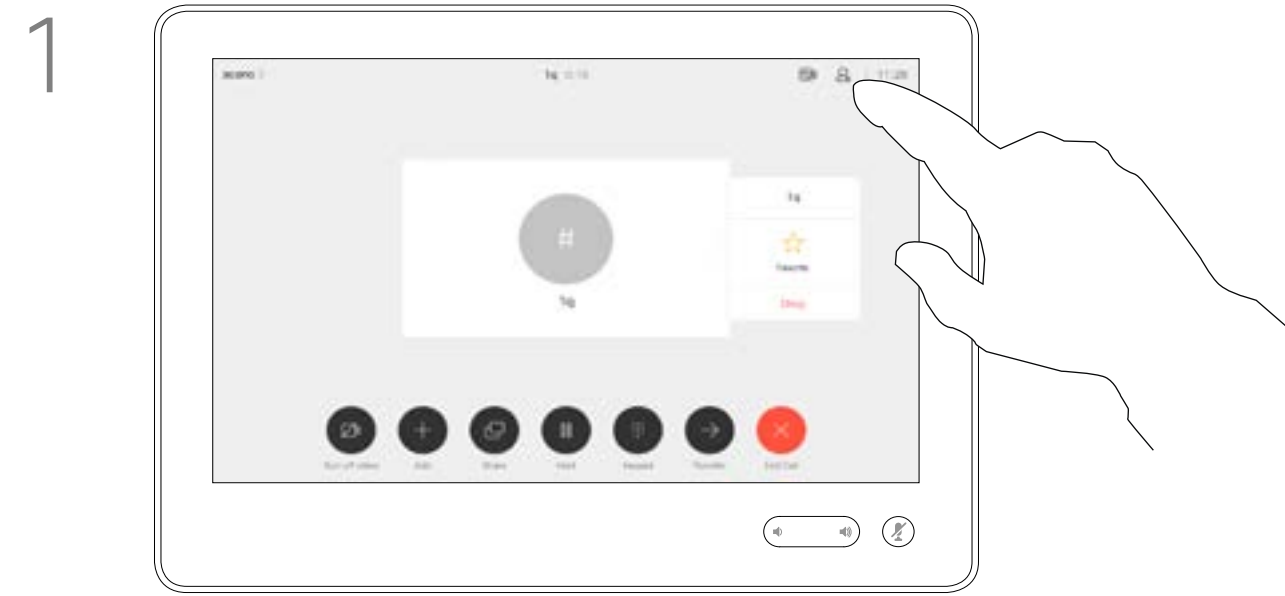
[発着信履歴(Recents)] からのエントリの削除は、Web インターフェイスでのみ行うことができます。

コンタクト 通話中に [お気に入り(Favorite)] に追加する

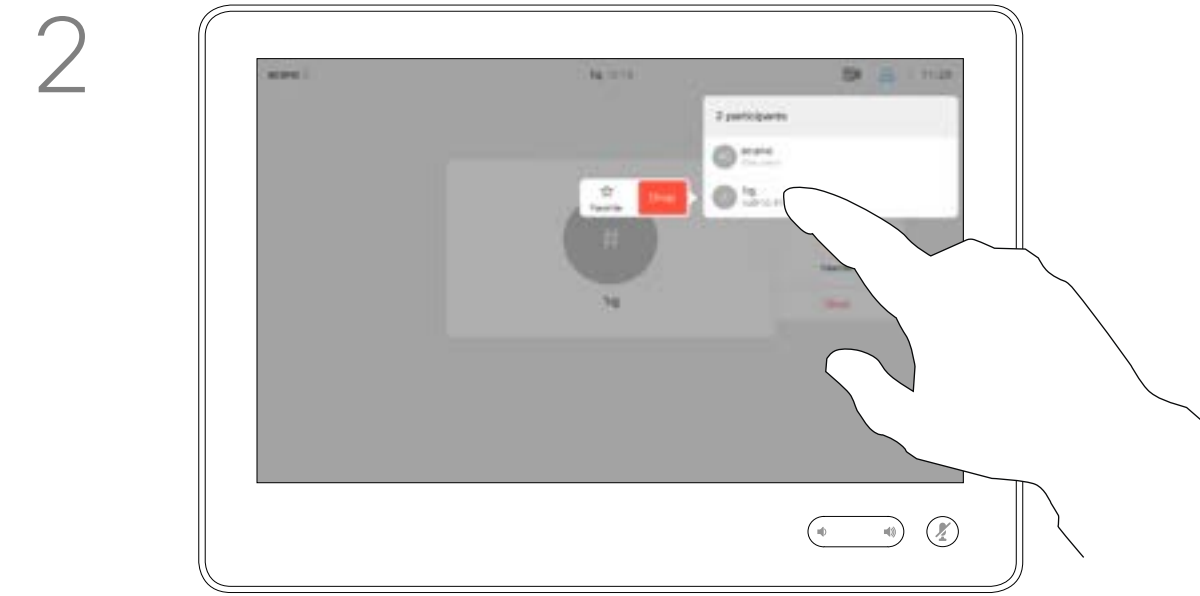
お気に入りについて

[お気に入り(Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

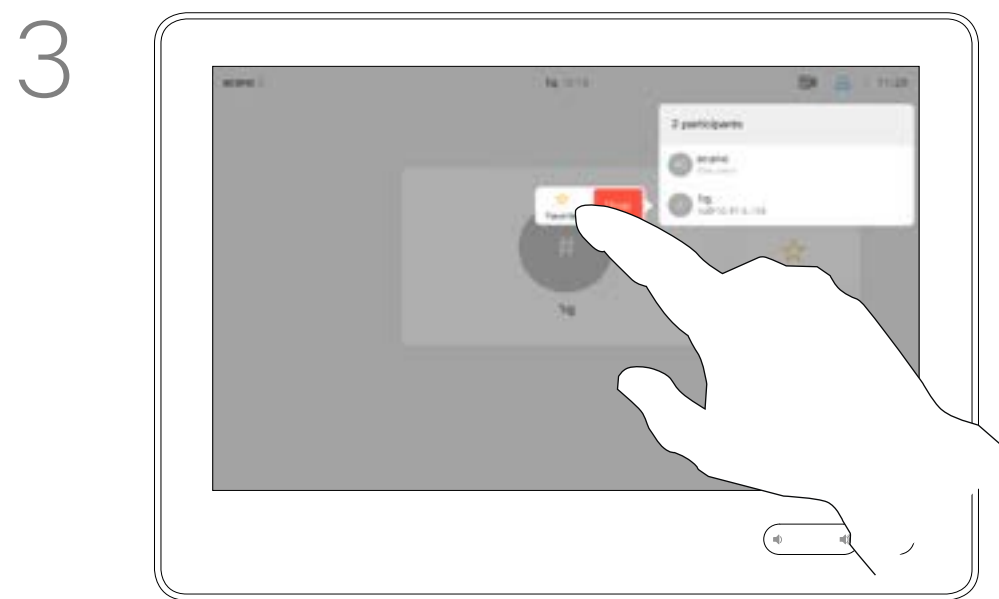
[お気に入り(Favorites)] は、[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



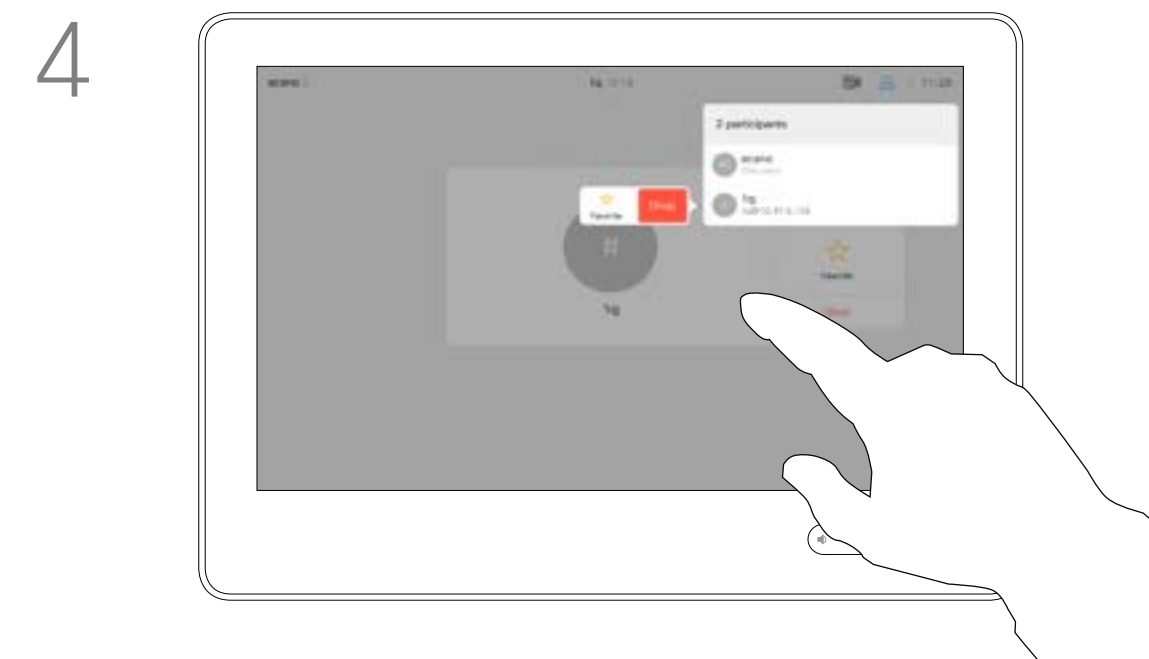
1 通話中に、図のように右上隅の [参加者 (Participants)] アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



2 参加者のリストで、誰かをタップするとその人が [お気に入り(Favorite)] に追加されます。



3 [お気に入り(Favorite)] をタップします。



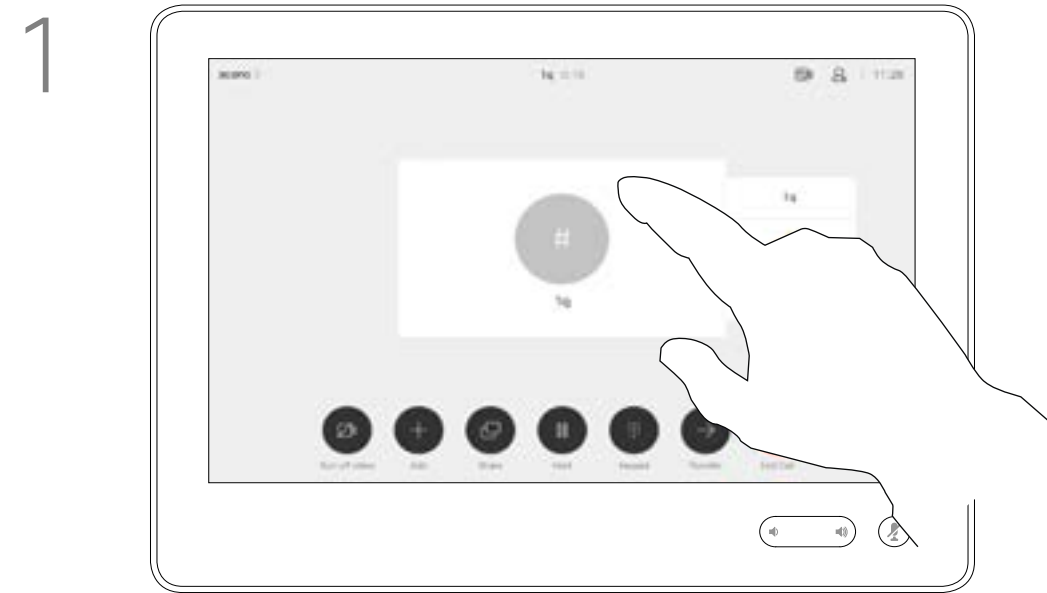
4 その参加者は [お気に入り(Favorite)] のリストのメンバーになります (星印が金色に変わります)。

[お気に入り(Favorites)] リストからエントリを削除するには、[連絡先(Contacts)] 中の [お気に入り(Favorites)] に移動して、この手順を繰り返します。

完了したらメニュー以外の場所をタップします。

コンタクト 誰かを非通話時にお気に入りに追加する

この機能について



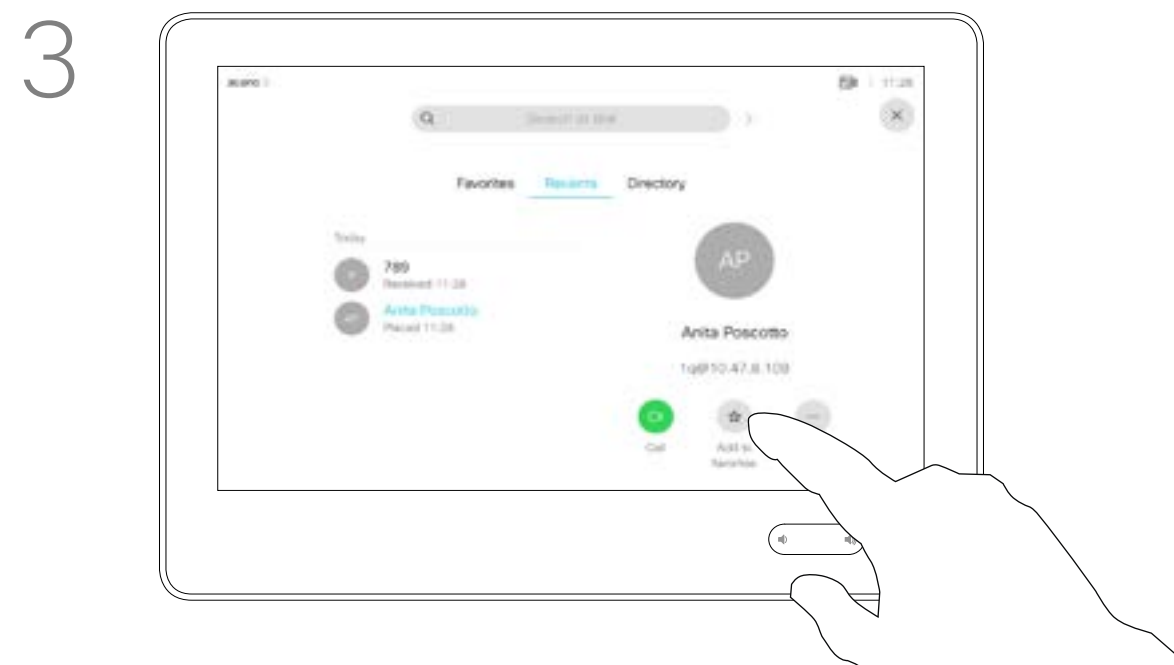
図のように、[発信(Call)](図示せず)をタップして、[連絡先(Contacts)]リストを呼び出します。[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] をタップして、[お気に入り(Favorites)] に追加するエントリを探します。



エントリをタップし、[お気に入り(Favorite)] に追加します。上記の画面が表示されます。

[お気に入り(Favorites)] は、頻繁に通話する、または簡単にアクセスしたい相手を含む連絡先リストです。

[お気に入り(Favorites)] は、[発着信履歴(Recents)] または [ディレクトリ(Directory)] リストから選択するか、手動で入力できます。



[お気に入りに追加(Add to Favorites)] をタップします。これで、エントリが [お気に入り(Favorites)] に追加されました。



図のように、[お気に入り(Favorite)] が金色の星印で表示されます。

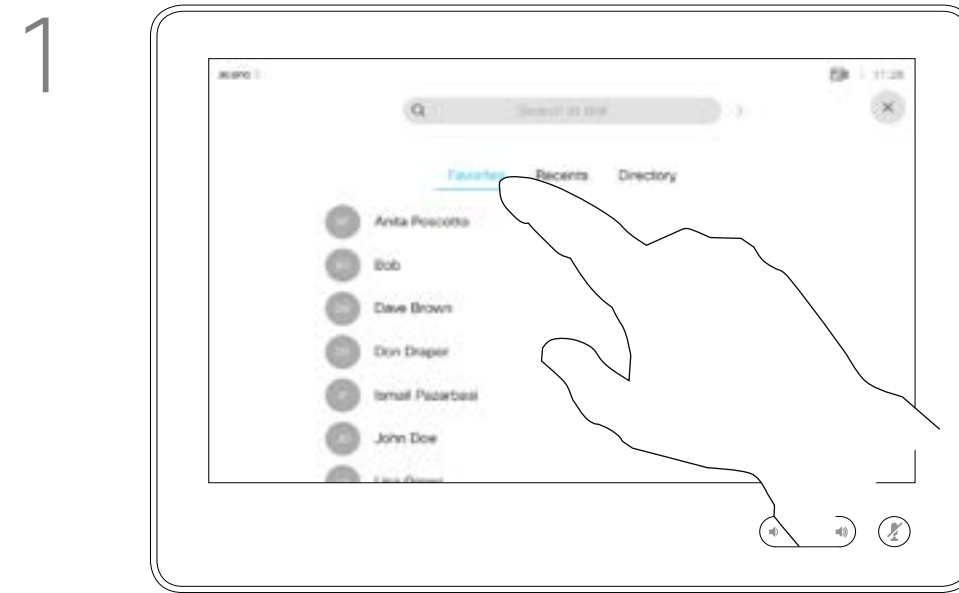
[お気に入り(Favorites)] リストからエントリを削除するには、この手順を繰り返します。

このメニューを終了するには、図のように [X] をタップします。

コンタクト 既存のお気に入りを編集する

この機能について

この機能を使用すると、お気に入りをいつでも更新することができます。



図のように、[発信(Call)](図示せず)をタップして、[連絡先(Contacts)]リストを呼び出します。お気に入りのリストにアクセスするには、お気に入りをタップします。



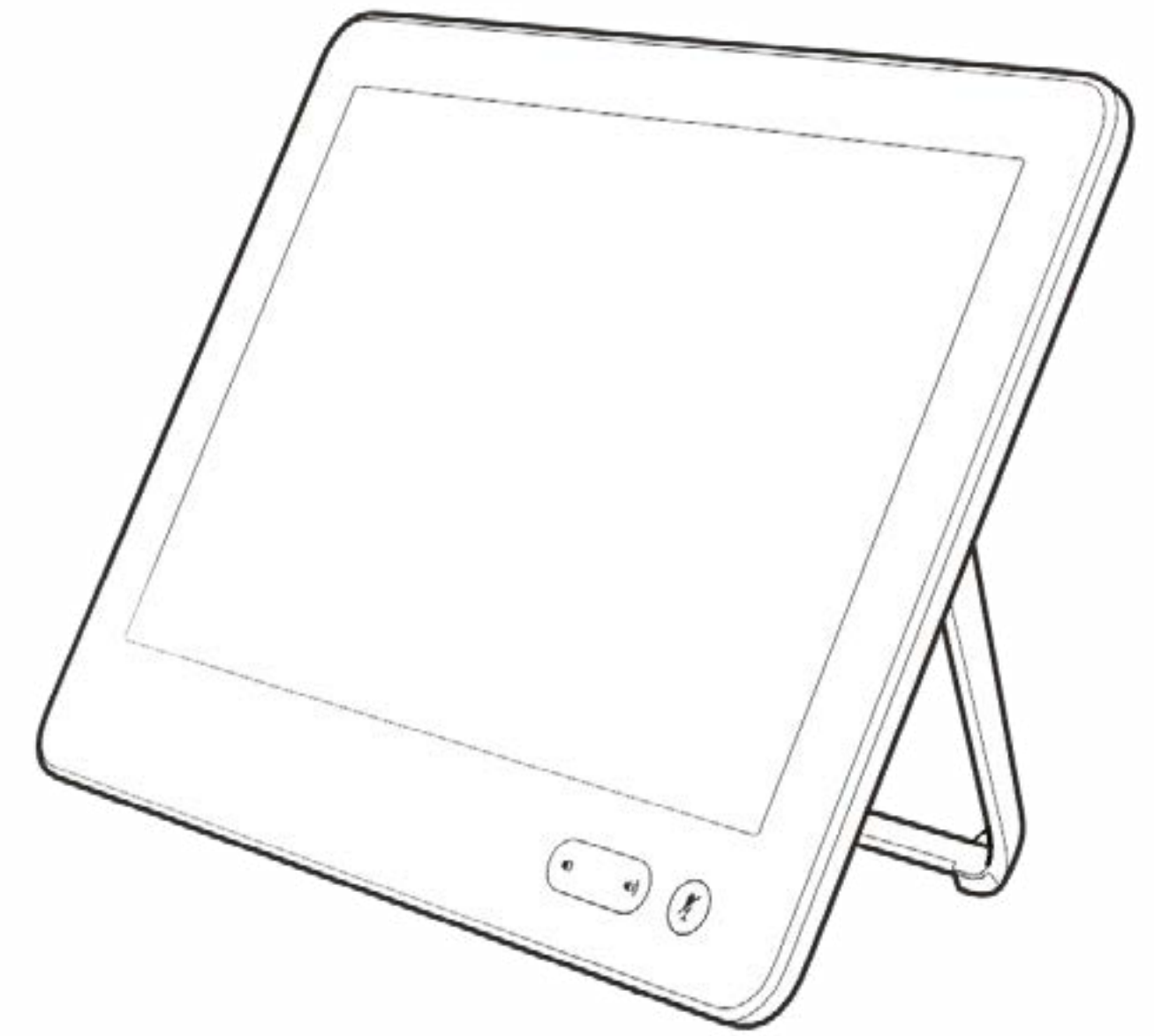
[お気に入り] をタップして編集します。これにより、次のオプションが作成されます。ここで、**その他**をタップします。



お気に入りの編集をタップします。



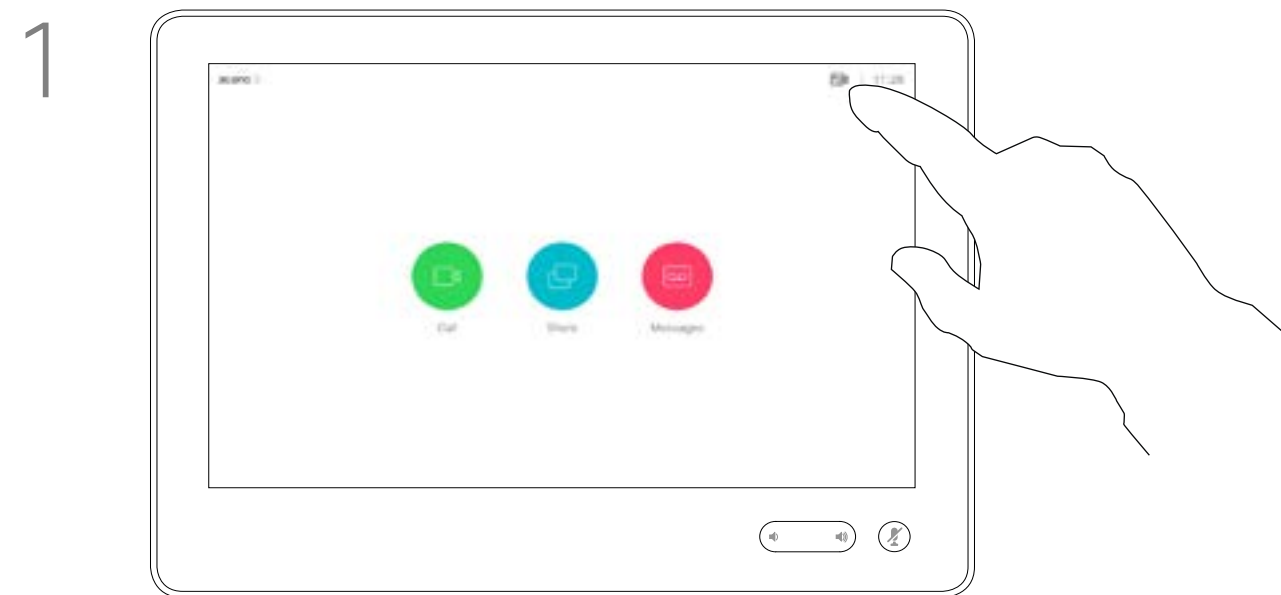
お気に入りのエントリを編集して、**保存**をタップして変更を適用し、終了します。変更を適用しない場合は、**キャンセル**をタップします。



カメラ

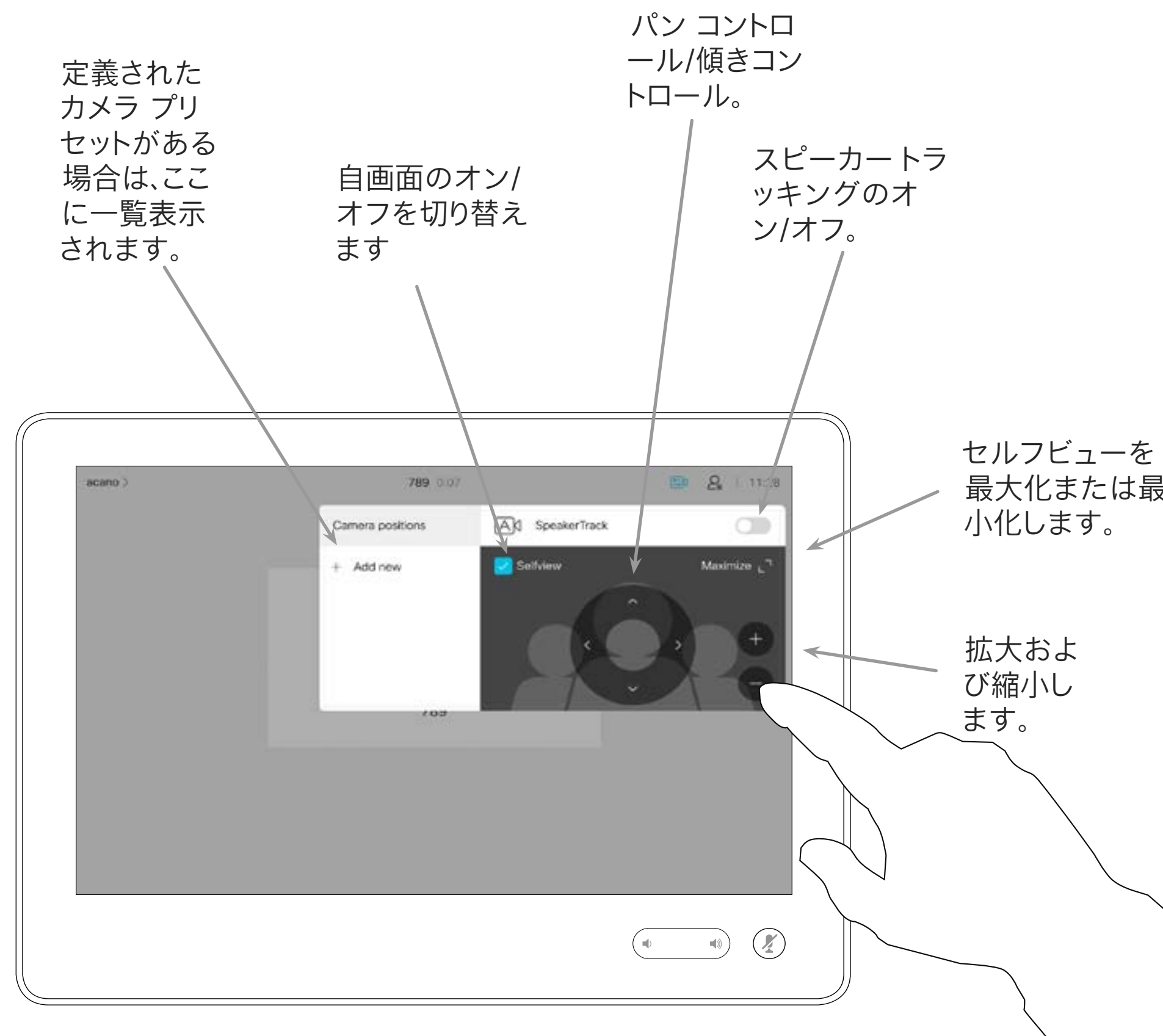
カメラ カメラ設定を表示する

カメラ操作について



1
カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。

2



カメラの設定では、カメラのズーム、パン、傾きを制御するだけでなく、カメラ位置のプリセットを定義および編集することができます。

さらに、セルフビュー(他の参加者に表示される画面)のオン/オフ、表示の最小化と最大化の切り替えが可能です。

セルフビューの位置により、画面上の画像の重要な部分が見えなくなっている場合は、セルフビューを移動できます。

スピーカートラッキングを搭載したシステムでは、この機能をオンにすると、カメラシステムがプレゼンターを拡大します。

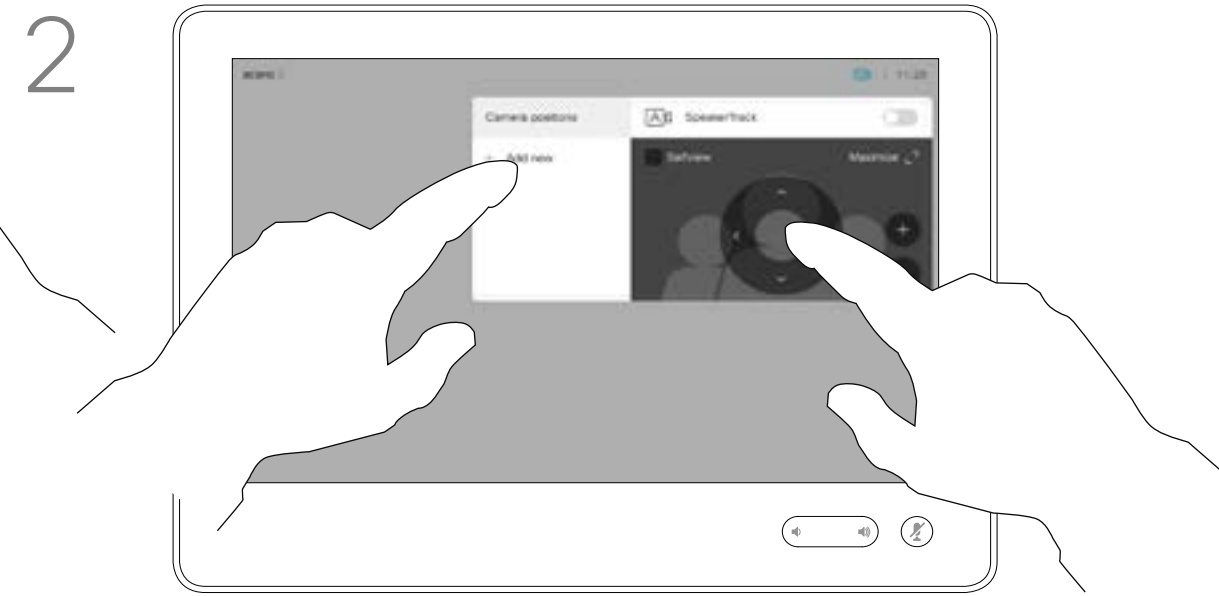
カメラ

カメラ位置プリセットを追加する

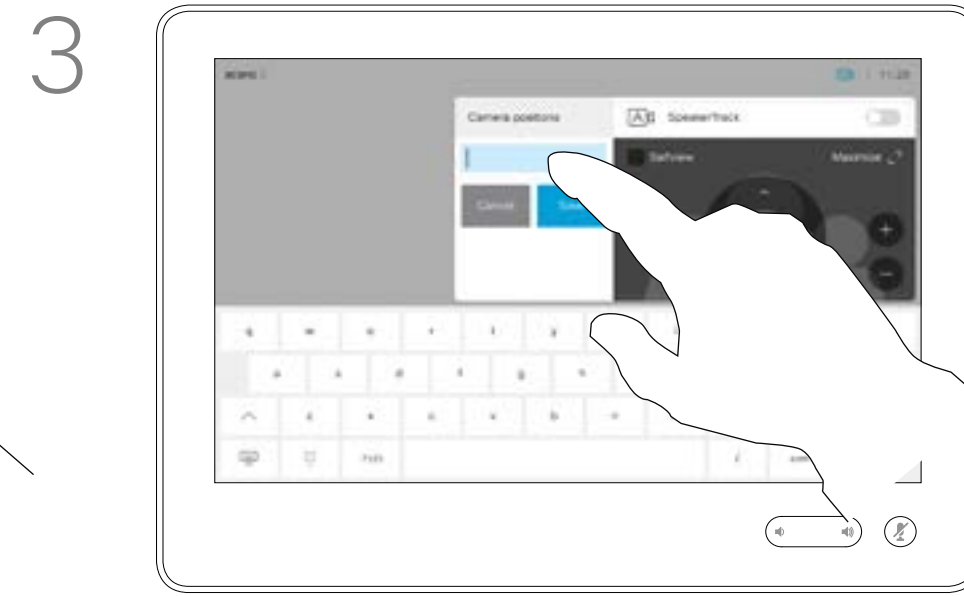
カメラのプリセットについて



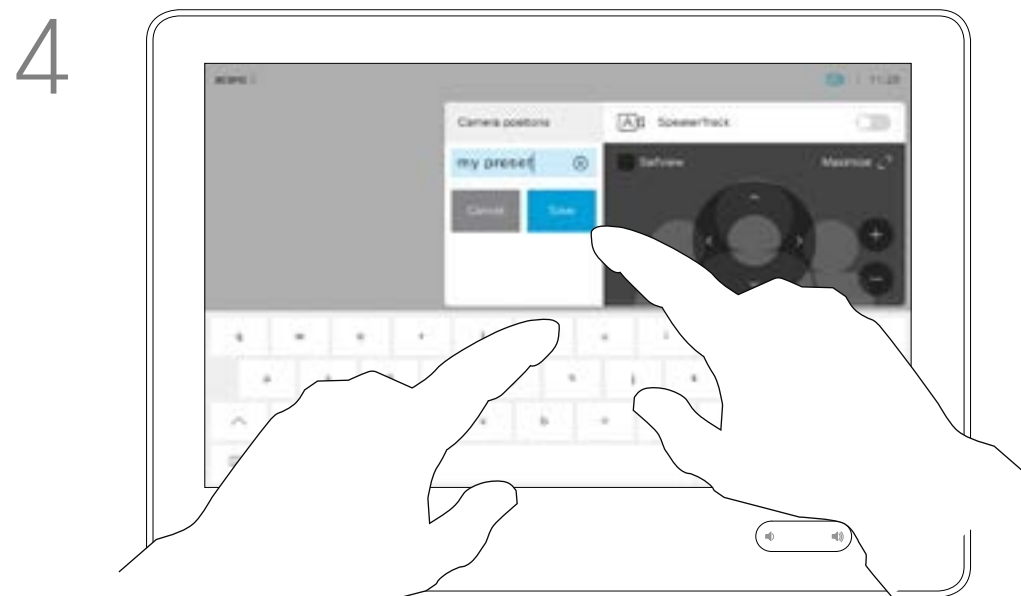
1 カメラをタップして、カメラ調整メニューを呼び出します。



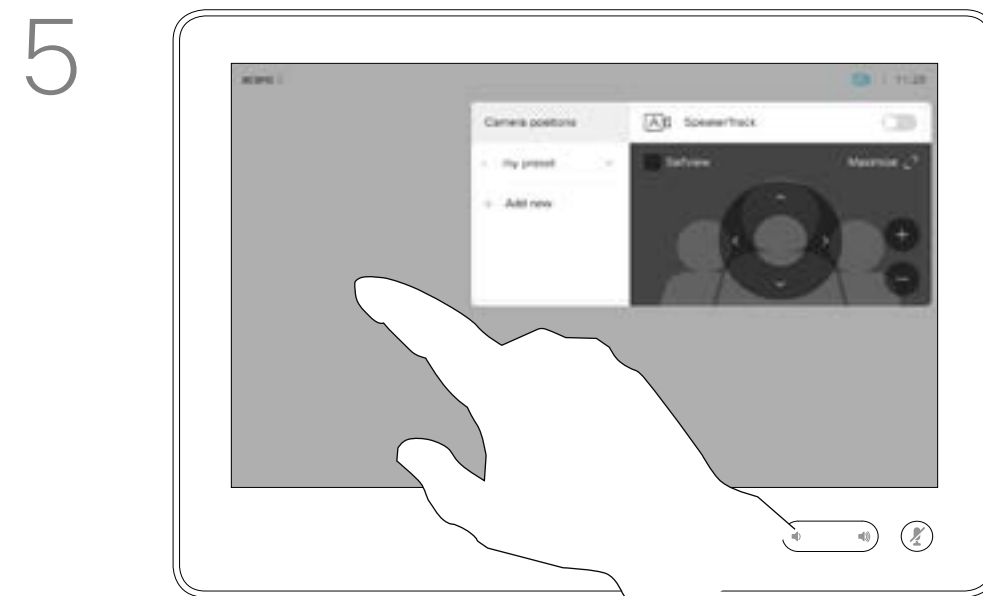
2 セルフビューが自動的に有効化されます。必要に応じて、傾き、パン、およびズームを調整します。次に **[+ 新規追加 (+ Add new)]** をタップします。



3 テキスト フィールドをタップします。



4 わかりやすい名前を付けて [保存(Save)] をタップすると、変更が適用されます。



5 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

ご利用のビデオ システムでは、ズームおよびカメラの向き(パンおよび傾き)を事前に定義できます。必要であれば、これらを使用し、発表者にズームします。後からズーム アウトすることを忘れないでください。

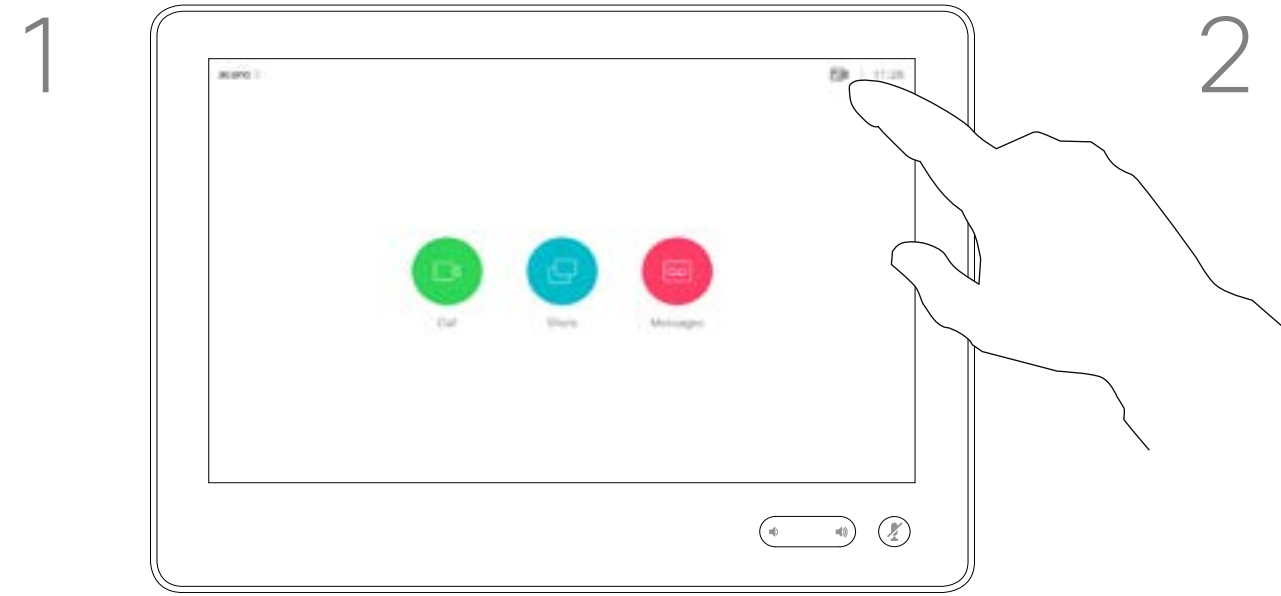
つまり、1 つまたは複数のズームインプリセットを作成する場合は、ズームアウト(概要)プリセットも作成して、概要モードに簡単にスイッチバックできるようにする必要があります。

(カメラが遠隔操作可能であれば)他の参加者のカメラなどの相手先カメラを操作することもできますが、相手先カメラのプリセットを定義または利用することはできません。

カメラ

カメラ位置プリセットの編集

プリセットの編集について



1 [カメラ (Camera)] をタップして、[カメラ (Camera)] メニューを呼び出します。



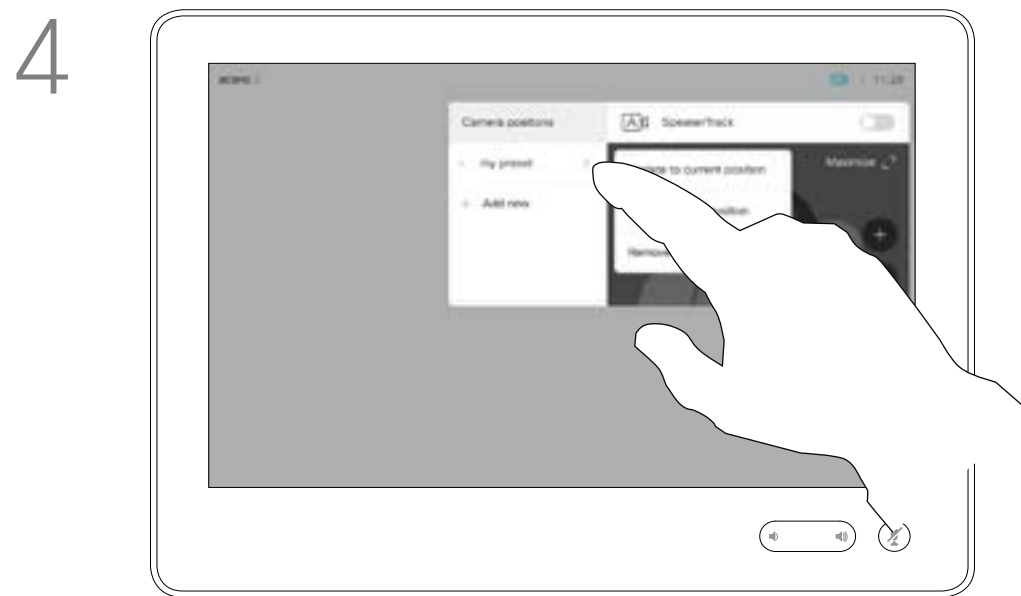
2 編集するプリセットをタップします。セルフビューが自動的に有効化されます。



3 必要に応じて、パン、傾き、およびズームを調整します。

プリセット編集は、既存のプリセットを取得し、それを変更して同じ名前で作成することです。

名前を変更する場合は、プリセットを削除してから、好きな名前で作成することをお勧めします。

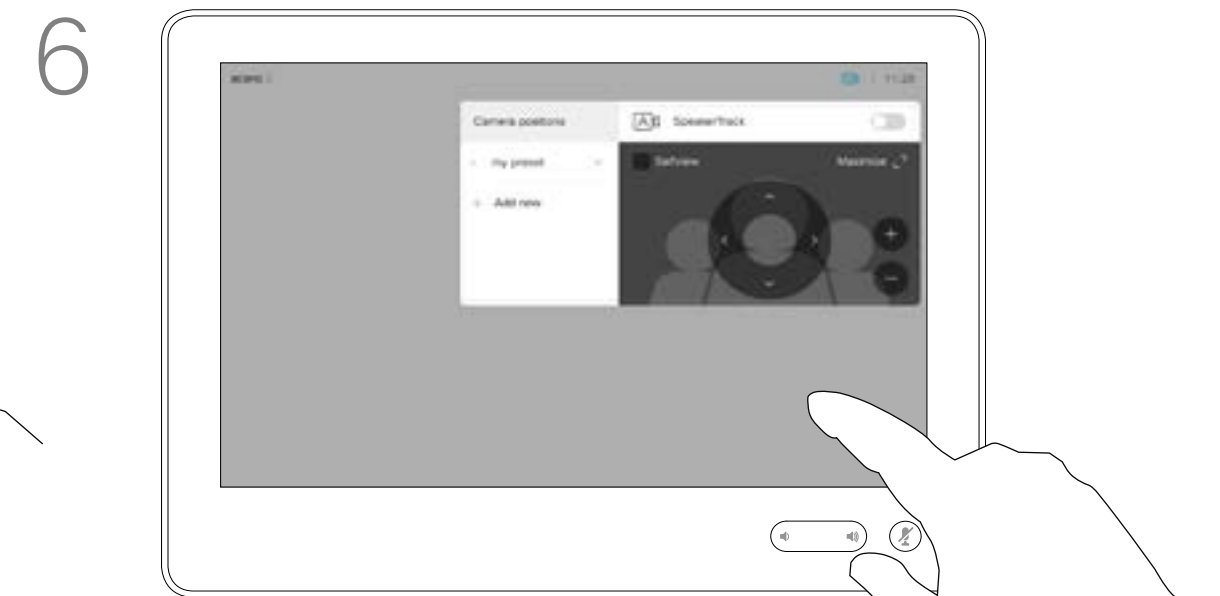


4 編集するプリセットの小さな矢印をタップします。



5 [現在のプリセットを上書き(Update to current position)] をタップして変更を適用します。

既存のプリセットを削除するには [削除(Remove)] をタップします。

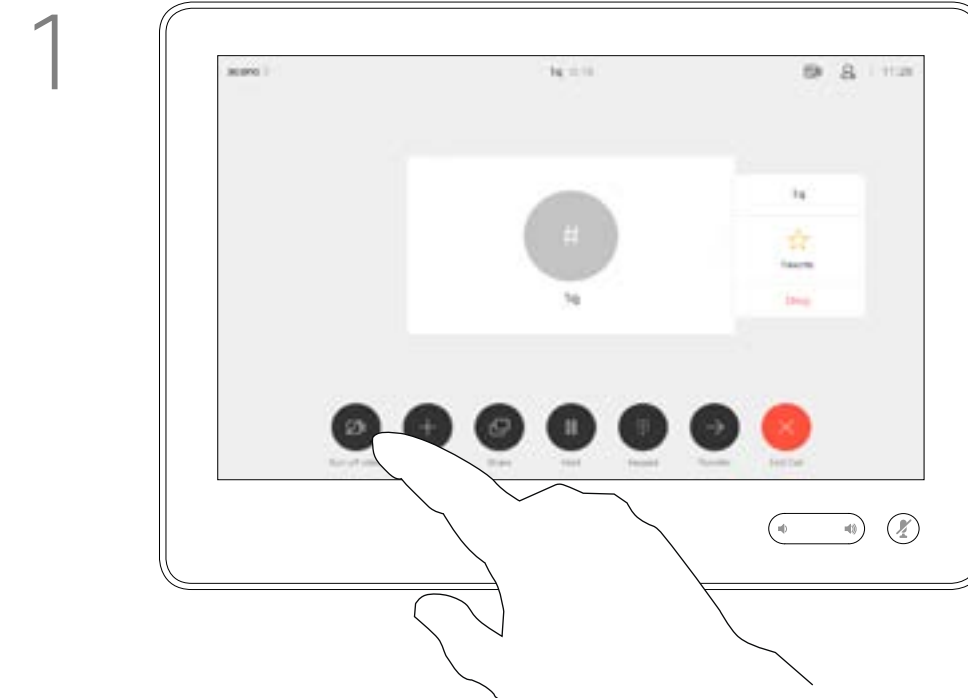


6 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

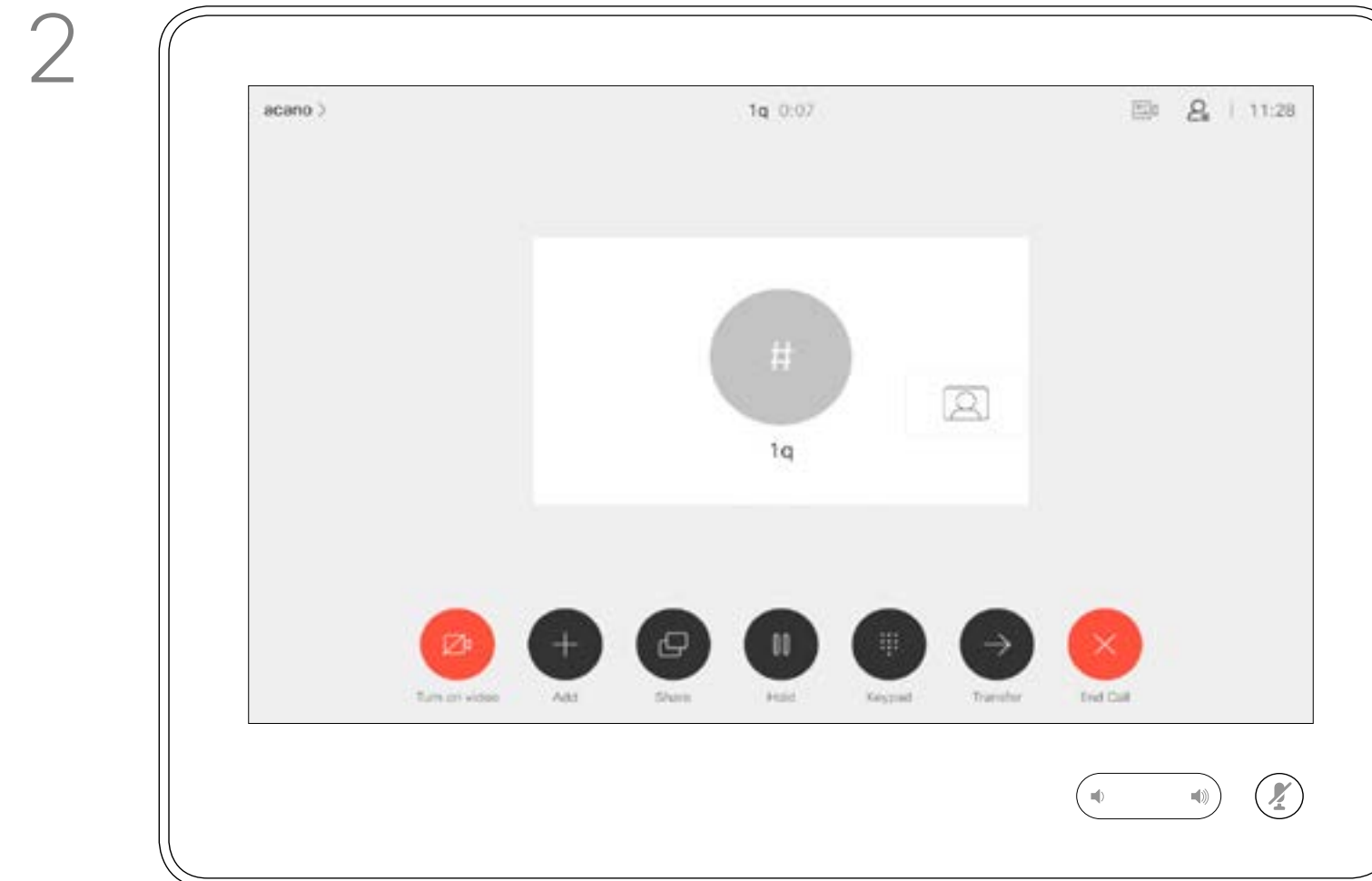
カメラ

Camera のオン/オフを切り替える

ビデオ オフについて



図のように オフにする をタップします。

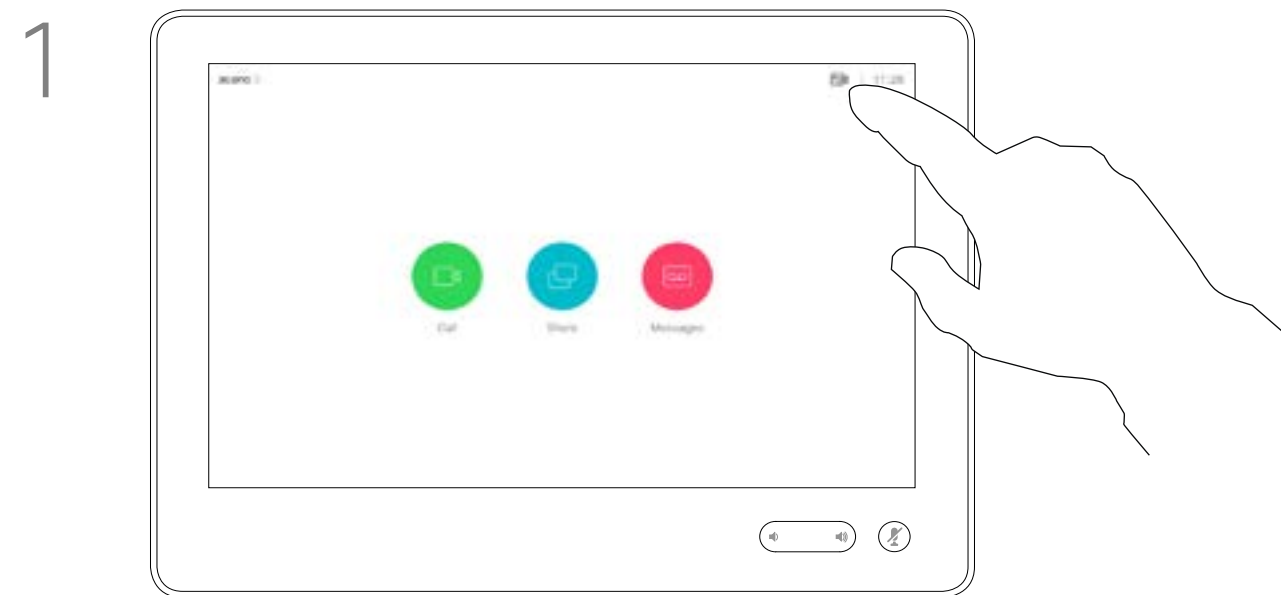


アイコンが赤色に変わり、システムからビデオが送信されていないことを示します。この機能を無効にするには、もう一度タップします。

ビデオ オフ機能は、カメラを機械的にブロックすることができないシステムで、カメラからのビデオ送信を制御を可能にするために設計されています。

カメラ スピーカー トラッキング

スピーカー トラッキングについて



1 [スピーカー トラッキング(Speaker Tracking)] を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



2 右上隅にあるボタンをタップして、スピーカー トラッキング機能をアクティブにします。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。
スピーカー トラッキングを非アクティブにするには、この手順を繰り返します。

スピーカー トラッキング カメラ システムを搭載したシステムでは、ビルトイン マイク アレイと連動するカメラを使用します。システムがプレゼンターを追跡して表示するので、[カメラ操作(Camera Control)] メニューや [カメラ プリセット(Camera Presets)] を使用して拡大または縮小する必要はありません。

スピーカー トラッキングがアクティブになっても、カメラ位置プリセットは使用できません。スピーカー トラッキングをオフにして、プリセットにアクセスできるようにします。

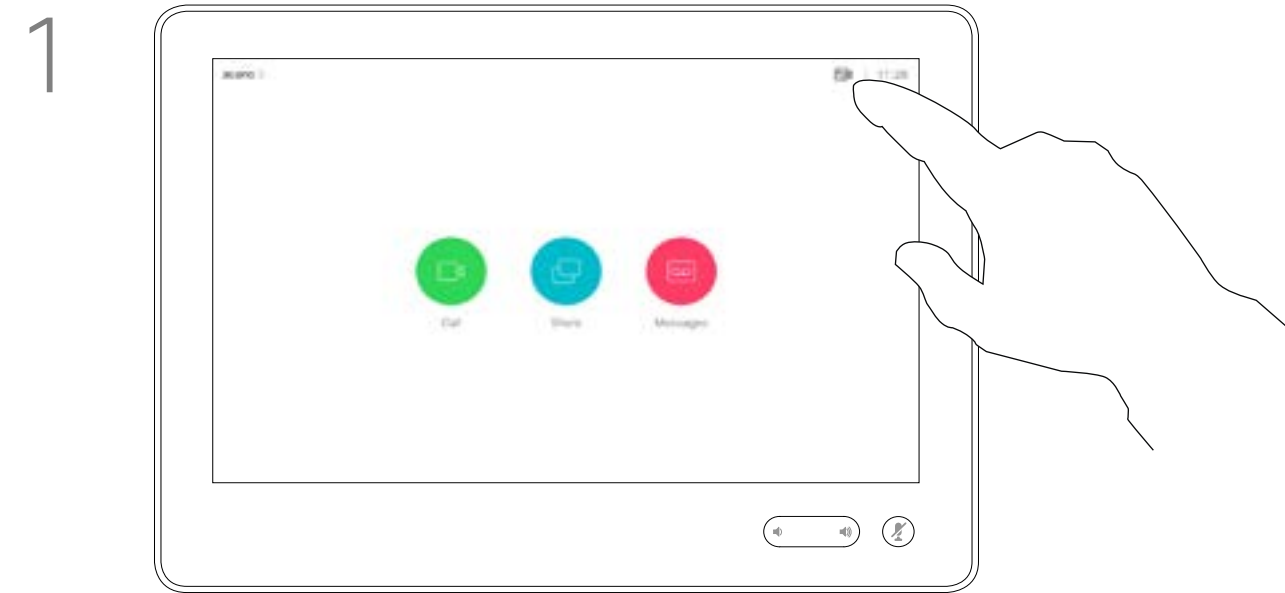
必要に応じて、このページで示されているように、もう一度スピーカー トラッキングをアクティブにします。

注意 マイクがミュートにされている場合、スピーカー トラッキングは動作しません。

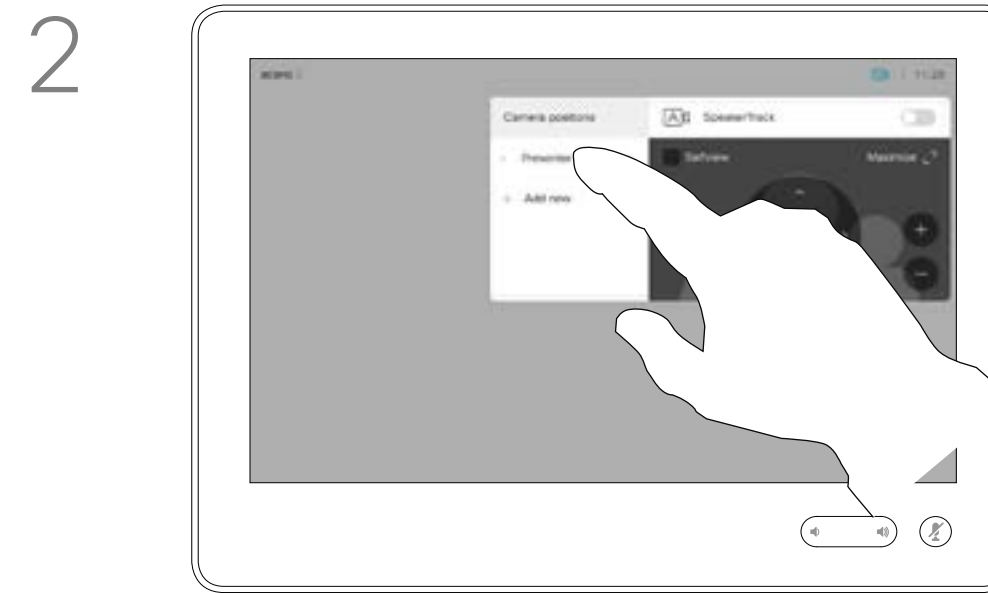
スピーカー トラッキングを拡張して、ホワイトボードにスナップ機能やプレゼンター トラッキング機能を含めることができます。その方法については、次のページで説明します。

カメラ プレゼンタートラッキング

プレゼンター トラッキング について



1 [プレゼンタートラッキング(Presenter Tracking)]
を有効にするには、右上隅のカメラをタップします。



2 プレゼンタートラック対応のシステムは、図のよう
にカメラ プリセットとしてこの機能を備えていま
す。スピーカートラッキングがアクティブになって
いても、カメラ プリセットにはアクセスできません(
詳細については、前のページを参照)。



3 メニュー以外の場所をタップして終了します。
プレゼンタートラッキングを非アクティブにするに
は、[プリセット(preset)] を再度押します。

スピーカートラッキング対応のシステ
ムには、[プレゼンター(Presenter)] プリ
セットを追加できます。このプリセットは、
ビデオ サポート チームによって動作す
るように実装されているはずですが。

プレゼンタートラックを使用すると、ス
テージ上で移動しているプレゼンター
をカメラが拡大して追跡できます。ステ
ージのゾーンはビデオ サポート チーム
によって定義されます。

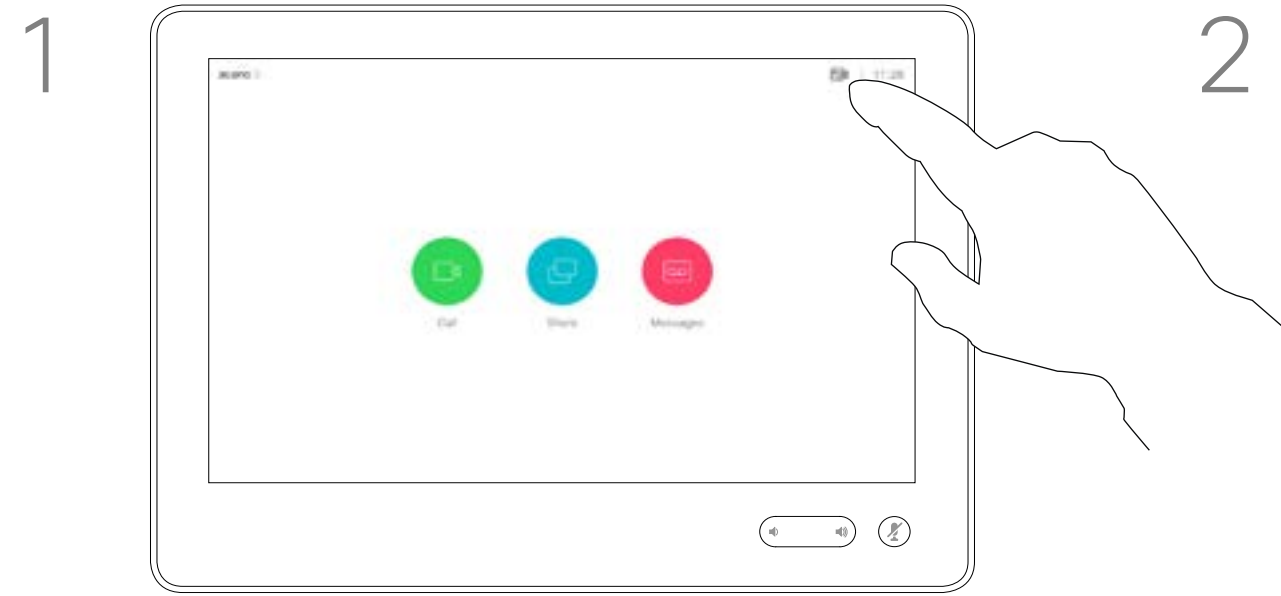
プレゼンターがステージを降りると、トラ
ッキングは停止されます。

この機能の設定手順およびこの機能を
サポートする製品は、当社の会議室シス
テムおよびコーデックに関する CE9.2
管理者ガイドを参照してください。

カメラ 自分のカメラを操作する

プリセットの編集について

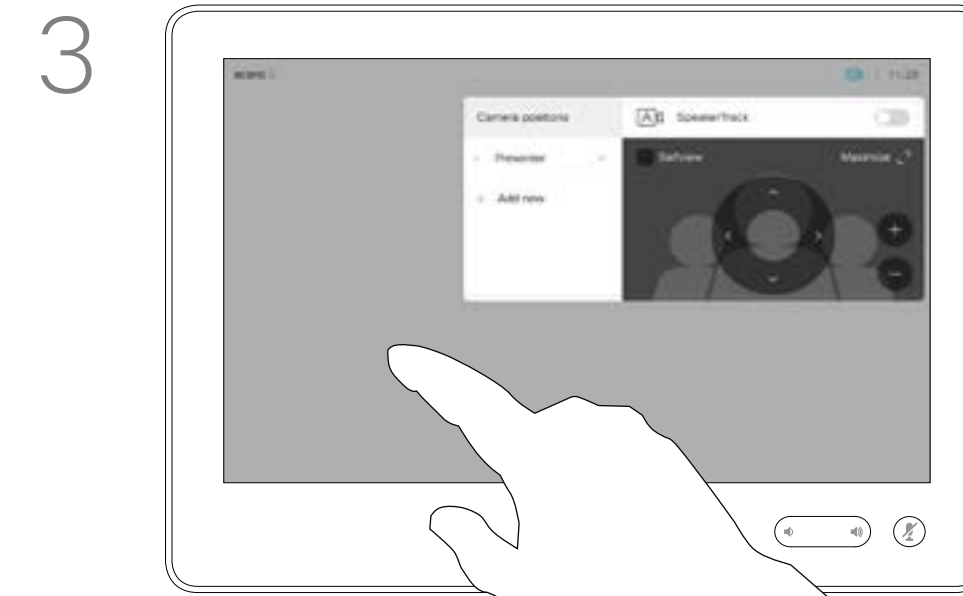
カメラ プリセットの使用



1 通話中または通話外で(図は通話外)、[カメラ(Camera)]をタップします。



2 使用するプリセットを選択します。



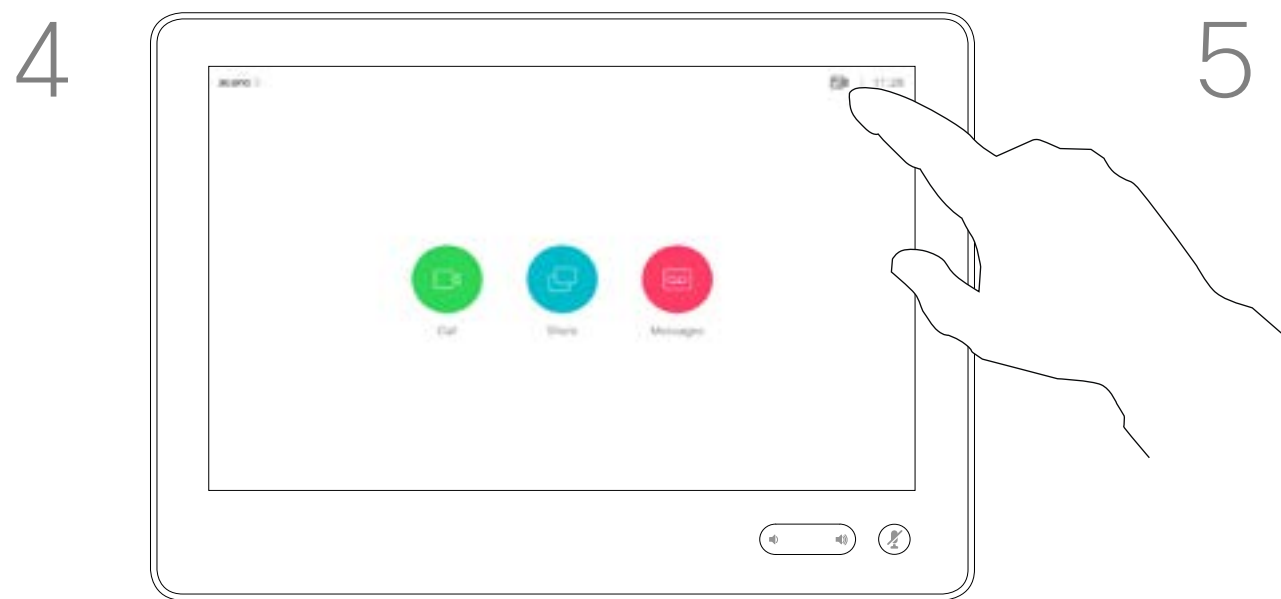
3 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

通話中に、既存のカメラ プリセットをすぐに使用することができます。

ご利用のビデオ システムには複数のカメラが搭載されています。たとえば、1 台は参加者を撮影し、もう 1 台はホワイトボードを撮影します。

新しいカメラ プリセットを追加するか、既存のカメラ プリセットを変更する場合は、非通話時と同じ方法で行います。プリセットを追加したり、編集したりする代わりに、カメラのパン、傾き、およびズームを簡単に調整することも検討する必要があります。

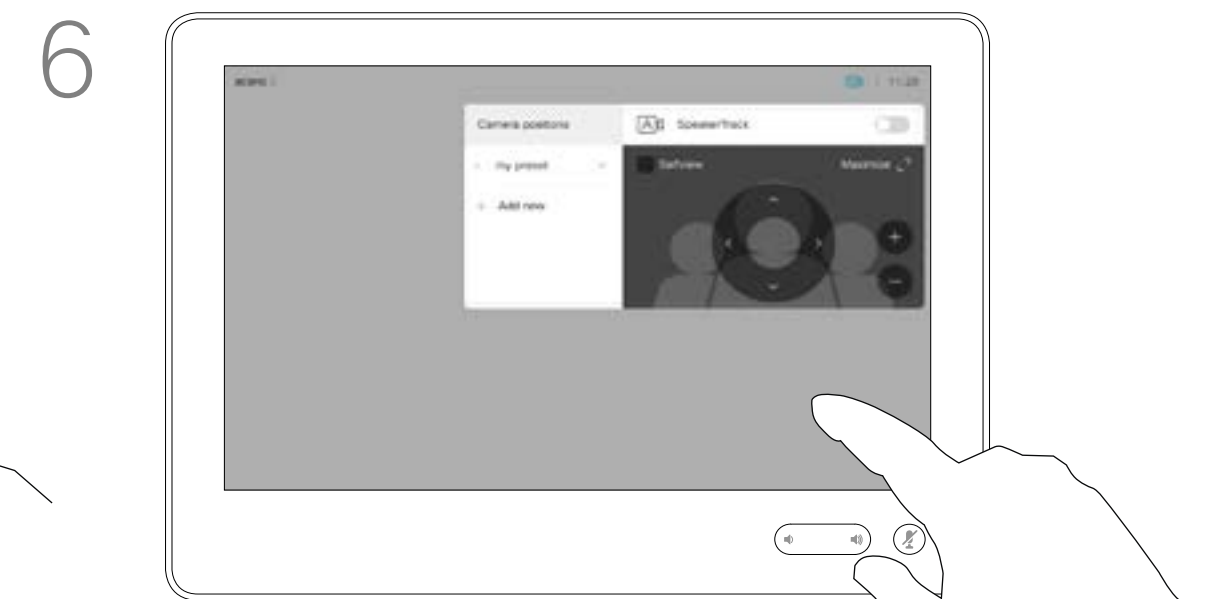
カメラのパン、傾き、およびズームの調整



4 通話中または通話外で(図は通話外)、[カメラ(Camera)]をタップします。



5 パン、傾き、およびズームを調整します。セルフビューが一時的にオンになり、操作をアシストします。

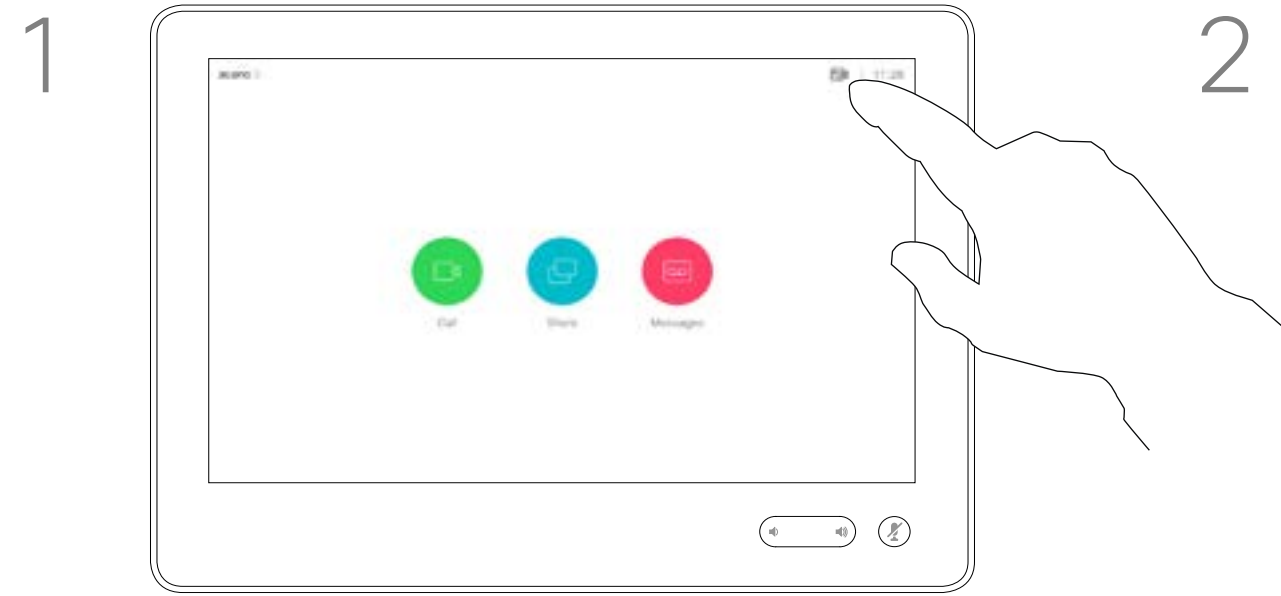


6 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

カメラ 自画面の管理

プリセットの編集について

非通話時の場合



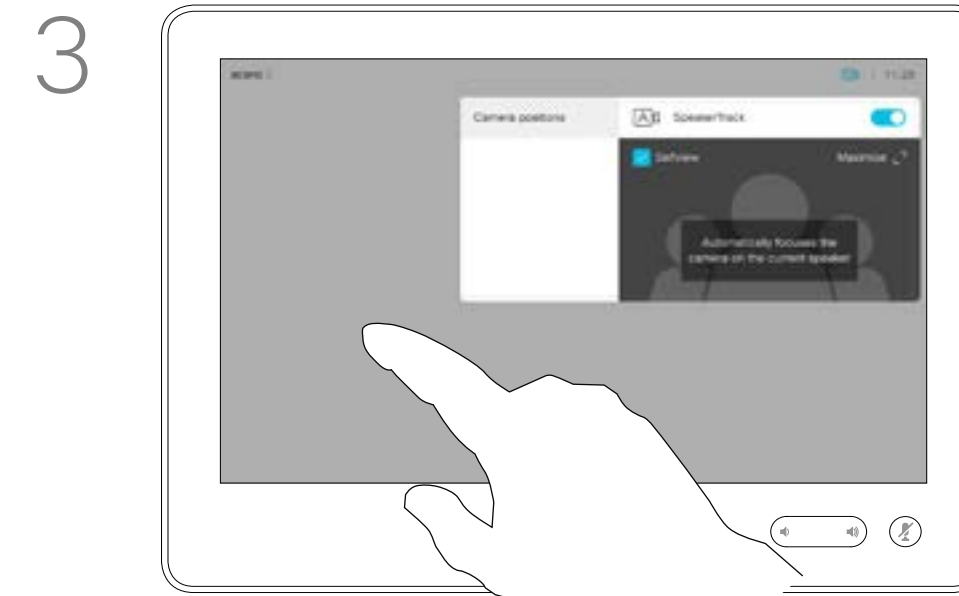
1 通話中または通話外で(図は通話外)、[カメラ(Camera)] をタップします。



2 [自画面 (Selfview)] をタップしてオンにします。

この後、セルフビューのサイズを変更(詳細は次のページを参照)したり、カメラのパン、傾斜、ズームを制御(詳細は前のページを参照)したりできます。

同じ操作を繰り返して自画面を再度オフにします。



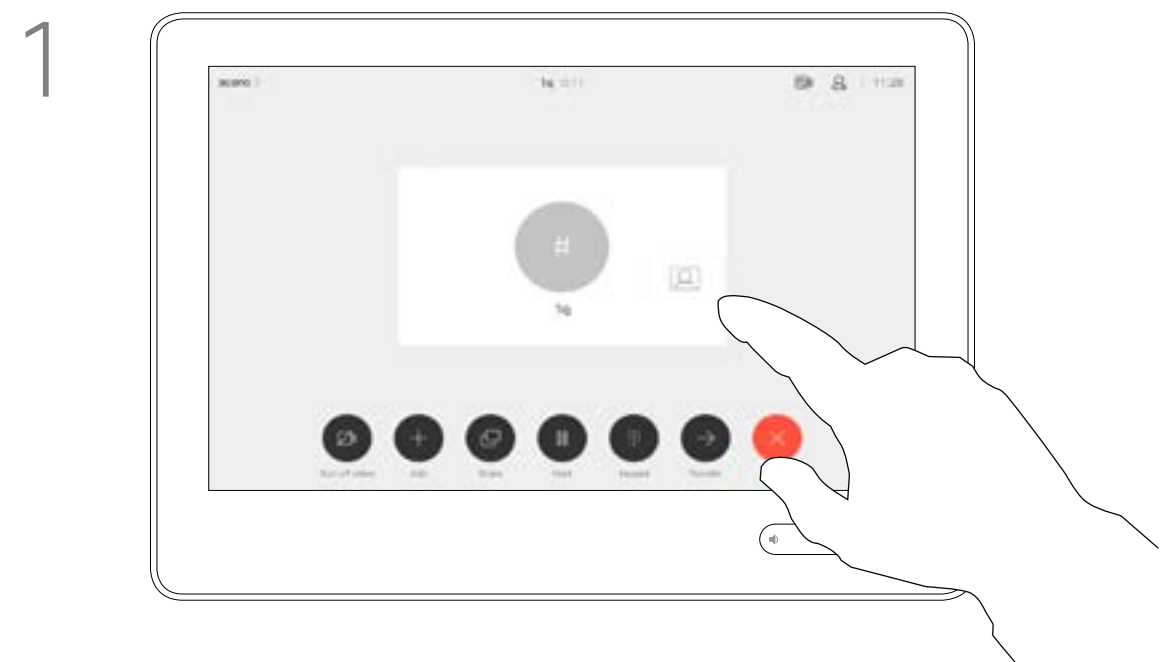
3 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

セルフビューは、他の参加者に表示される画面です。通常は、こちらが意図しているとおりに他の参加者に見えるかを確認するためにセルフビューを使用します。

自画面は PiP(Picture-in-Picture)として表示されますが、全画面表示で表示されます(次ページ参照)。

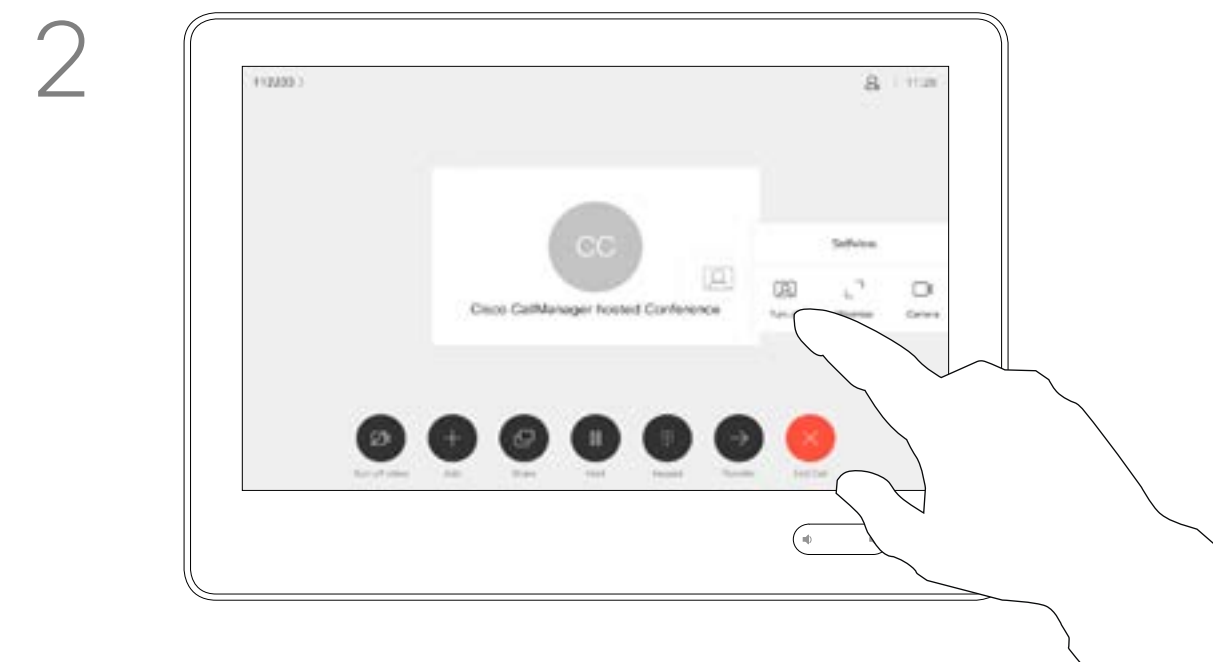
自画面 PiP の位置は、通話中でも非通話時でも変更できます。詳細については、2 ページ先を参照してください。

通話中の場合



1 通話中に自画面をオフにする場合、図のようにセルフビューのアバターをタップします。

通話中に自画面をオンにするには、上記(非通話時の場合)で説明した操作を実行します。



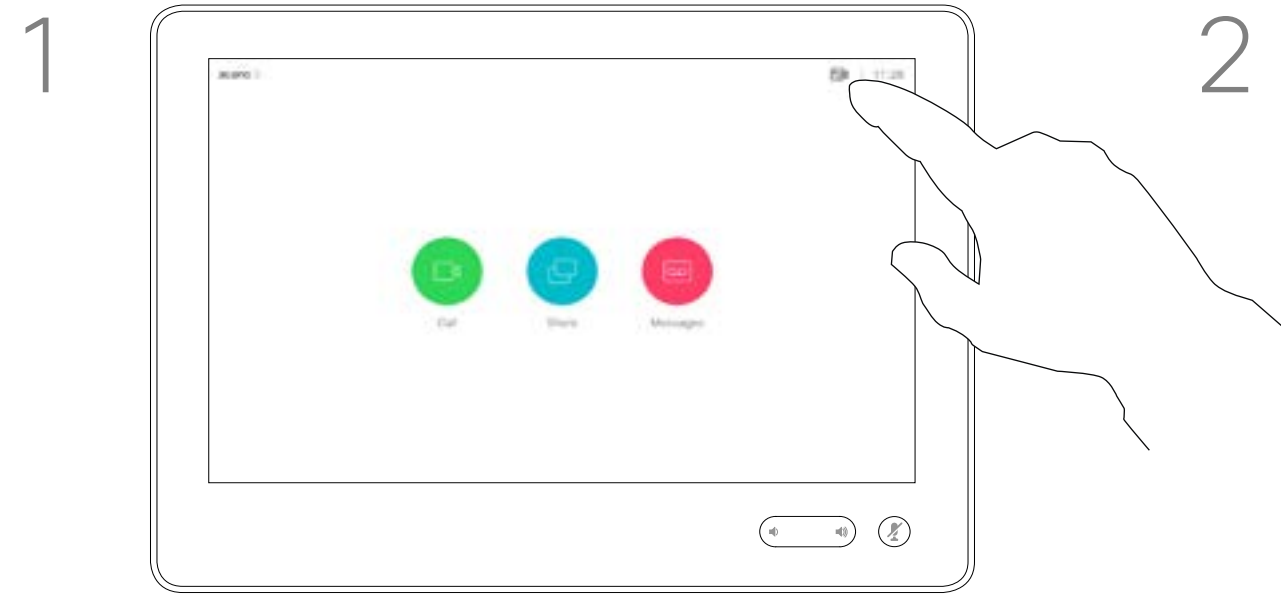
2 図のように [オフにする(Turn off)] をタップします。

カメラ

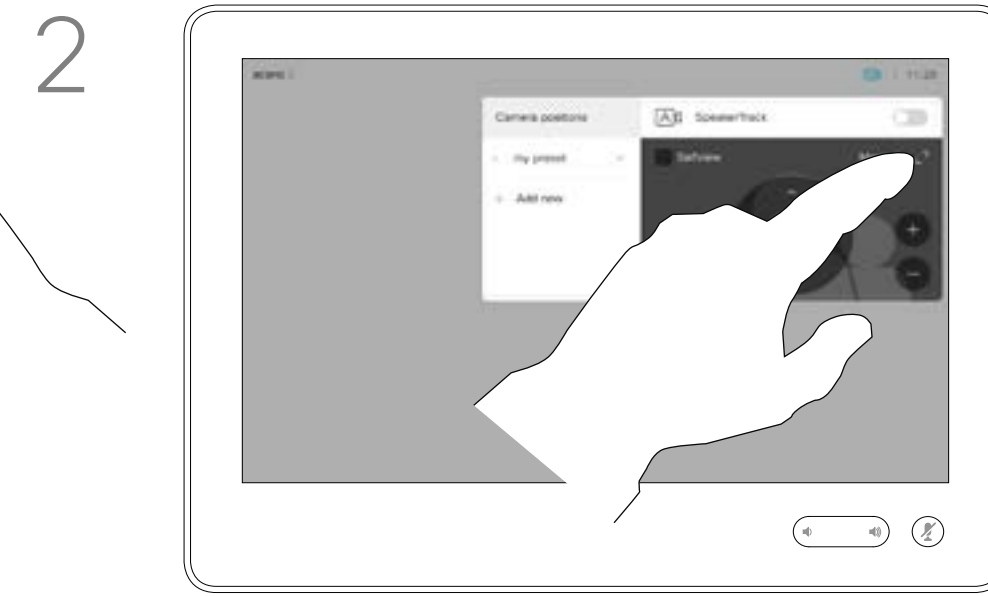
セルフビュー PiP のサイズを変更する

自画面のサイズを変更する理由

非通話時の場合

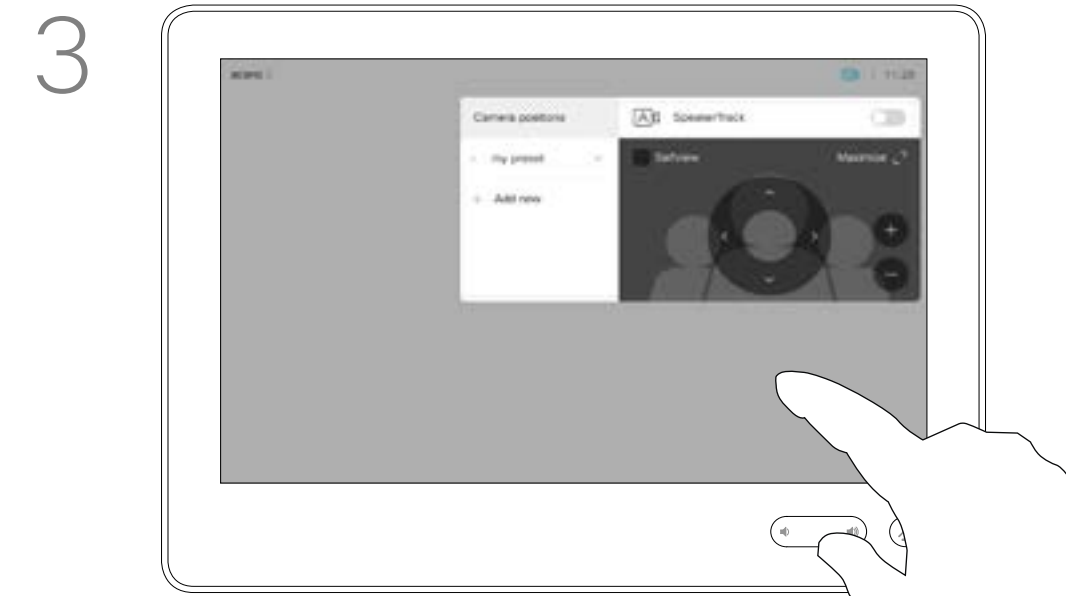


1 通話中または通話外で(図は通話外)、[カメラ(Camera)] をタップします。



2 自画面の画像のサイズを変更するには、[最大化 (Maximize)] をタップします。

同じ操作を繰り返して画像を最小化します。



3 完了したらメニュー以外の場所をタップします。

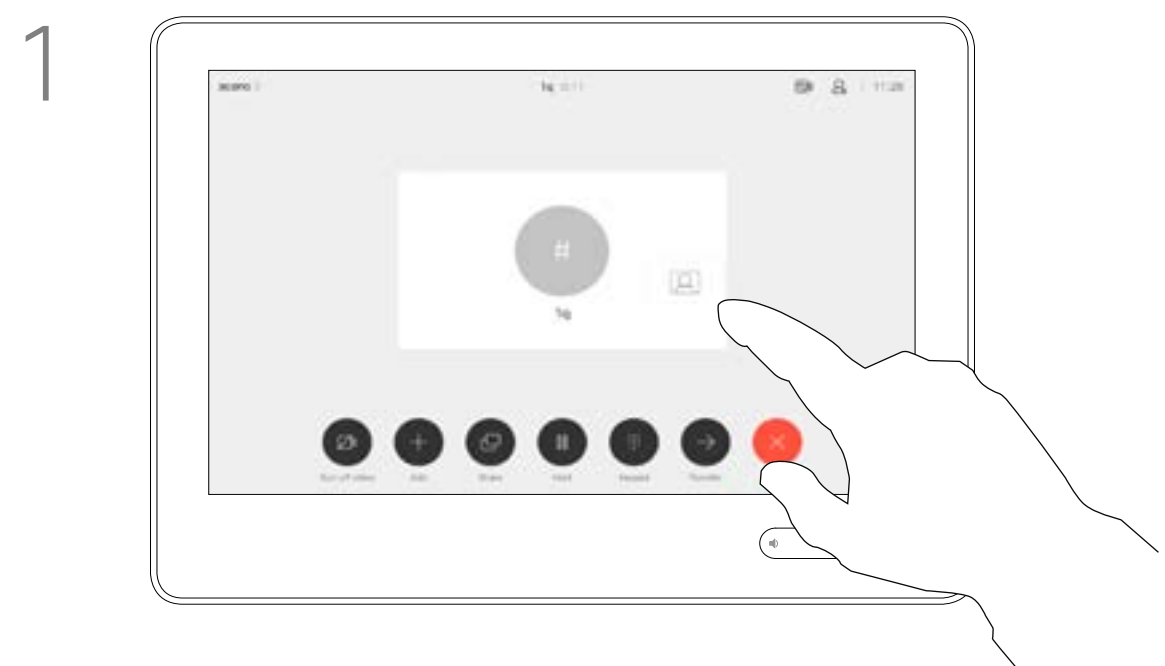
セルフビューは、他の参加者に表示される画面です。通常は、こちらが意図しているとおりに他の参加者に見えるかを確認するためにセルフビューを使用します。

セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

会議中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。

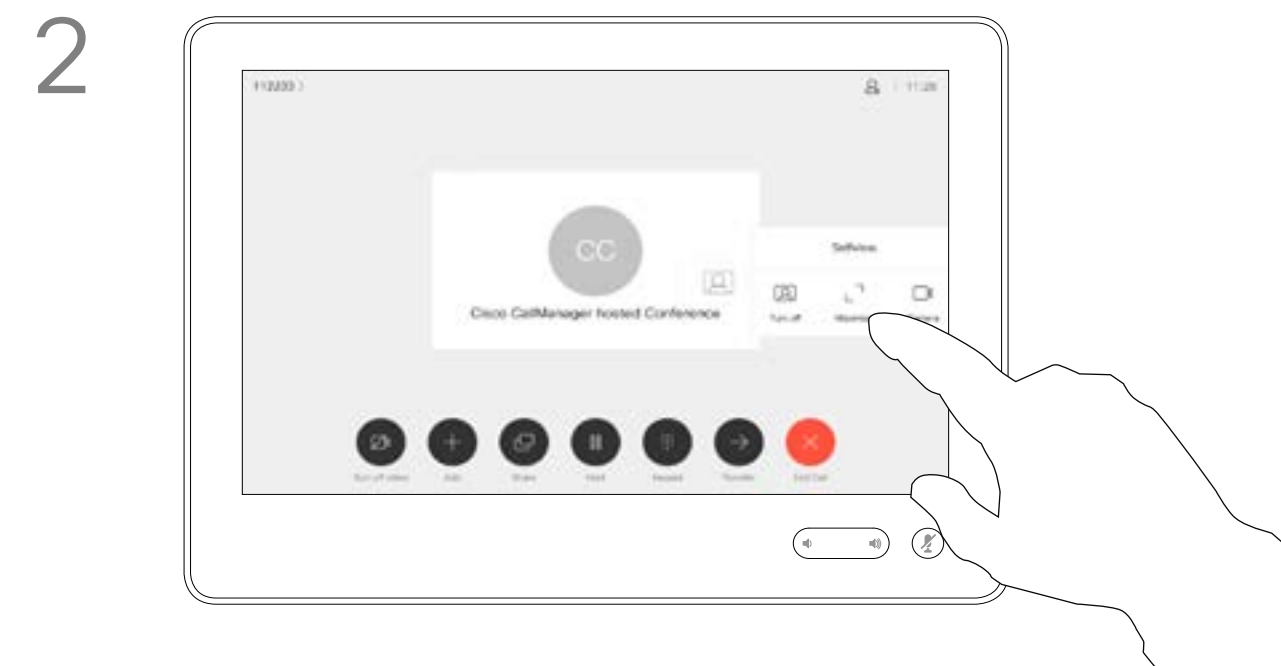
カメラをズーム、パン、または傾斜して、他の参加者へより快適なビューを提供できます。見やすくするために、自画面を最大化できます。

通話中の場合



1 通話中に自画面をオフにする場合、図のようにセルフビューのアバターをタップします。

通話中に自画面をオンにするには、上記(非通話時の場合)で説明した操作を実行します。



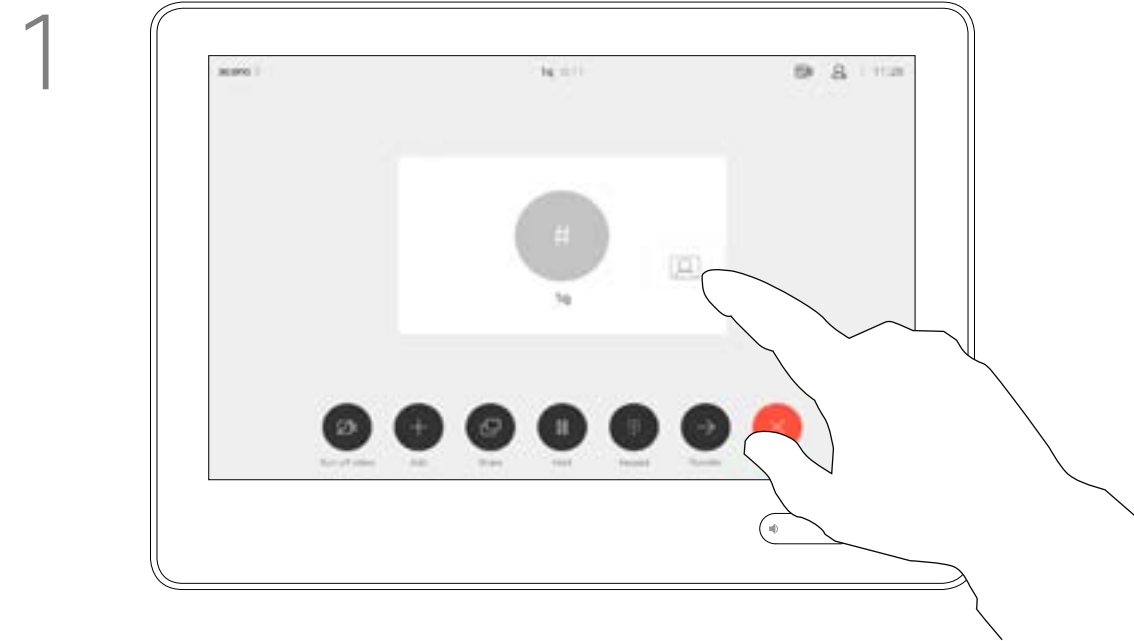
2 自画面の画像のサイズを変更するには、図のように [最大化 (Maximize)] をタップします。

同じ操作を繰り返して画像を最小化します。

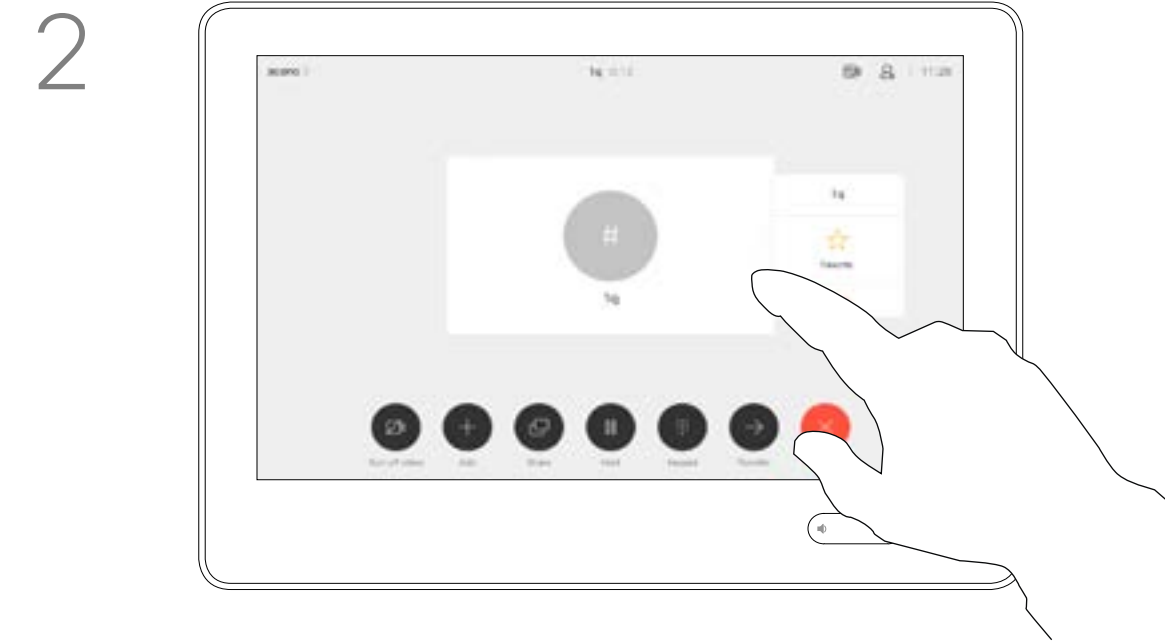
カメラ

自画面 PiP の移動

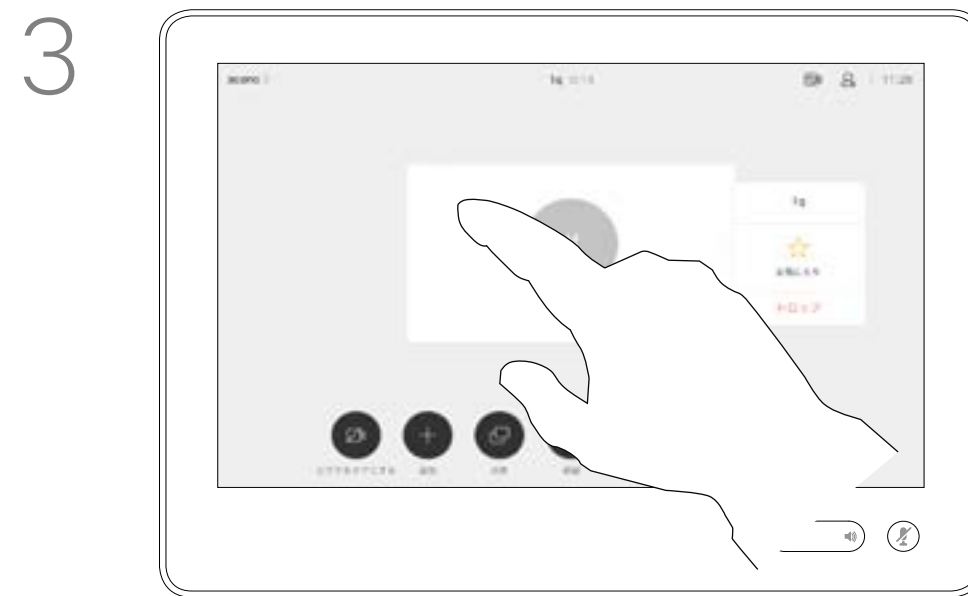
セルフビューを移動する理由



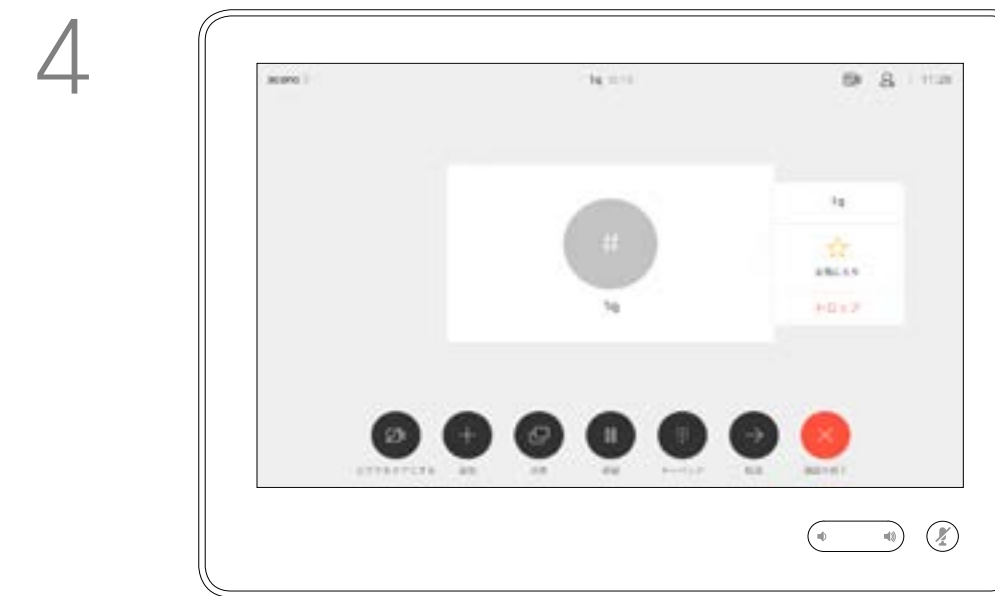
セルフビュー画像をタップして、長押しします。



自画面の画像が青になりました。自画面の画像を移動できる位置も表示されます。画像をタップしたままにします。



画像を新しい位置にドラッグします(ここでは左上隅に表示します)。



画面から指を離して、画像を放します。自画面の画像が新しい位置に移動しました。

自画面には、ビデオ システムから他者に見える内容が表示されます。通常は、こちらが意図しているとおりに他の参加者に見えているかを確認するためにセルフビューを使用します。

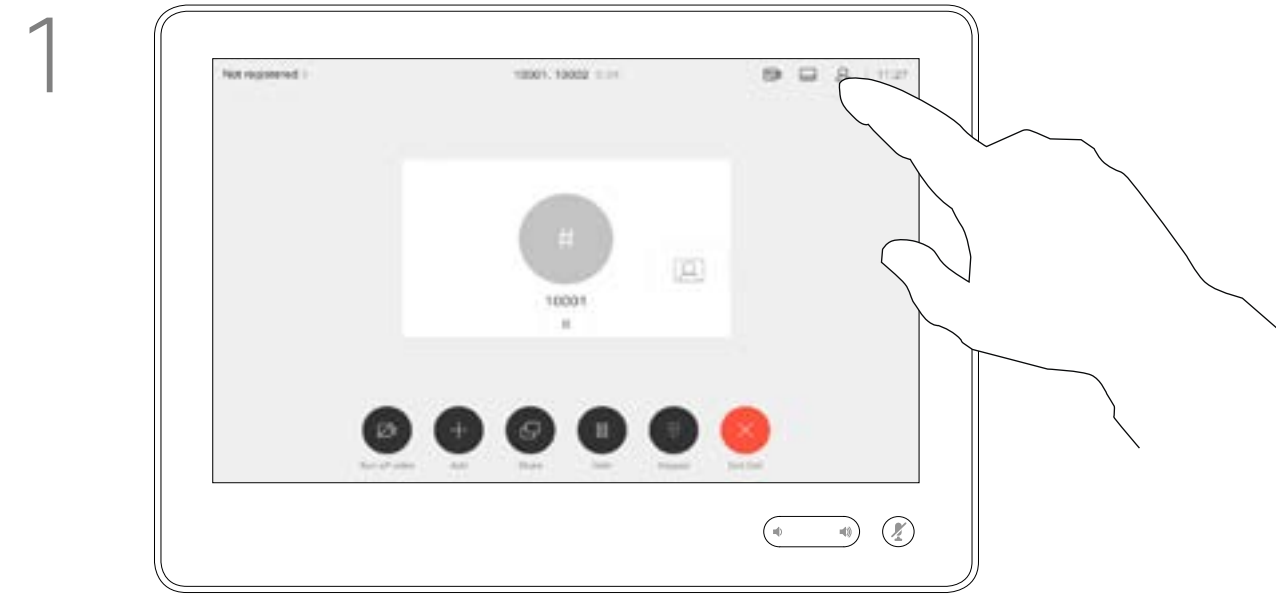
セルフビューは、PiP(ピクチャ イン ピクチャ)として表示されます。

会議中に、セルフビューをアクティブにしたいときがあります。たとえば、画面に自分を表示したままにしたい場合です。

自画面の現在の位置により、画面上で画像の重要な部分が見えなくなる場合があります。このような場合は、セルフビューを移動できます。

カメラ 遠端カメラ制御

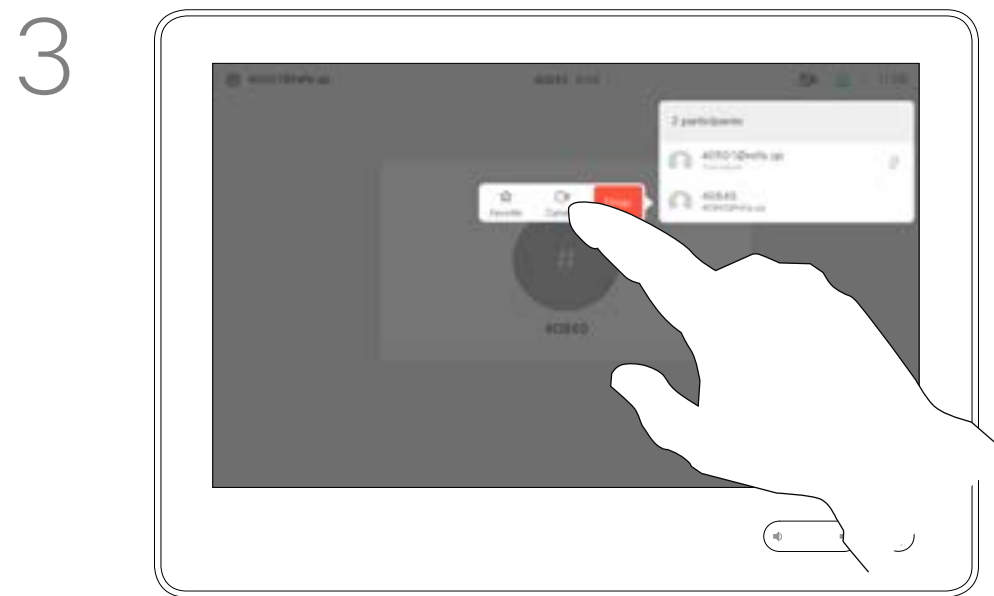
カメラ操作について



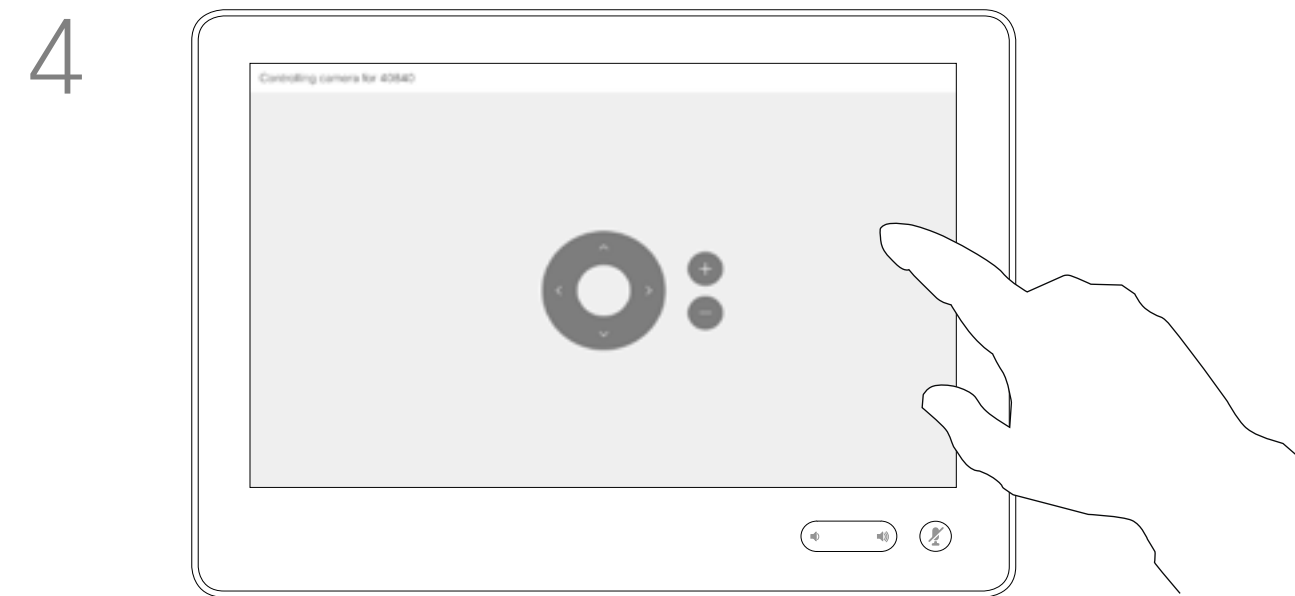
1 通話中に、図のように、右上隅の参加者アイコンをタップして、参加者リストを呼び出します。



2 制御対象のカメラを持つ出席者をタップします。



3 カメラをタップします。



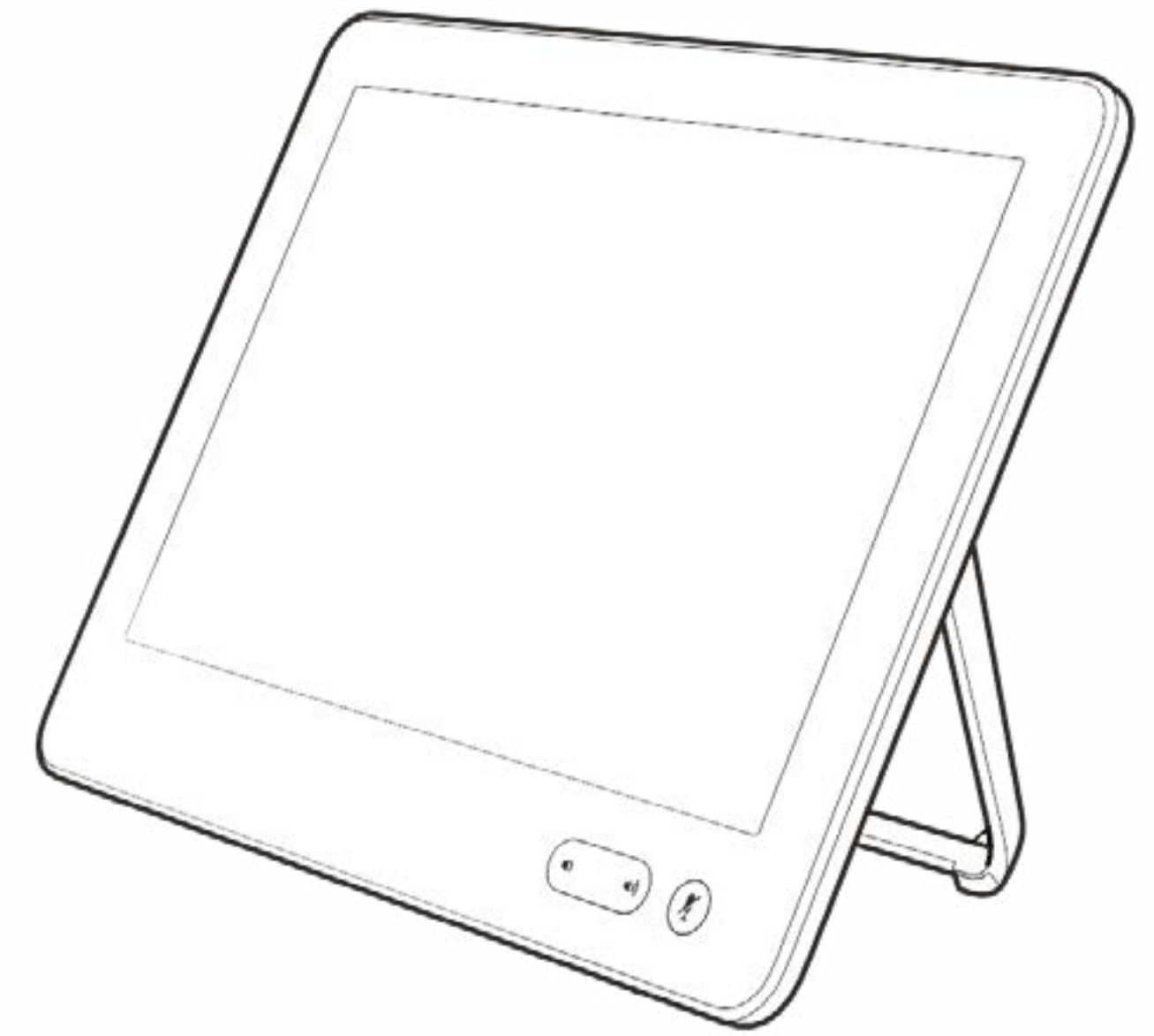
4 リモート カメラを調整します。完了したらカメラ制御ボタン以外の場所をタップします。

ビデオ通話中に、1 つ以上の通話先のビデオ システムにリモート制御可能なカメラがある場合があります。

これらのカメラを自身のビデオ システムから制御することができます。これは遠端カメラ制御(FECC)と呼ばれます。

遠端システムによってカメラトラッキングがアクティブ化されている場合(この場合、カメラがプレゼンターを追跡し、表示します)、FECC のオプションは提供されません。

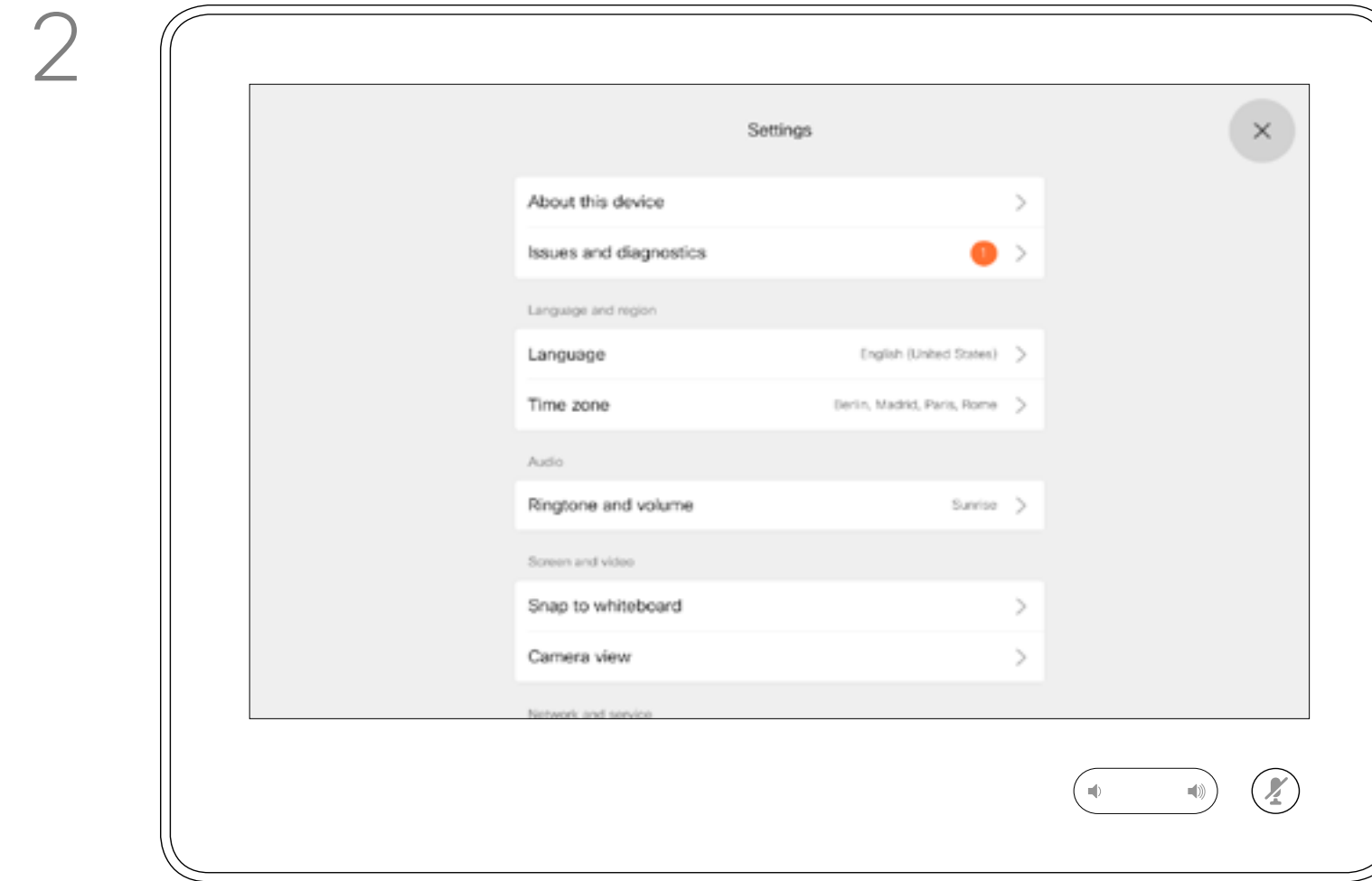
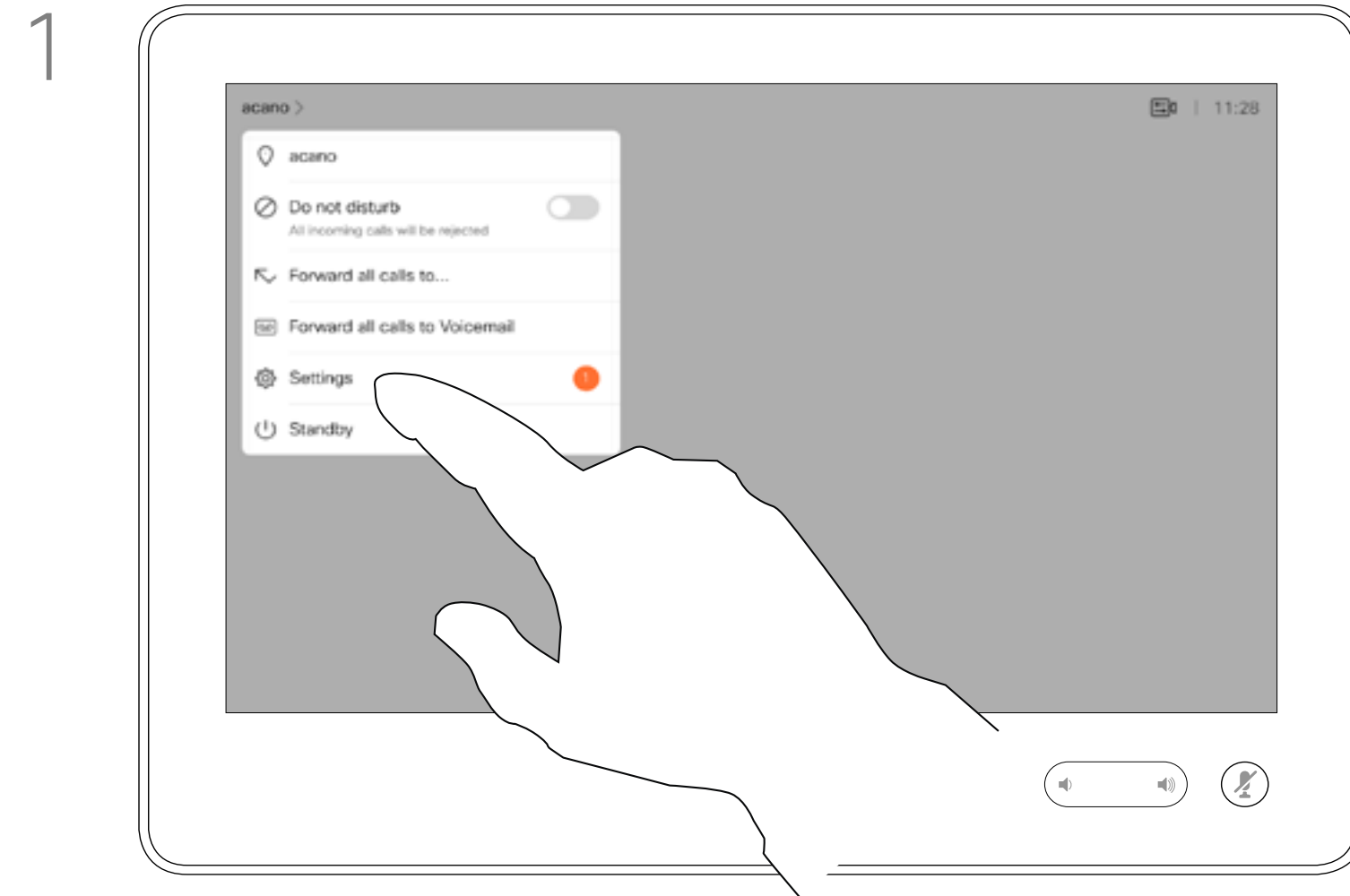
リモート カメラ プリセットにアクセスすることはできません。



設定

設定 設定にアクセスする

バージョン情報管理



詳細設定を行う必要がある場合、Web インターフェイスからシステムにアクセスする必要があります。そのためには、管理者の資格情報が必要です。

[システム情報(System Information)] ページには、IP アドレス、MAC アドレス、SIP プロキシ、インストールされているソフトウェアのバージョン、デバイス名などの情報が表示されます。

また、便利な設定を行う際に役に立つ一連のウィザードが含まれています。

ビデオ サポート チームによって、左および左端に表示されるメニューやオプションへのアクセスが無効になっている場合があることにご注意ください。



アメリカ本部
Cisco Systems, Inc.
San Jose, CA

アジア太平洋本部
Cisco Systems (USA) Pte. Ltd.
シンガポール

ヨーロッパ本部
Cisco Systems International BV Amsterdam, The Netherlands

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号はシスコの Web サイト(www.cisco.com/go/offices)をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、米国、およびその他の国における Cisco Systems, Inc.、およびその関連会社の商標です。Cisco の商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks でご確認いただけます。その他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用は Cisco と他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1005R)